

日野市

子どもの生活実態調査

(生活困窮者にかかる分析)

目 次

1. 生活困窮層にかかる分析の概要	1
(1)「生活困難」について	1
① 所得の状況	1
② 家計のひっ迫の度合い	1
③ 子どものときの体験活動や所有物の欠如	1
(2)生活困難層の割合	3
① 概況	3
② 小学5年生の分析	4
③ 中学2年生の分析	4
④ 16～17歳の分析	5
(3)生活困窮層と、世帯構成との関係について	6
① 世帯構成の分け方について	6
② 小学5年生	6
③ 中学2年生	7
④ 16～17歳	7
2. 主要項目における生活困窮者の状況(その1 子ども本人調査票)	8
(1)必要な物品の所有状況(欲しいが、持っていない人の割合)	8
① 小学5年生(問5)	8
② 中学2年生(問5)	8
③ 16～17歳(問5)	9
(2)進学の見込みについて(小中間6-3、16～17問7)	10
(3)日常の生活習慣	11
① 放課後をだれと過ごすか(問9)	11
② 放課後の過ごし方(問10)	12
③ 30分以上からだを動かすこと(問16)	13
④ 一ヶ月間で本を何冊読んでいるか(問17)	13
⑤ 学校に行く日の朝食の習慣(問19)	14
④ 家事の状況(小中間15E、16～17歳問15E)	14
⑤ きょうだいなどの世話(小中間15E、16～17歳問15E)	15
⑥ 食事の状況(小中のみ問19)	15
⑦ 食事の満足度(小中間23)	18
(4)健康状態	19
① 健康状態全般(小中間24、16～17歳問26)	19
② 虫歯の有無(小中間25)	19
③ 必要なときに医者にかかるかどうか(16～17歳 問27.28)	20
(5)学習	20
① 学校の授業で分からないことがあるか(小中間27)	20
② あなたの成績(小中間29)	21

③ 勉強時間(小中間 31)	22
④ 学習塾や家庭教師(小中間 32)	22
⑤ 自宅での教材の利用状況(小中間 33)	23
⑥ 補習への参加状況(小中間 34)	23
⑦ 夏休みの水泳教室等への参加状況(小中間 35)	24
⑧ 私立高校の進学の見直しについて(16～17 歳問 30-4)	24
⑨ 公立高校に進学した理由(16～17 歳問 30-5)	25
⑩ 学校が楽しいかどうか(16～17 歳問 31)	25
⑪ 学校の授業でわからないことがあるか(16～17 歳問 33)	26
⑫ 塾や予備校の利用状況(16～17 歳 問 36)	26
(6)就労	27
①就労の有無(16～17 歳 問 29)	27
② 生活費を同居・別居の家族に渡しているか(16～17 歳 問 29-9)	27
(7)感染症の影響	28
① (小中間 37)	28
② 学校が休みだったときの平日(月曜日～金曜日)の昼食(小中間 39)	29
(8)家庭の状況について(小中間 44)	30
(9)幸福度(10 点が満点、小中間 45、16～17 問 47)	31
3. 主要項目における生活困窮者の状況(その2 保護者調査票)	32
(1)保護者の状況	32
① 婚姻状況(小中間5、16～17 問4)	32
② 養育費の取り決めについて(小中間5-1、16～17 問4-1)	32
③ 病気のときに頼れる人がいるか(小中間9)	33
④ 家族の中に、高齢であったり障害があったりする方の有無(小中間8)	33
④ 保護者の国籍との関係(小中間 10、16～17 問 8)	34
(2)家の状況	35
① 部屋数(小中間 11-1、16～17 問 9-1)	35
② 部屋の合計の広さ(小中間 11-1、16～17 問 9-1)	35
(3)住居費負担の状況(小中間 11、16～17 問 9)	36
① 持ち家か賃貸か	36
② 1ヶ月あたりのローン返済額(持ち家)(小中間 11-2、16～17 問 9-2)	36
③ 家賃等(賃貸住宅)	37
④ 共益費・管理費(賃貸住宅)	37
(4)就労状況	38
① 母親(小中間 12、16～17 問 11)	38
② 父親(小中間 13、16～17 問 12)	39
③ 新型コロナウイルスによる勤務の影響(小中間 14、16～17 問 13)	40
(5)どの段階まで教育を受けさせるか	42
(6)保護者と子どもの BMI について	43
① 保護者本人の BMI について(小中間 17、16～17 問 16)	43

② 子どものBMIについて.....	43
(7)健康状態について.....	44
① 保護者の健康状態(小中間 18-1、16~17 問 17-1).....	44
② 子どもの健康状態(小中間 18-2、16~17 問 17-2).....	44
③ 医療機関への受診が必要であるが、受診しなかった経験の有無.....	45
④ 予防接種の状況(小中間 20).....	45
(8)就学支援について.....	47
① 就学支援の受け取り状況(小中間 25).....	47
② 就学支援を受け取っていない理由(小中間 25-2).....	48
(9)朝食の状況.....	48
(10)子どもとのコミュニケーション.....	49
① お子さんと進路の話をしているか(小中間 31、16~17 問 29).....	49
② お子さんと十分に過ごす時間がとれているかどうか(小中間 32、16~17 問 30).....	49
(11)現在の暮らしの状況.....	50
① 現在の暮らしの状況(小中間 33、16~17 問 31).....	50
② 家計の状況(小中間 34、16~17 問 32).....	50
③ 経済的理由のため、家がないもの(小中間 40、16~17 問 38).....	51
(12)保護者の最終学歴.....	52
① 母親(小中間 41、16~17 問 39).....	52
② 父親(小中間 42、16~17 問 40).....	53
(13)保護者が子どもの時の家庭環境.....	53
① 回答者が 15 歳のときの家庭状態(小中間 43、16~17 問 41).....	53
② 保護者が 15 歳のときの家計のゆとりの状況(小中間 44、16~17 問 42).....	54
③ 保護者が成人する前の体験(小中間 45、16~17 問 43).....	54
④ お子さんが生まれてからの経験(小中間 46、16~17 問 44).....	56
(14)施策の周知状況.....	58
① 情報の現在の受け取り方法(小中間 47、16~17 問 45).....	58
② 返済不要の奨学金の周知状況(小中間 48、16~17 問 46).....	61
③ 奨学金の利用意向(小中間 49、16~17 問 47).....	61
④ 各種支援制度の利用状況(小中間 50、16~17 問 48).....	62
⑤ 各種支援制度の利用意向(小中間 50-1、16~17 問 48-1).....	65
⑥ 各種支援制度の利用状況 続(小中間 51、16~17 問 49).....	67
⑦ 各種支援制度の利用意向 続(小中間 51-1、16~17 問 49-1).....	70
⑦ 相談できる人の有無(小中間 52、16~17 問 50).....	71
⑧ 公的相談の利用状況(小中間 53、16~17 問 51).....	72
(15)幸福度(10 点満点).....	74

1. 生活困窮層にかかる分析の概要

(1) 「生活困難」について

本報告では、子供の生活における「生活困難」を、3つの要素から分析を行いました。

- ① 所得の状況
- ② 家計のひっ迫の度合い
- ③ 子どものときの体験活動や所有物が無い

生活困難に関する分析においては、東京都で平成 28 年度に実施した「東京都子供の生活実態調査報告書」の中で示された生活困難の考え方を参考しながら、一部定義の変更を行いましたので、同調査と単純な比較はできません。

① 所得の状況

所得の状況については、本調査では8つの金銭区分による「選択式」としています。選択式のため、月額と年額の取り違えによる誤記の防止には役立つ反面、年収と家族の人数から低所得世帯水準を求める手法は利用できないため、本調査では年収 0~200 万円未満と回答した人と「低所得」と位置づけています。

② 家計のひっ迫の度合い

経済的な理由で、公共料金や家賃などを支払うことができなかった経験について、8項目について質問して、1項目でも「あった（よくあった、ときどきあった）」に回答した人を対象としています。

③ 子どものときの体験活動や所有物の欠如

子どもの体験活動や所有物がなかった経験を、14項目について質問して、その中で「経済的にできない」に3項目以上回答した人を対象としています。

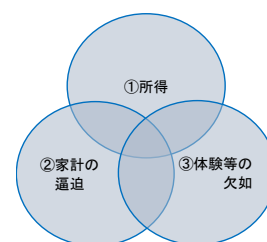
また、生活困窮者層の分析においては、「保護者がアンケートに回答している方」を対象としているため、保護者調査票に未回答の場合は、「無効票」として、対象から除外しています。

図 本分析における「生活困難」の定義について

対象者【保護者調査票を提出した方】	① (低所得)	所得の状況 小学生保護者 問 27 中学生保護者 問 27 16～17 歳保護者 問 25	選択肢で 1 収入はない(0円) 2 1～50 万円未満 3 50～100 万円未満 4 100～200 万円未満 を選択した方を対象	
	② 家計のひっ迫	公共料金等の支払い 小学生保護者 問 36 中学生保護者 問 36 16～17 歳保護者 問 34	以下の7項目で「あった」と回答した方 A 通信費(インターネット利用料を含む) B 電気料金 C ガス料金 D 水道料金 E 家賃 F 住宅ローン G その他の債務	1 項目以上該当
		買えない経験 小学生保護者 問 35 中学生保護者 問 35 16～17 歳保護者 問 33	以下の2項目で「よくあった」「ときどきあった」と回答した方 A 食料 B 衣服	
③ 体験等の欠如	体験活動の有無 小学生保護者 問 30 中学生保護者 問 30 16～17 歳保護者 問 28	以下の5項目で、「金銭的な理由で(ない)」に回答した方 A 海水浴に行く B 博物館・科学館・美術館などに行く C キャンプやバーベキューに行く D スポーツ観戦や劇場に行く E 遊園地やテーマパークに行く	3 項目以上該当	
	所有物等の状況 小学生保護者 問 39 中学生保護者 問 39 16～17 歳保護者 問 37	以下の8項目で、「経済的な理由で(ない)」に回答した方 A 毎月お小遣いを渡す B 毎年新しい洋服・靴を買う C 習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる D 学習塾に通わせる(または家庭教師に来てもらう) E お誕生日のお祝いをする F 1年に1回くらい家族旅行に行く G クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる H 子どもの学校行事などへ親が参加する		
未回答 保護者調査票	本分析の対象外			

上記、①～③のうち、2つ以上該当する場合を「困窮層」、1つ該当する場合を「周辺層」として、両者を「生活困難層」と位置づけました。

生活困難層	困窮層+周辺層
困窮層	2つ以上が該当
周辺層	1つが該当
一般層	いずれの要素にも該当しない



(2) 生活困難層の割合

① 概況

今回のアンケート結果をもとに、生活困難層の割合について求めました。

その結果、全回答者のうち、「困窮層」は3.6%、「周辺層」は10.8%であり、「困窮層」「周辺層」をあわせた「生活困難層」は14.4%となっています。

これを年齢別でみると、16～17歳の方では、「生活困難層」の割合が15.4%とやや高くなっています。

図 困窮層、周辺層、一般層の割合

		回答者数	生活困難層			一般層
			困窮層	周辺層	小計	
全体	人数	2,710	97	293	390	2,320
	構成比		3.6%	10.8%	14.4%	85.6%
小学5年生	人数	1,199	31	133	164	1,035
	構成比		2.6%	11.1%	13.7%	86.3%
中学2年生	人数	1,064	47	110	157	907
	構成比		4.4%	10.3%	14.8%	85.2%
16～17歳	人数	447	19	50	69	378
	構成比		4.3%	11.2%	15.4%	84.6%

これを、3つの生活困難別の項目で見ると、全体で「②家計のひっ迫」がいずれの年齢でも高くなっているのが特徴です。

また、「③体験等の欠如」については、年齢が高くなるにつれて、該当する人の割合が増えていくのが特徴となっています。

図 生活困難度項目別割合

		回答者数	①低所得	②家計の 逼迫	③体験等 の欠如
全体	人数	2,710	136	238	131
	構成比		5.0%	8.8%	4.8%
小学5年生	人数	1,199	59	98	42
	構成比		4.9%	8.2%	3.5%
中学2年生	人数	1,064	54	104	57
	構成比		5.1%	9.8%	5.4%
16～17歳	人数	447	23	36	32
	構成比		5.1%	8.1%	7.2%

② 小学5年生の分析

小学5年生では、3項目とも該当するのは0.3%となっています。

2項目の該当で最も多いのは、「②家計のひっ迫+③体験等の欠如」で1.6%となっています。

表 生活困窮層の割合（小学5年生）

困窮層	3項目とも該当		0.3%	2.6%
	2項目が該当	①低所得+②家計のひっ迫	0.3%	
		①低所得+③体験等の欠如	0.3%	
		②家計のひっ迫+③体験等の欠如	1.6%	
周辺層	1つに該当	①低所得のみ	3.9%	11.1%
		②家計のひっ迫のみ	5.9%	
		③体験等の欠如のみ	1.3%	
困窮層と周辺層の計				13.7%

小数点以下の四捨五入の関係で、合計は一致しないことがある

③ 中学2年生の分析

中学2年生では、3項目とも該当するのは1.0%となっています。

2項目の該当で最も多いのは、「②家計のひっ迫+③体験等の欠如」で2.3%となっています。

表 生活困窮層の割合（中学2年生）

困窮層	3項目とも該当		1.0%	4.4%
	2項目が該当	①低所得+②家計のひっ迫	0.9%	
		①低所得+③体験等の欠如	0.1%	
		②家計のひっ迫+③体験等の欠如	2.3%	
周辺層	1つに該当	①低所得のみ	3.0%	11.2%
		②家計のひっ迫のみ	5.5%	
		③体験等の欠如のみ	1.9%	
困窮層と周辺層の計				14.8%

小数点以下の四捨五入の関係で、合計は一致しないことがある

④ 16～17 歳の分析

16～17 歳では、3項目とも該当するのは 0.7%となっています。

2項目の該当で最も多いのは、「②家計のひっ迫+③体験等の欠如」で 3.1%となっています。

表 生活困窮層の割合（中学2年生）

困窮層	3項目とも該当		0.7%	4.3%
	2項目が該当	①低所得+②家計のひっ迫	0.2%	
		①低所得+③体験等の欠如	0.2%	
		②家計のひっ迫+③体験等の欠如	3.1%	
周辺層	1つに該当	①低所得のみ	4.0%	10.3%
		②家計のひっ迫のみ	4.0%	
		③体験等の欠如のみ	3.1%	
困窮層と周辺層の計				15.4%

小数点以下の四捨五入の関係で、合計は一致しないことがある

(3) 生活困窮層と、世帯構成との関係について

① 世帯構成の分け方について

世帯構成の分け方については、今回の分析では、以下の 4 通りの世帯に分類しました。

分類	内容	祖父母の有無
1. 父親（ひとり親）	母親がいない世帯	あり・なし
2. 母親（ひとり親）	父親がいない世帯	あり・なし
3. ふたり親（2世代）	父母ともいる世帯	なし
4. ふたり親（3世代）	父母ともいる世帯	あり

今回、ひとり親世帯を、父親、母親で分けたのは、同じひとり親でも特性が異なることが予測されるため、2つのカテゴリーに分けました。

生活困窮層と世帯構成の関係は以下の通りです。

② 小学5年生

小学5年生では、困窮者、周辺層のうち、「母親（ひとり親）」の割合が多くなっており、「母親（ひとり親）」のうち、46.2%の世帯が生活困窮層となっています。

表 生活困窮層と世帯構成との関係（小学5年生）

	対象者数	困窮層	周辺層	生活困窮層	一般層
1. 父親（ひとり親）	13人	0.0%	7.7%	7.7%	92.3%
2. 母親（ひとり親）	78人	12.8%	33.3%	46.2%	53.8%
3. ふたり親（2世代）	997人	1.9%	9.4%	11.3%	88.7%
4. ふたり親（3世代）	86人	2.3%	12.8%	15.1%	84.9%
合計（平均）	1,199人	2.6%	11.1%	13.7%	86.3%

小数点以下の四捨五入の関係で、合計は一致しないことがある
対象者数の合計には、父母を含まない世代構成の方を含む

③ 中学 2 年生

中学 2 年生では、困窮者、周辺層のうち、「母親（ひとり親）」の割合が多くなっており、「母親（ひとり親）」のうち、46.3%の世帯が生活困窮層となっています。

なお、「母親（ひとり親）」を小学 5 年生と比較すると、「困窮層」の割合が約 2 倍となっており、子どもの年齢が上がるにつれ、より困窮層の割合が高くなることが特徴となっています。

また、「ふたり親（3 世代）」の困窮層の割合も、小学 5 年生の 2.3%から 6.0%に増加しています。

表 生活困窮層と世帯構成との関係（中学 2 年生）

	対象者数	困窮層	周辺層	生活困窮層	一般層
1. 父親（ひとり親）	8 人	0.0%	37.5%	37.5%	62.5%
2. 母親（ひとり親）	82 人	24.4%	22.0%	46.3%	53.7%
3. ふたり親（2 世代）	801 人	2.5%	9.4%	11.9%	88.1%
4. ふたり親（3 世代）	100 人	6.0%	12.0%	18.0%	82.0%
合計（平均）	1,064 人	4.4%	10.3%	14.8%	85.2%

小数点以下の四捨五入の関係で、合計は一致しないことがある
対象者数の合計には、父母を含まない世代構成の方を含む

④ 16～17 歳

16～17 歳では、困窮者、周辺層のうち、「母親（ひとり親）」の割合が多くなっており、「母親（ひとり親）」のうち、半数以上にあたる 51.4%の世帯が生活困窮層となっており、中学 2 年生よりもさらに割合が増えています。

表 生活困窮層と世帯構成との関係（16～17 歳）

	対象者数	困窮層	周辺層	生活困窮層	一般層
1. 父親（ひとり親）	7 人	0.0%	28.6%	28.6%	71.4%
2. 母親（ひとり親）	37 人	21.6%	29.7%	51.4%	48.6%
3. ふたり親（2 世代）	336 人	2.4%	9.8%	12.2%	87.8%
4. ふたり親（3 世代）	26 人	7.3%	9.8%	17.1%	82.9%
合計（平均）	447 人	4.3%	11.2%	15.4%	84.6%

小数点以下の四捨五入の関係で、合計は一致しないことがある
対象者数の合計には、父母を含まない世代構成の方を含む

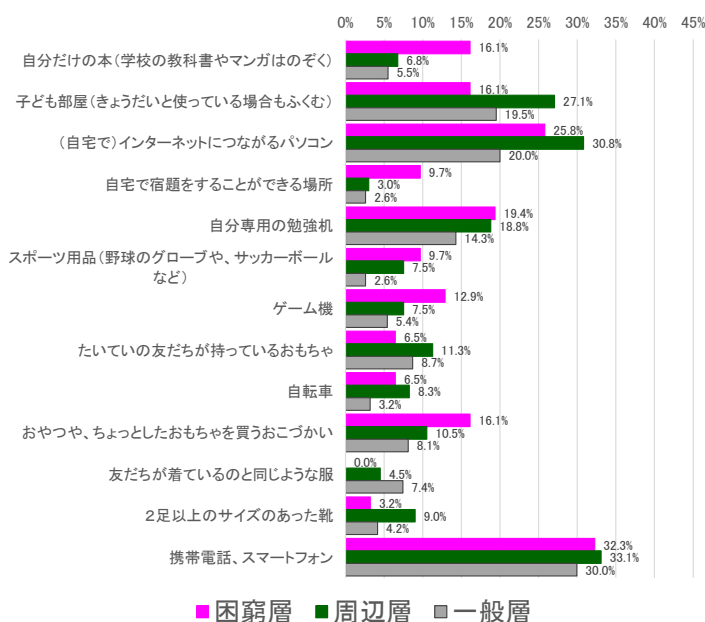
2. 主要項目における生活困窮者の状況（その1 子ども本人調査票）

（1）必要な物品の所有状況（欲しいが、持っていない人の割合）

① 小学5年生（問5）

小学5年生では、困窮層のうち、欲しいが、持っていないものの回答の割合が高いのは、「自分だけの本（学校の教科書やマンガはのぞく）」「おやつや、ちょっとしたおもちゃを買うおこづかい」「ゲーム機」となっています。

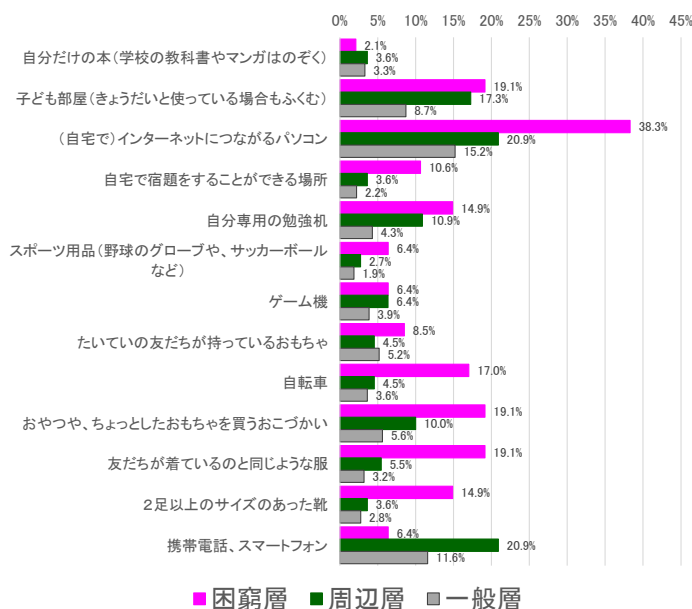
また、周辺層で割合が他より高いのは「子ども部屋（きょうだいと使っている場合もふくむ）」「（自宅で）インターネットにつながるパソコン」「2足以上のサイズのあった靴」となっています。



② 中学2年生（問5）

中学2年生では、困窮層のうち、欲しいが、持っていないものの回答の割合が高い項目数が小学5年生より増加し、「（自宅で）インターネットにつながるパソコン」「自宅で宿題をすることができる場所」「自分専用の勉強机」「たいていの友だちが持っているおもちゃ」「自転車」「おやつや、ちょっとしたおもちゃを買うおこづかい」「友だちが着ているのと同じような服」「2足以上のサイズのあった靴」で多くなっています。

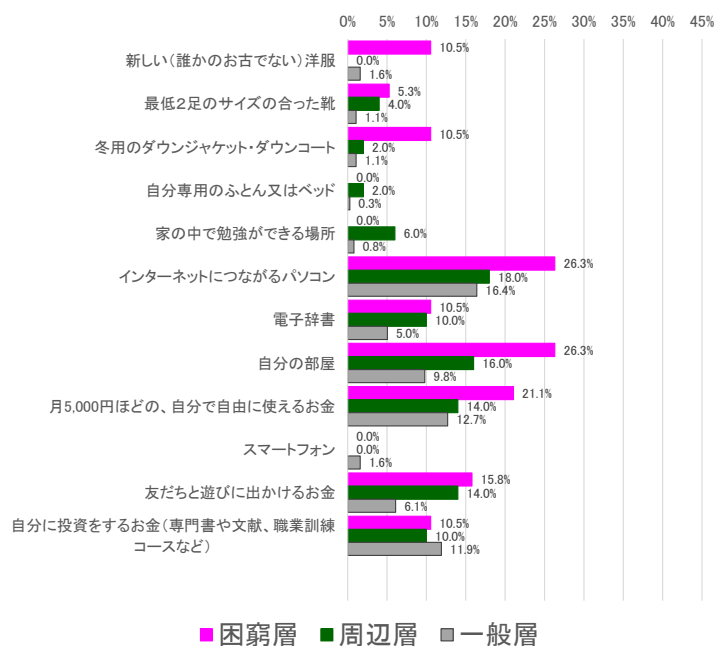
周辺層では、一般層と比較して多いのは「子ども部屋（きょうだいと使っている場合もふくむ）」「（自宅で）インターネットにつながるパソコン」「自分専用の勉強机」「おやつや、ちょっとしたおもちゃを買うおこづかい」「携帯電話、スマートフォン」となっています。



③ 16～17 歳（問 5）

16～17 歳では、困窮層のうち、欲しいが、持っていないものの回答の割合が高い項目数が中学 2 年よりは少なくなっています。

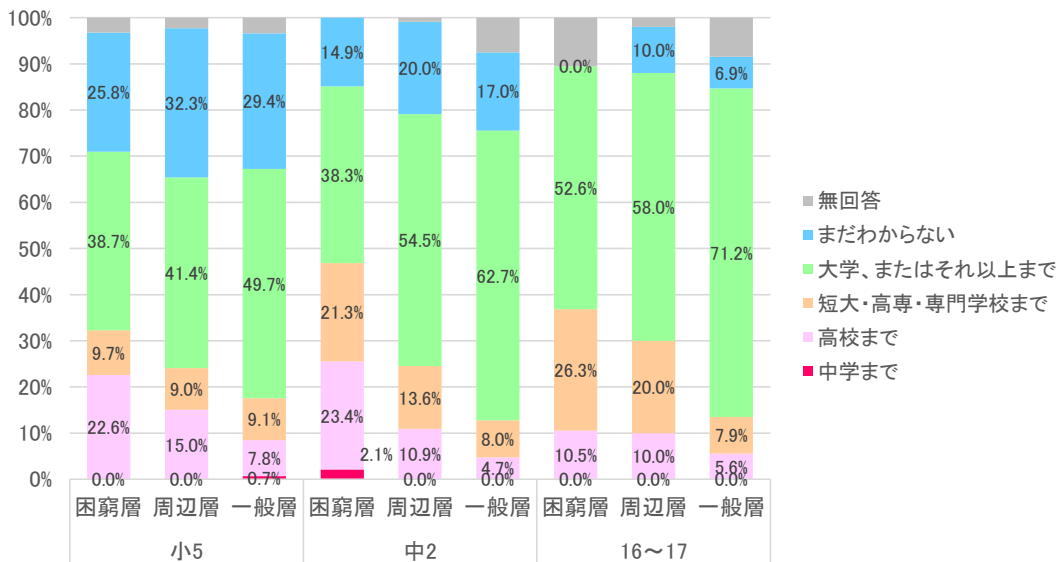
困窮層では、「持っていないが持ちたい」と思うものがよりはっきりしており、「新しい（誰かのお古でない）洋服」「冬用のダウンジャケット・ダウンコート」「インターネットにつながるパソコン」「自分の部屋」「月 5,000 円ほどの、自分で自由に使えるお金」となっています。



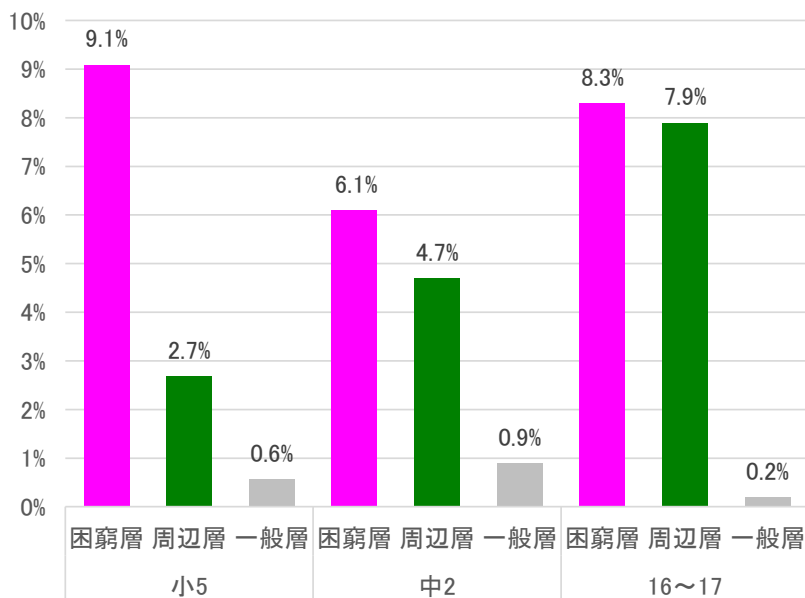
(2) 進学予定について（小中間 6-3、16～17 問 7）

進学予定については、困窮層ではいずれの年齢でも「高校まで」「短大・高専・専門学校まで」の割合が一般層より高く、「大学、またはそれ以上まで」への回答は、一般層と比較すると割合が低くなっており、年齢が上がるにつれて、一般層との開きが大きくなっていきます。

周辺層も、困窮層ほどではありませんが、同様の傾向を示しています。



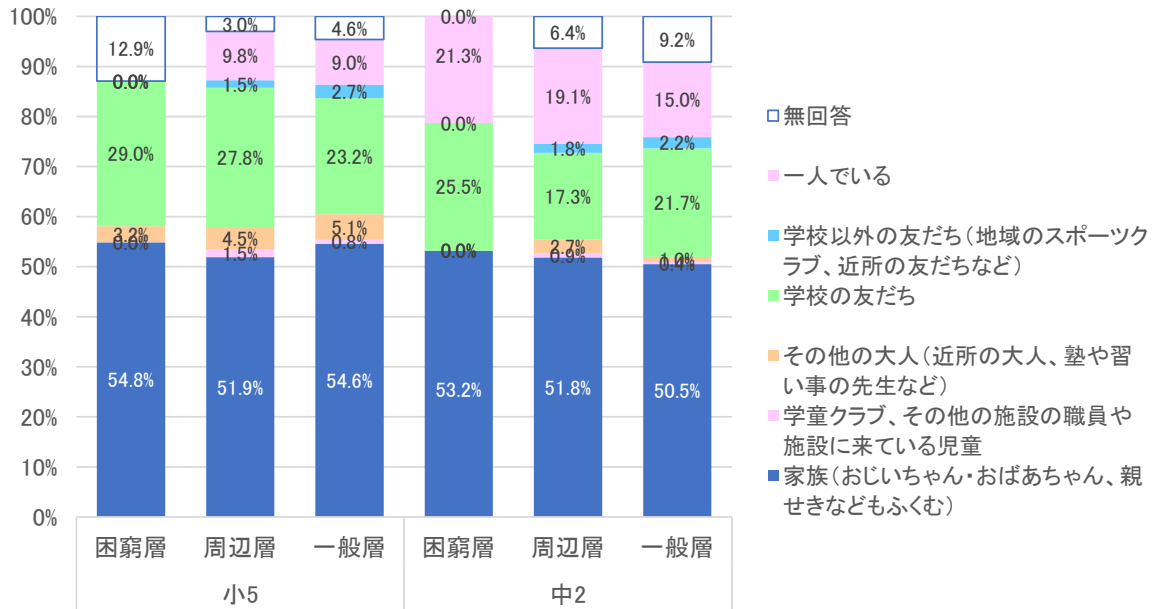
また、進学をしない理由の中で、「家にお金がないと思うから」に回答した方の比率は、いずれの年齢でも、困窮層、周辺層ともに一般層と比較して高くなっているのが特徴です。



(3) 日常の生活習慣

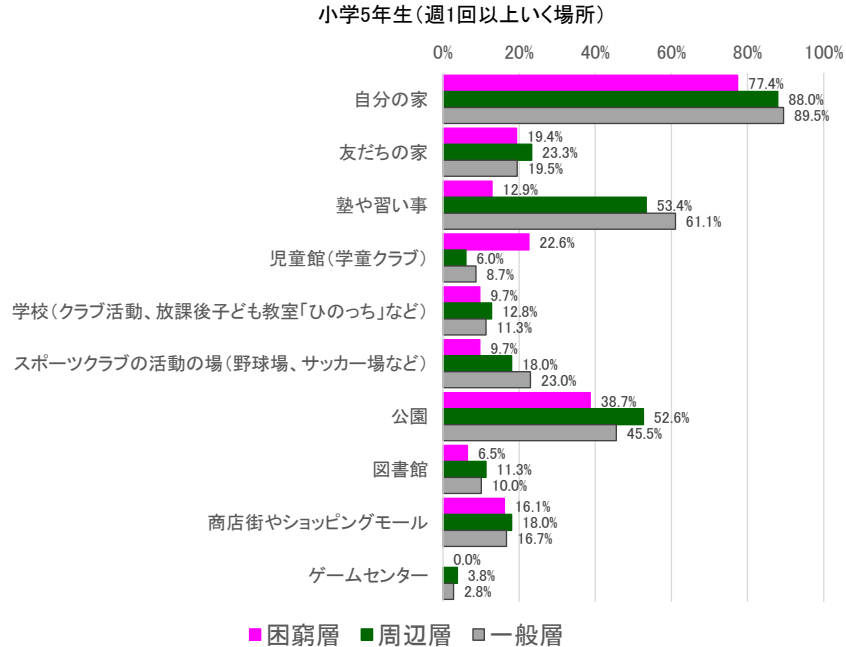
① 放課後をだれと過ごすか（問9）

放課後だれと過ごすかについては、中学生の困窮層で「一人である」が21.3%と一般層と比較すると割合がやや高くなっています。また、小5、中2ともに困窮層で「学校の友達」と回答する割合が一般層と比較すると高くなっているのも特徴です。

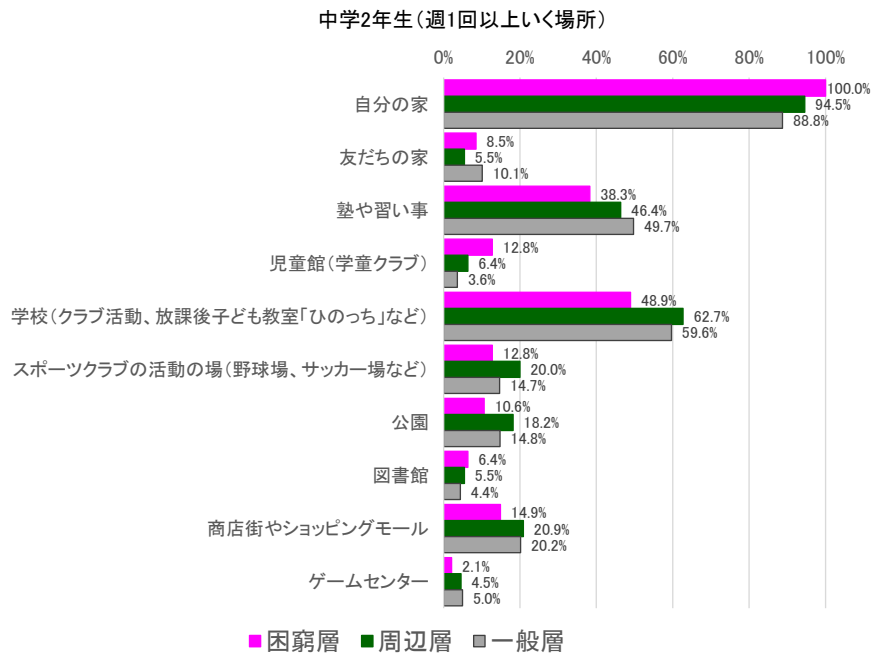


② 放課後の過ごし方（問 10）

放課後に週 1 回以上行く場所の比率は、小学生では困窮層、周辺層で「塾や習い事」の割合が低い一方で、困窮層は「児童館（学童クラブ）」の割合が高くなっています。

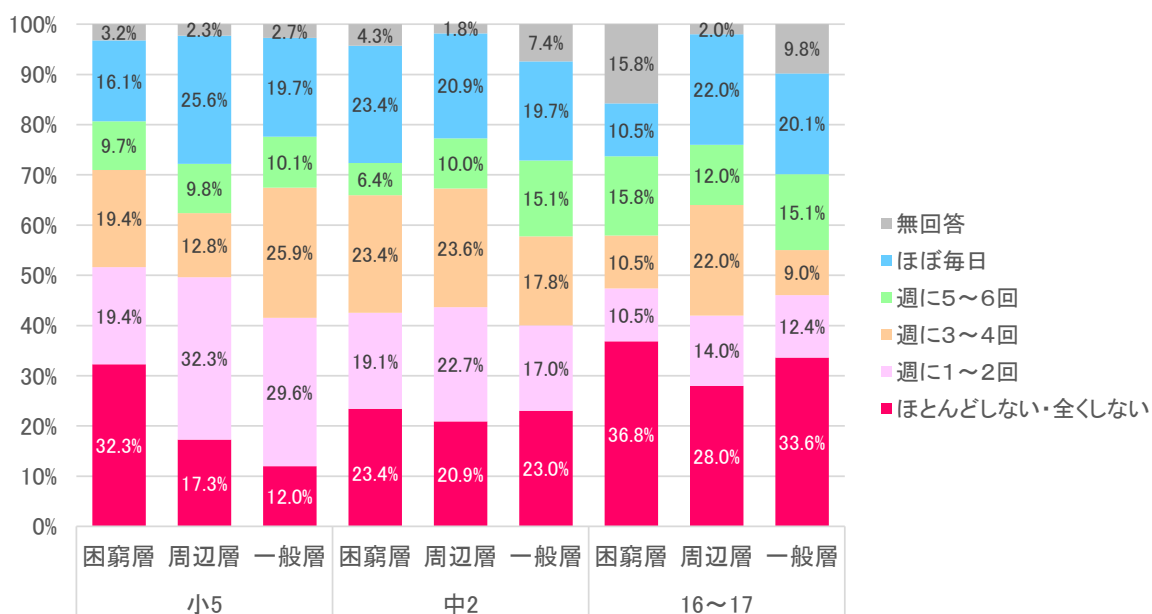


中学生では、困窮層では「児童館（学童クラブ）」がの割合が高い一方で、「学校（クラブ活動、放課後子ども教室「ひのっち」など）」の割合が低くなっています。



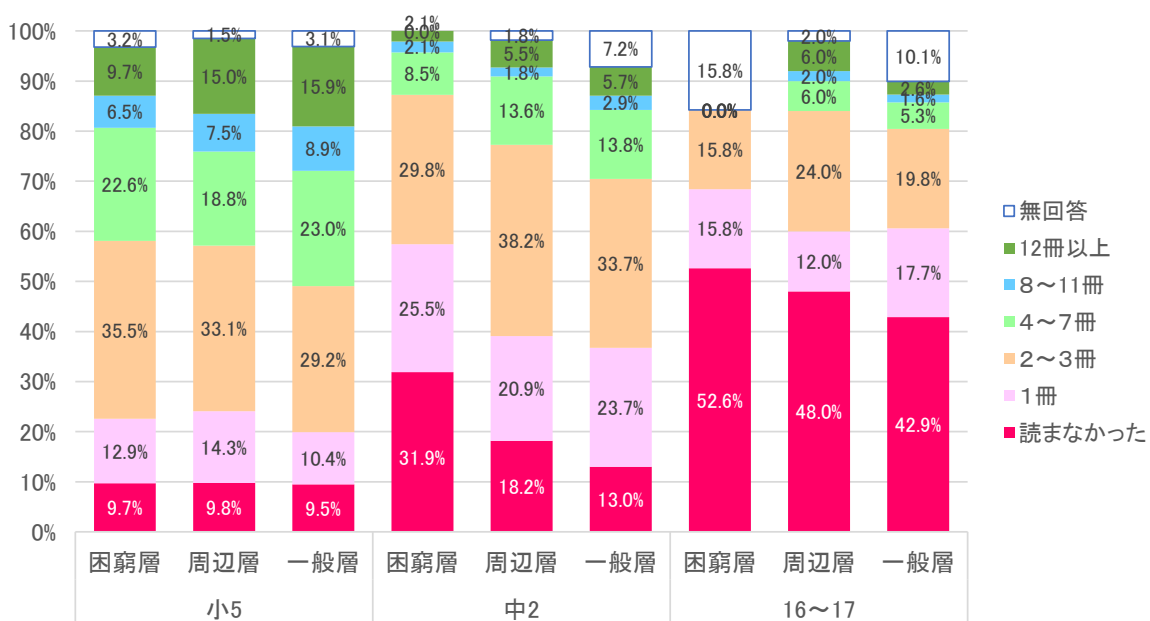
③ 30分以上からだを動かすこと（問16）

30分以上からだを動かすことについては、特に小学生の困窮層で「ほとんどしない・全くしない」が32.3%と多くなっており、一般層の3倍近くとなっています。



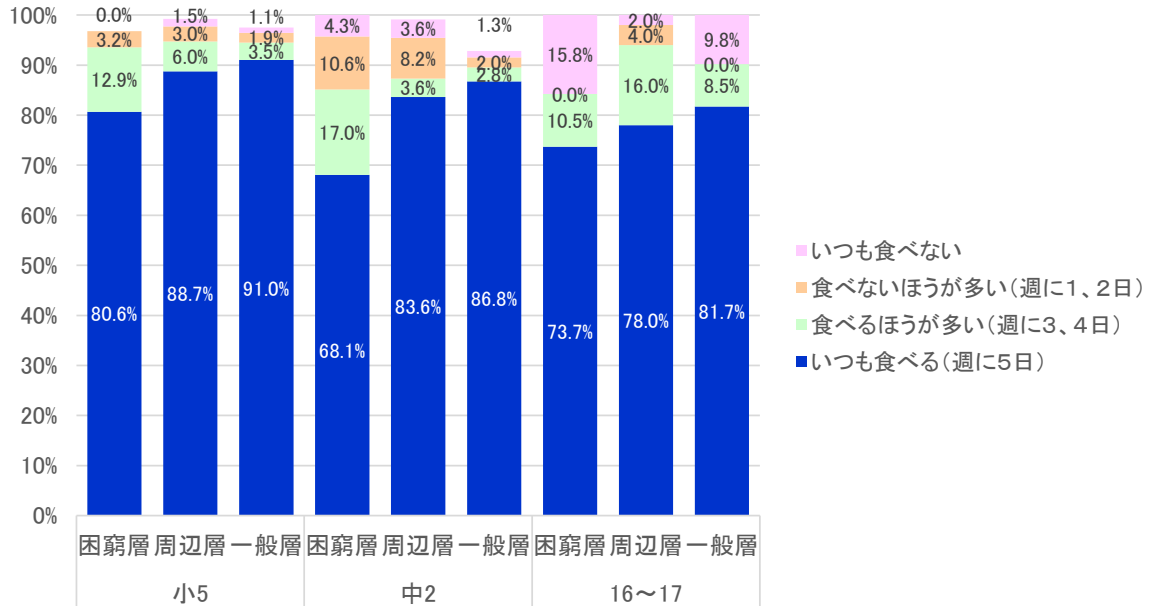
④ 一ヶ月間で本を何冊読んでいるか（問17）

一ヶ月間で本を何冊読んでいるかについては、中学生において困窮層は「読まなかった」が31.9%と一般層の2.5倍程度となっており、中学生において差が顕著となっています。



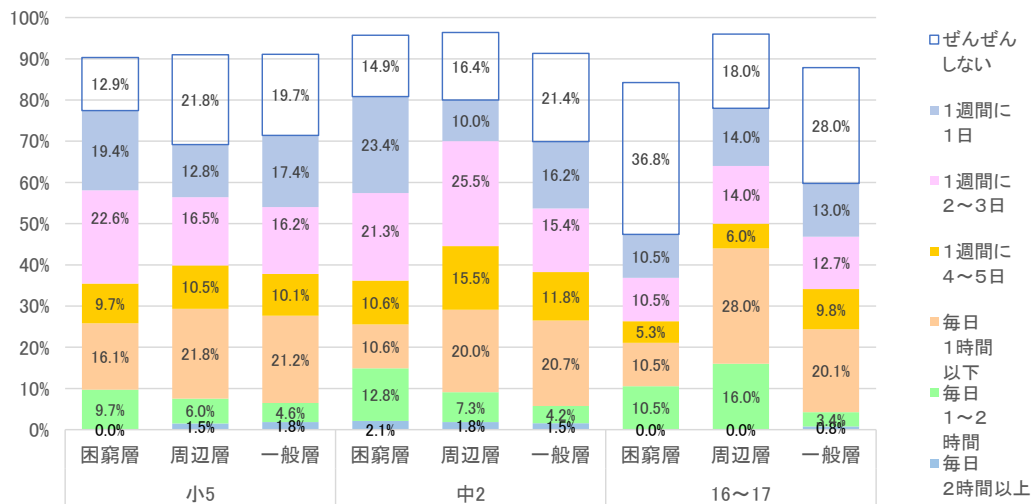
⑤ 学校に行く日の朝食の習慣（問 19）

学校に行く日の朝食の習慣は、いずれの年齢でも困窮層は「いつも食べる」への回答が少なくなっており、特に中学生では一般層より約 19 ポイント少なくなっています。



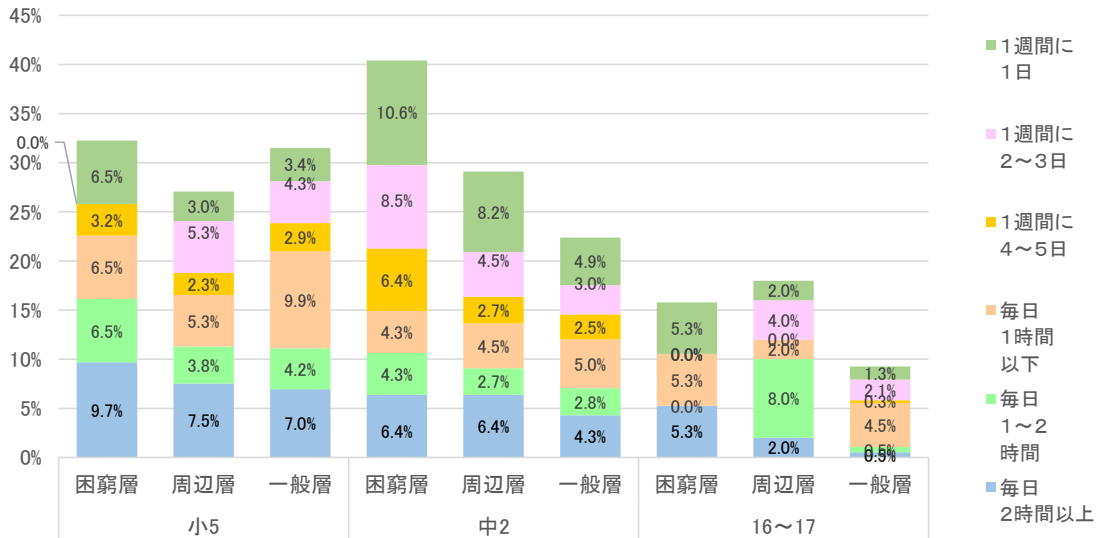
④ 家事の状況（小中間 15E、16~17 歳問 15E）

家事の状況については、中学生の困窮層や、16~17歳の周辺層で、1時間以上の家事をする子どもが多くなっています。



⑤ きょうだいなどの世話（小中間 15E、16～17 歳問 15E）

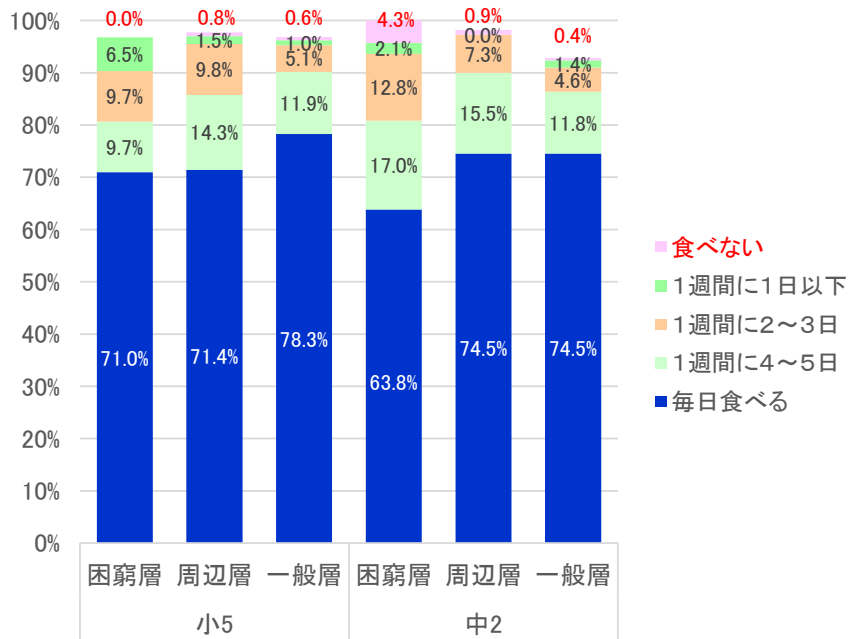
きょうだいなどの世話については、小学生の困窮層や、16～17歳の周辺層で、きょうだいの世話を1時間以上する子どもが多くなっています。



⑥ 食事の状況（小中のみ問 19）

1) 野菜

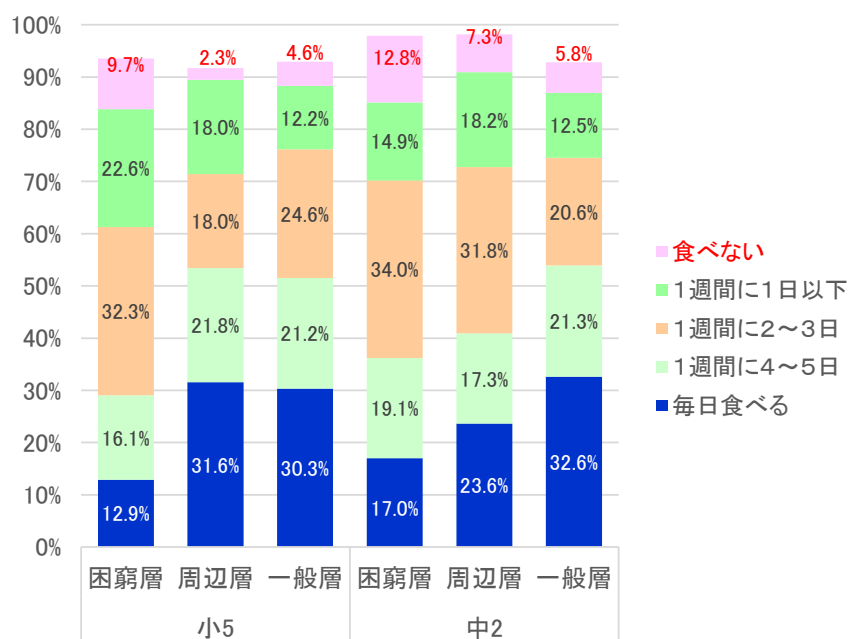
野菜を食べているかどうかについては、中学生の困窮層で「毎日食べる」への回答が低くなっています。小学生でも、困窮層、周辺層ともやや低くなっています。



※本設問では各項目無回答は表記しない

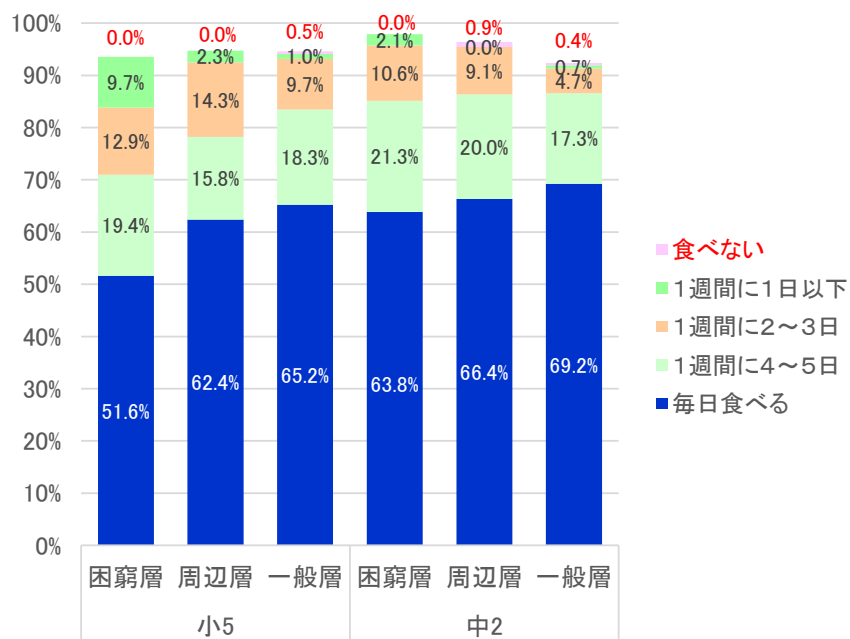
2) くだもの

くだものを食べているかどうかについては、小学生の困窮層で「毎日食べる」への回答が低く、「食べない」の比率も高くなっています。中学生も困窮層、周辺層とも一般層と比較して低くなっています。



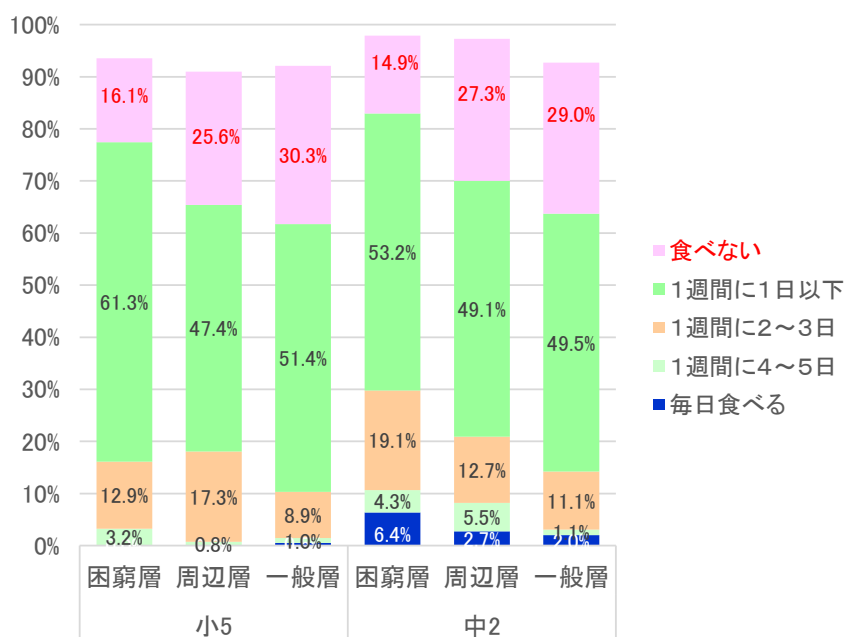
3) 肉や魚

肉や魚を食べているかどうかについては、小学生の困窮層で「毎日食べる」への回答が低くなっています。



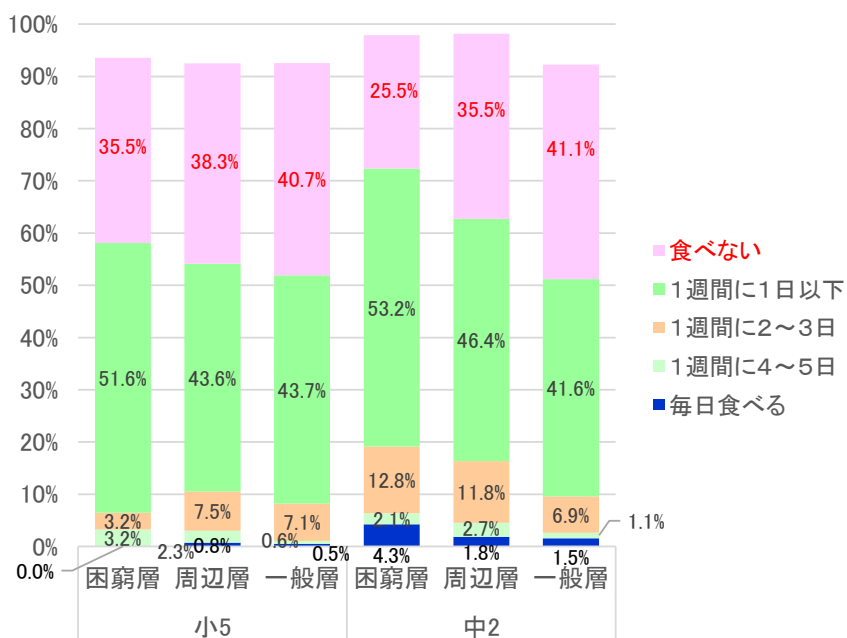
4) カップめん・インスタントめん

カップめん・インスタントめんを食べているかどうかについては、中学生の困窮層で「1週間に2~3回~毎日食べる」への回答が一般層と比較して約2倍となっています。



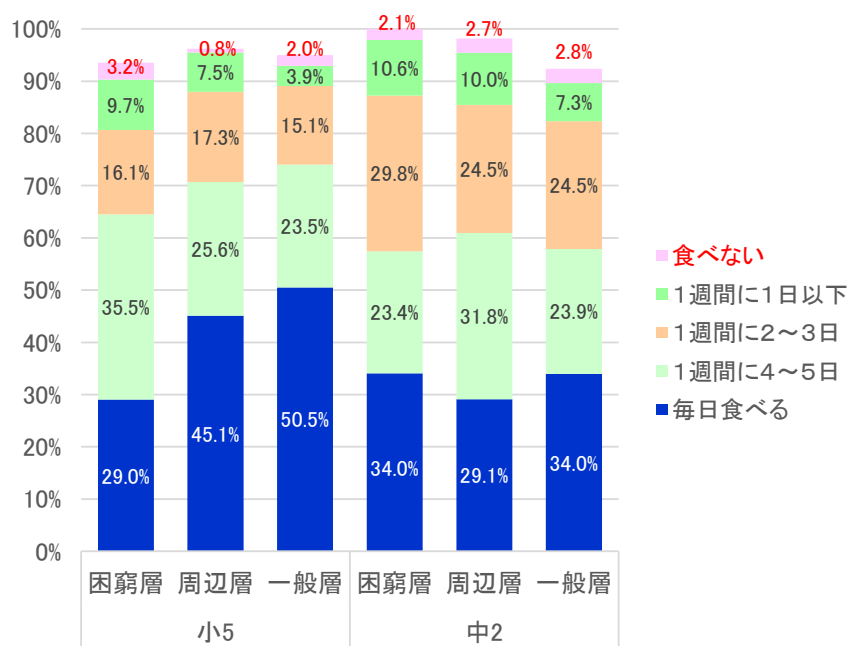
5) コンビニのおにぎり・お弁当

コンビニのおにぎり・お弁当を食べているかどうかについては、中学生の困窮層で「毎日食べる」が4.3%とやや多くなっています。



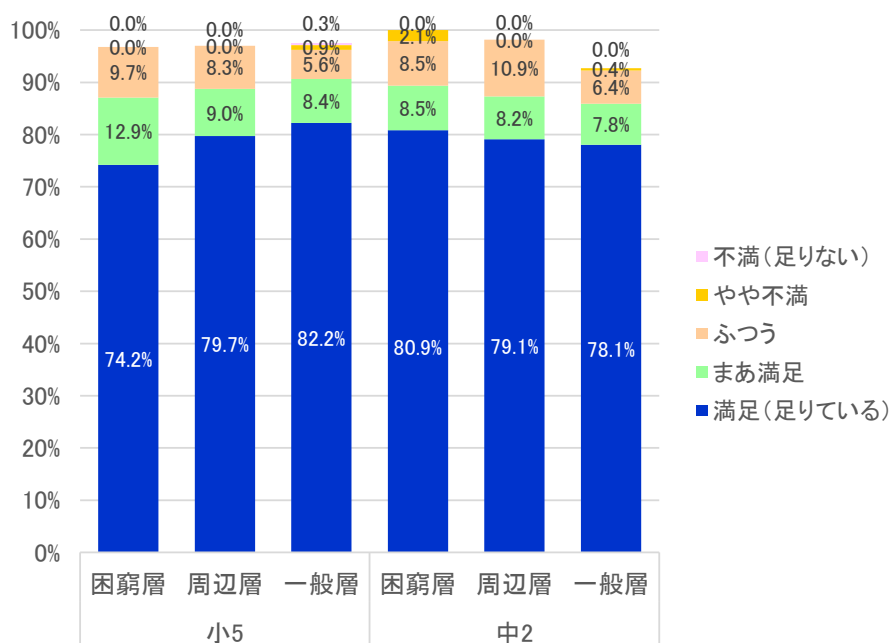
6) お菓子

お菓子を食べているかどうかについては、小学生の困窮層で「毎日食べる」が29.0%と少なくなっています。



7) 食事の満足度 (小中間 23)

食事の満足度については、小学生の困窮層では「満足(足りている)」が74.2%と一般層と比較して8ポイント低くなっています。

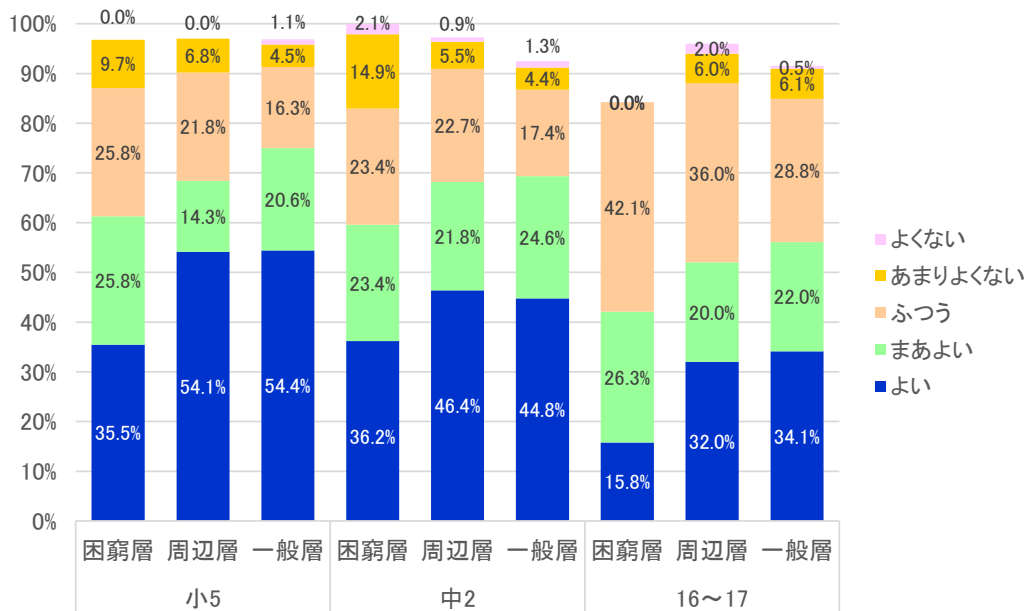


※本設問では各項目無回答は表記しない

(4) 健康状態

① 健康状態全般（小中間 24, 16～17 歳問 26）

健康状態については、いずれの年齢でも困窮層において「よい」と回答した方の割合が低くなっています。特に中学生では「あまりよくない」が 14.9%となっており、一般層や周辺層との差が見られます。

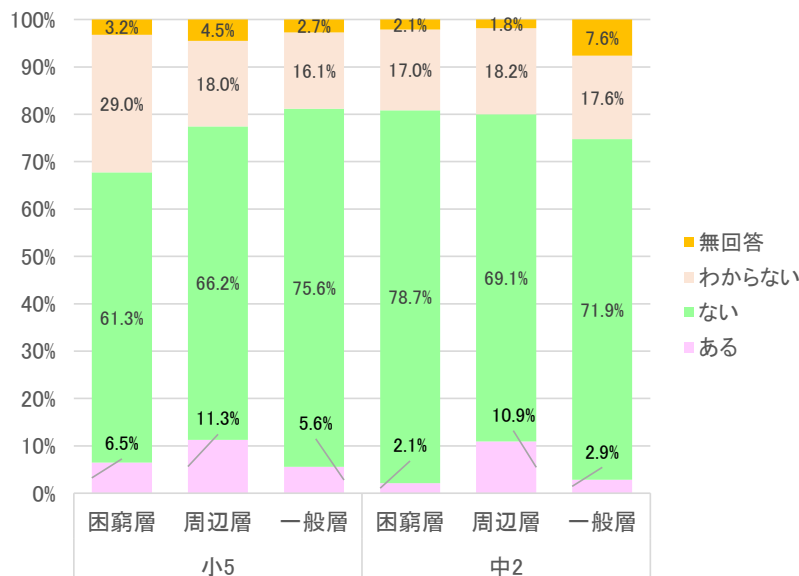


※本設問では各項目無回答は表記しない

② 虫歯の有無（小中間 25）

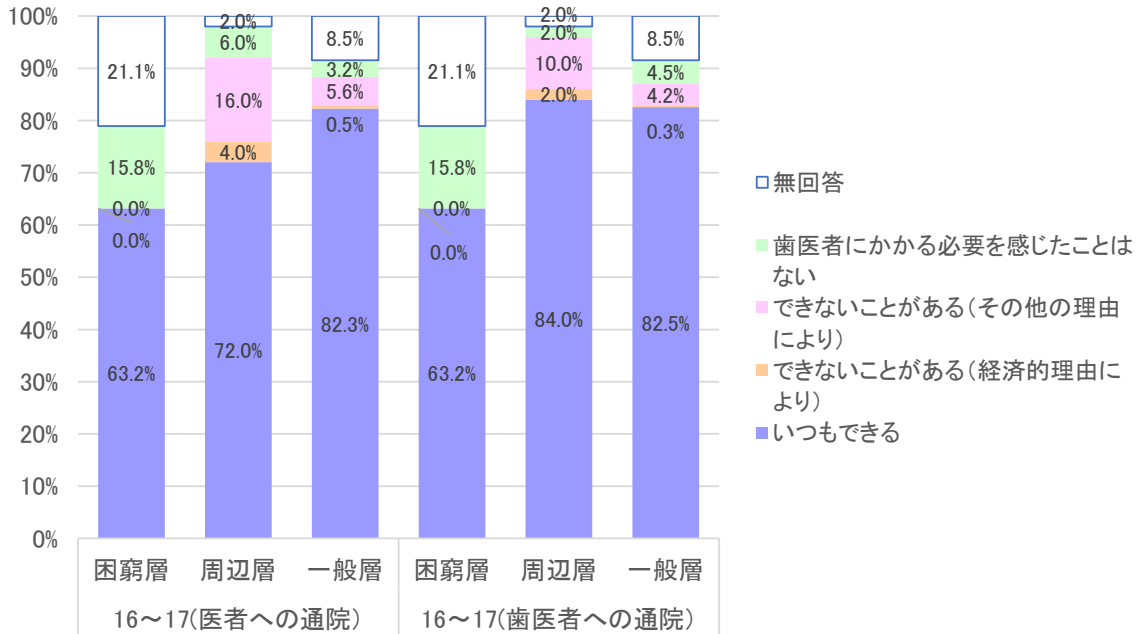
虫歯の有無では、小学生の困窮層においては「わからない」が 29.0%と、一般層と比較して 13 ポイント高くなっています。

「虫歯がある」が最も多いのは、小中とも周辺層の子どもとなっています。



③ 必要なときに医者にかかれるかどうか（16～17歳 問27.28）

16～17歳で、必要なときに医者にかかれるかどうかについては、「いつでもできる」への回答が、困窮層で医者、歯医者ともに一般層と比較すると少なくなっています。

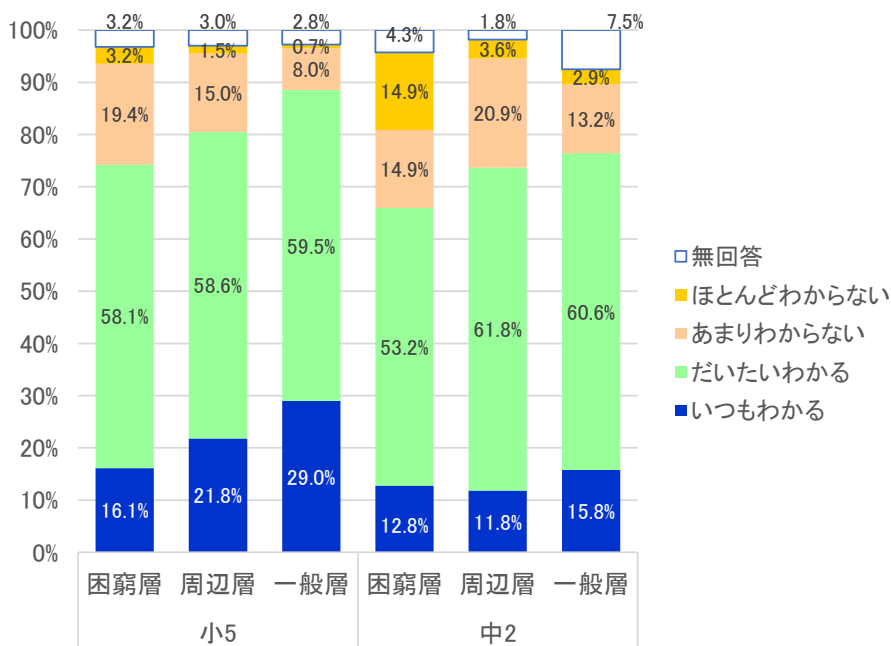


(5) 学習

① 学校の授業で分からないことがあるか（小中間27）

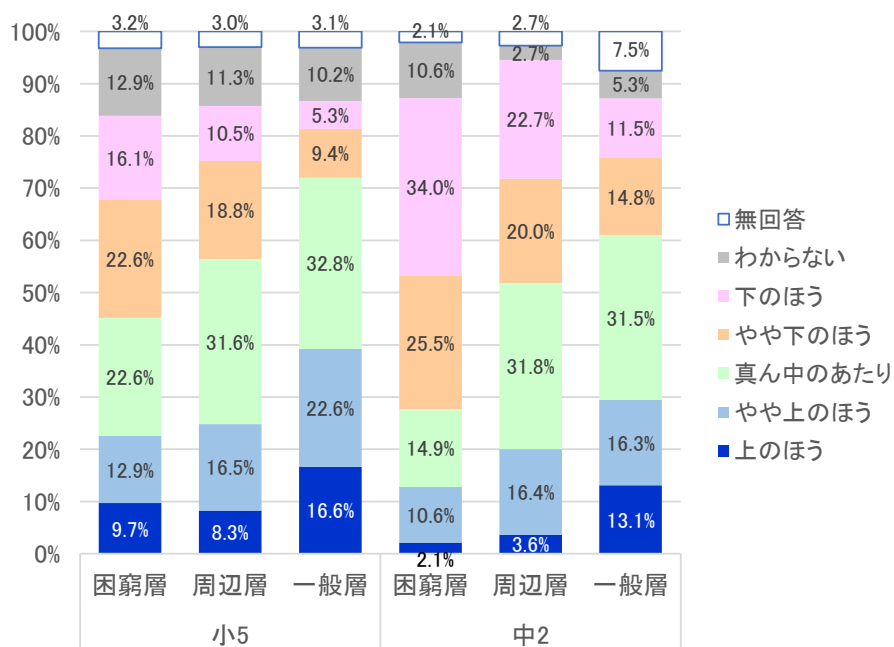
学校の授業については、小学校では困窮層、周辺層とも「いつもわかる」「だいたいわかる」への回答が一般層と比較すると少なくなっています。

中学校では、困窮層では「いつもわかる」「だいたいわかる」への回答が一般層と比較すると少なくなっています。



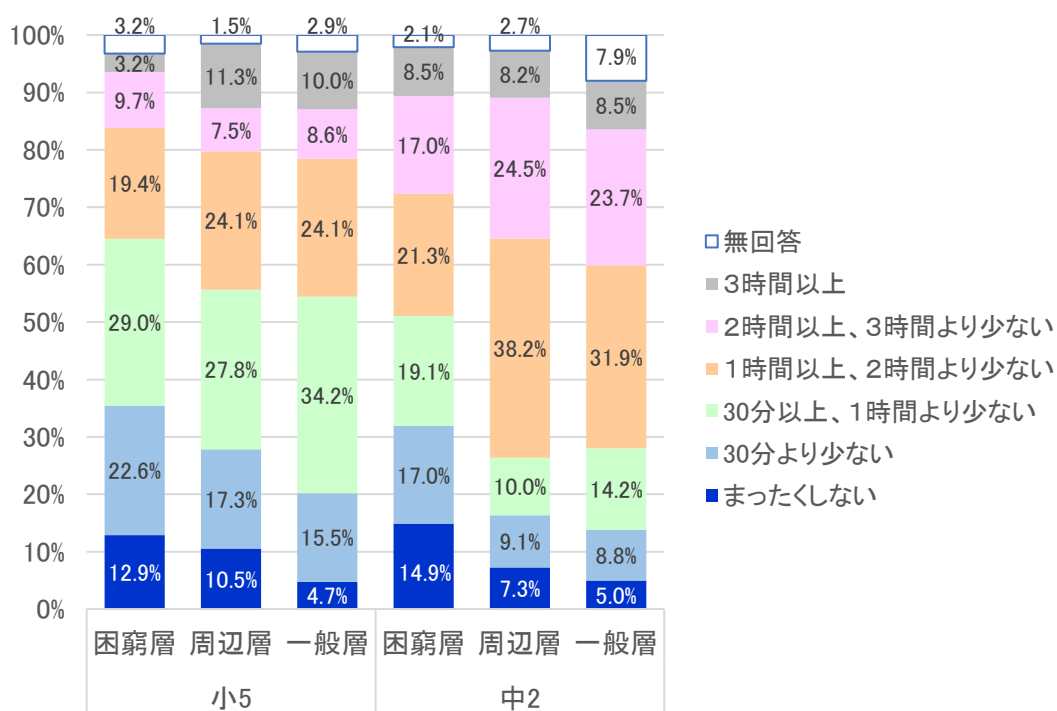
② あなたの成績（小中問 29）

成績については、小中学校とも困窮層、周辺層は一般層と比較すると、全体的に成績は低くなっており、特に中学生ではより顕著な傾向となっています。



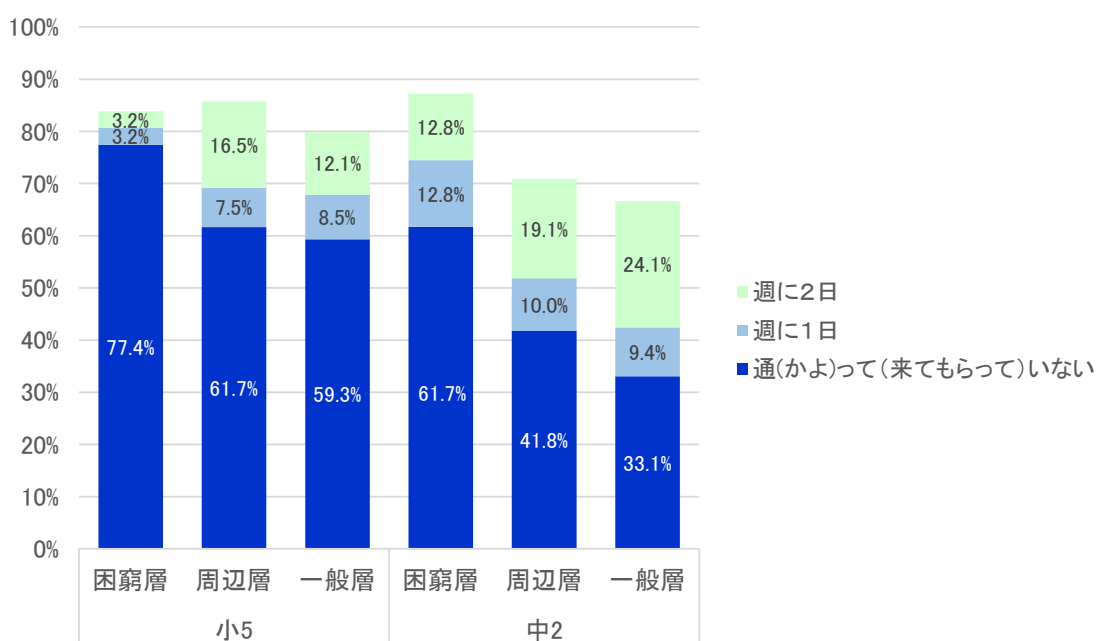
③ 勉強時間（小中間 31）

勉強時間については、「まったくしない」「30分より少ない」の割合が一般層と比較すると、困窮層、周辺層では割合が多く、特に中学生の困窮層では「まったくしない」が一般層の3倍近くとなっています。



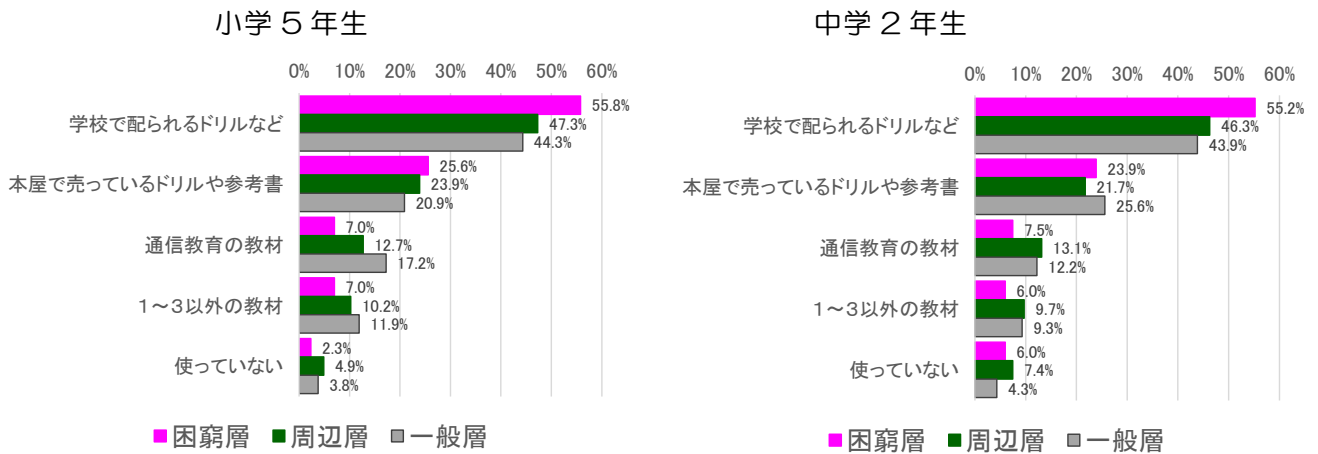
④ 学習塾や家庭教師（小中間 32）

学習塾や家庭教師は、週2回以下の利用状況をみると「通っていない」が小中とも「困窮層」で多くなっているのが特徴です。また、中学生では一般層と比較して、困窮層、周辺層ともに「通っていない」の割合が多くなっています。



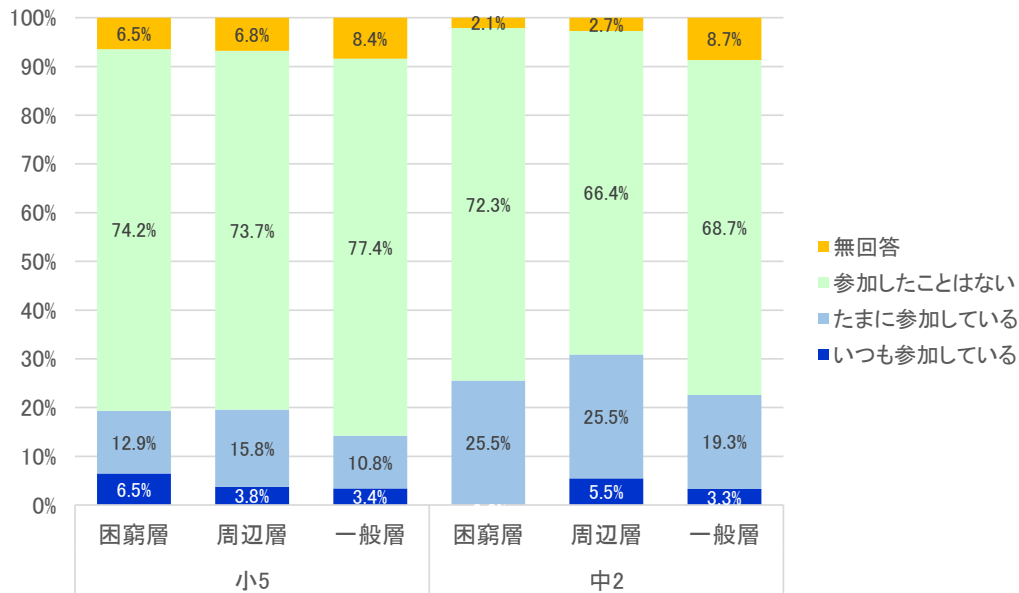
⑤ 自宅での教材の利用状況（小中間 33）

自宅での教材の利用状況は、小中とも困窮層は「学校で配られるドリルなど」の割合が多く、「通信教育の教材」の割合が低いのが特徴です。



⑥ 補習への参加状況（小中間 34）

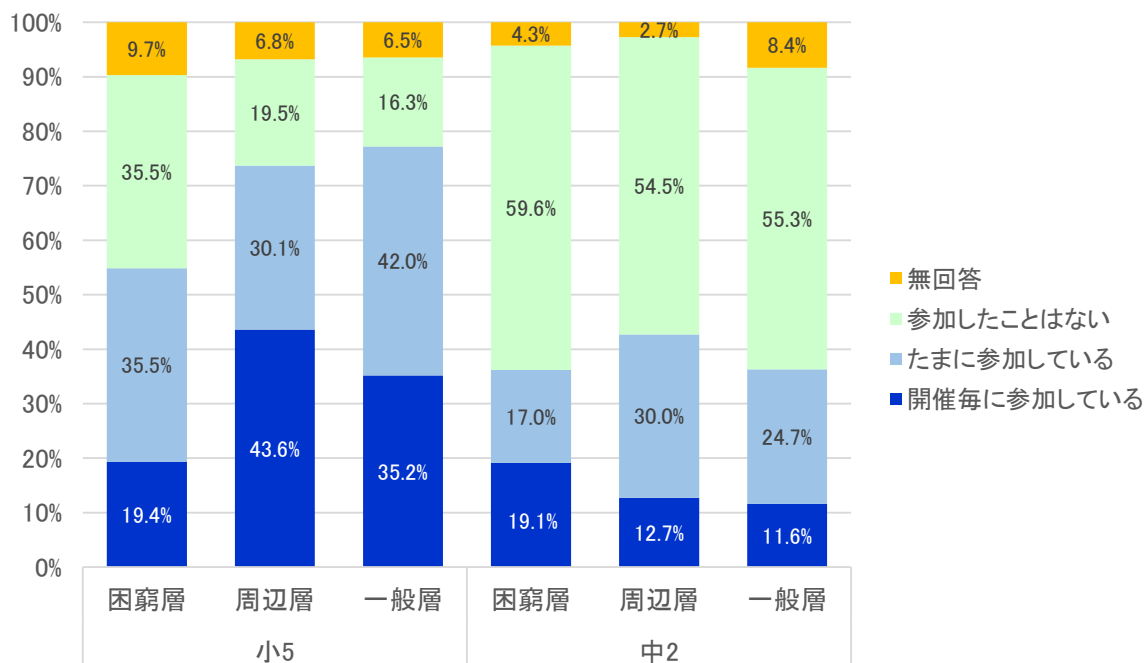
補習教室への参加状況は、中学生で周辺層が「いつも参加している」「たまに参加している」への回答がやや多くなっています。



⑦ 夏休みの水泳教室等への参加状況（小中間 35）

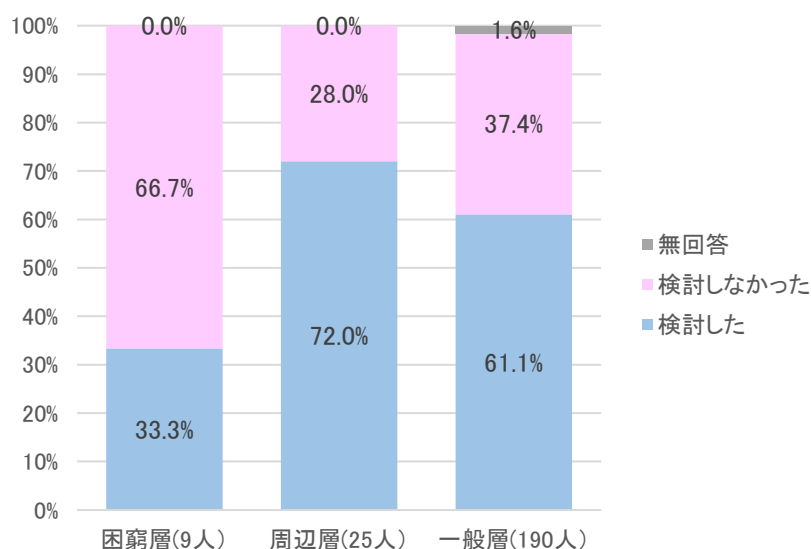
夏休みの水泳教室等への参加状況は、「開催毎に参加している」が多いのは、小学生では周辺層、中学生では困窮層となっています。

小学生の困窮層は、「開催毎に参加している」への割合が少なくなっています。



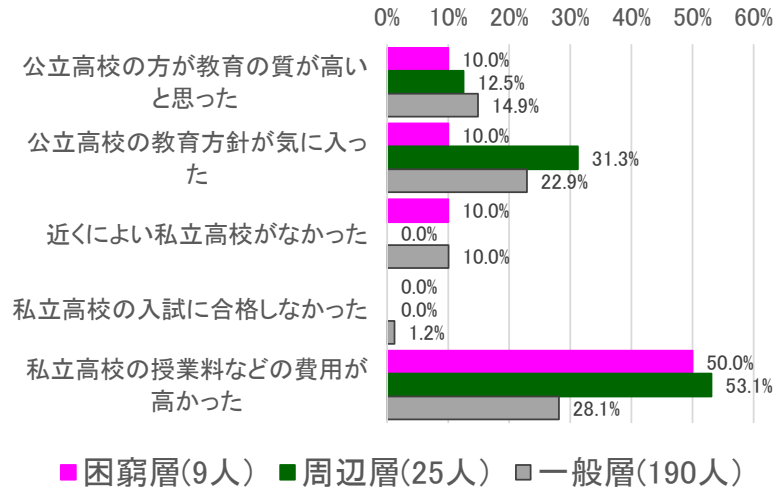
⑧ 私立高校の進学を検討について（16～17 歳問 30-4）

現在、公立高校に在籍にしている人に、私立高校への進学を検討したかどうかについてみると、困窮層の方は「検討した」の割合が低くなっています。



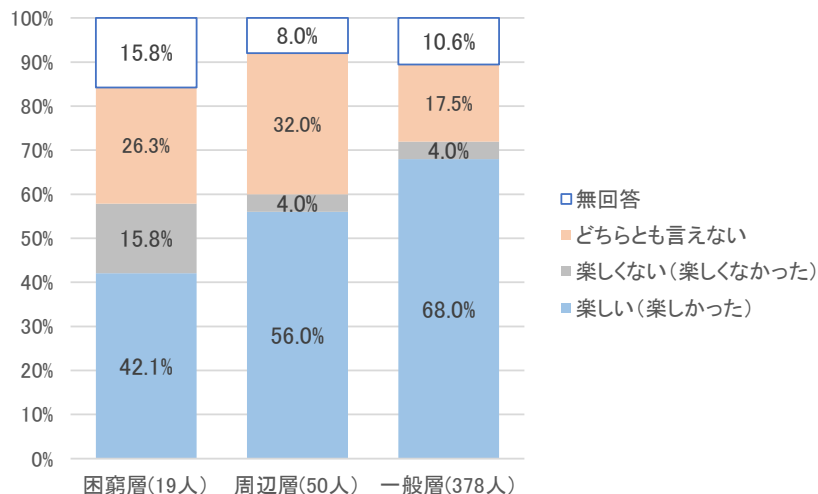
⑨ 公立高校に進学した理由（16～17 歳問 30-5）

公立高校に進学した理由をみると、「私立高校の授業料などの費用が高かった」が困窮層、周辺層では顕著に高くなっているのが特徴です。



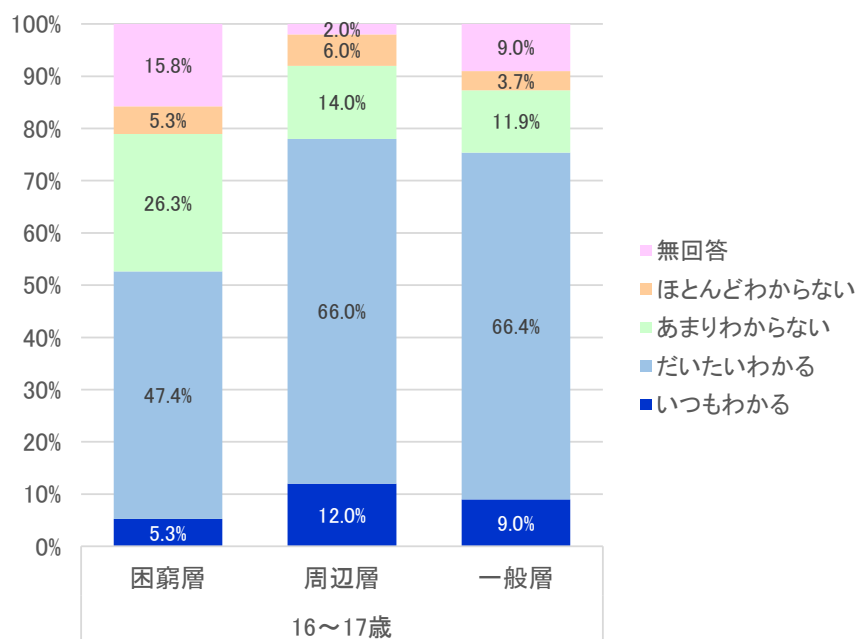
⑩ 学校が楽しいかどうか（16～17 歳問 31）

学校が楽しいかどうかについては、一般層と比較すると、困窮層は「楽しい（楽しかった）」の割合が低く、「楽しくない（楽しくなかった）」への割合が高くなっています。



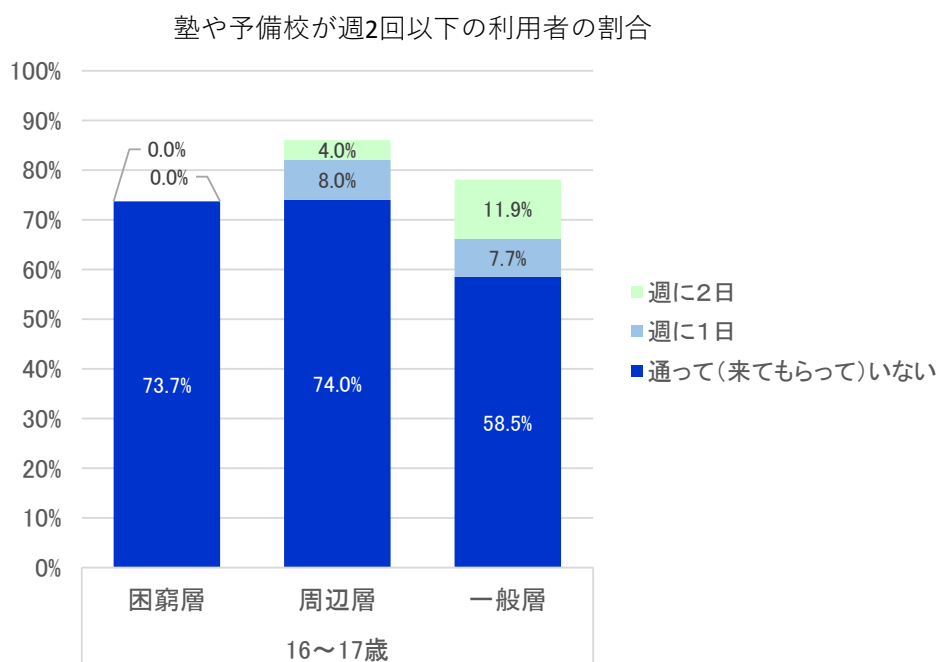
⑪ 学校の授業でわからないことがあるか（16～17 歳問 33）

学校の授業でわからないことについては、一般層と比較すると、困窮層は「あまりわからない」への回答が多くなっているのが特徴です。



⑫ 塾や予備校の利用状況（16～17 歳 問 36）

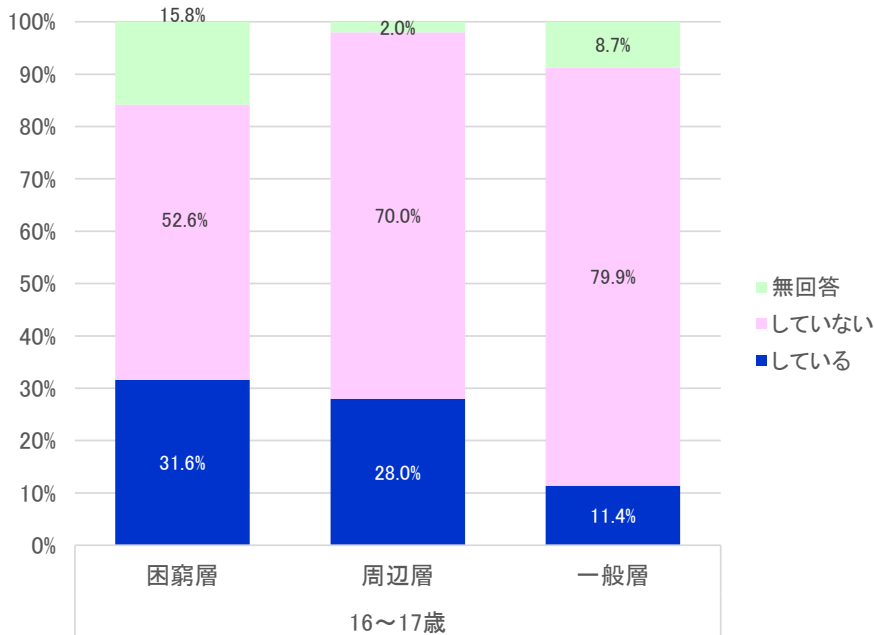
塾や予備校の利用状況は、「通って（来てもらって）いない」が困窮層、周辺層において割合が高くなっています。



(6) 就労

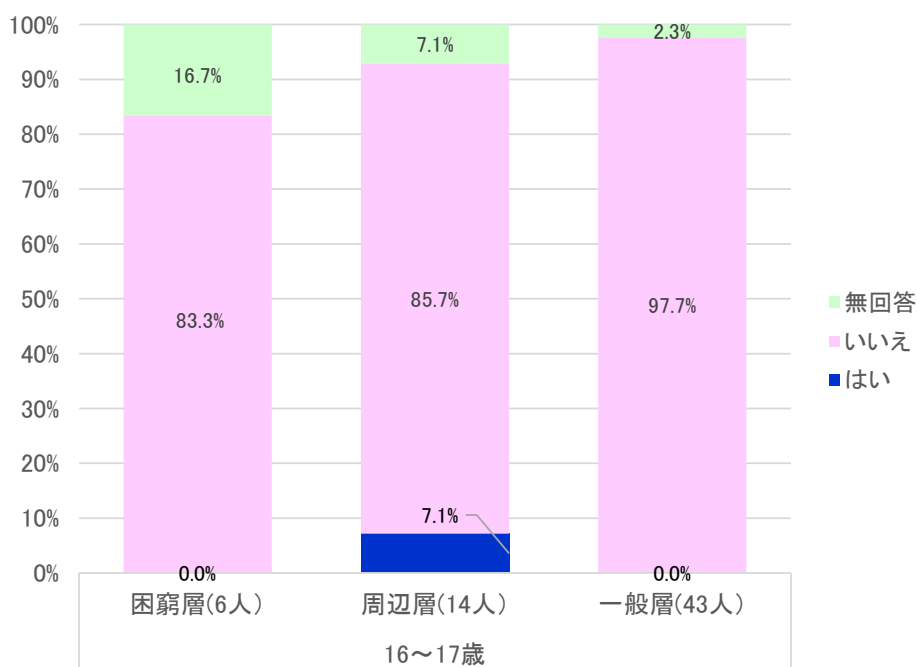
①就労の有無（16～17歳 問 29）

就労の状況では、一般層と比較すると、困窮層、周辺層ともに「(就労)している」の割合が高くなっています。



② 生活費を同居・別居の家族に渡しているか（16～17歳 問 29-9）

生活費を同居・別居の家族に渡しているかについては、困窮層、一般層では 0%であることに対し、周辺層は 7.1%「はい」に回答しています。



(7) 感染症の影響

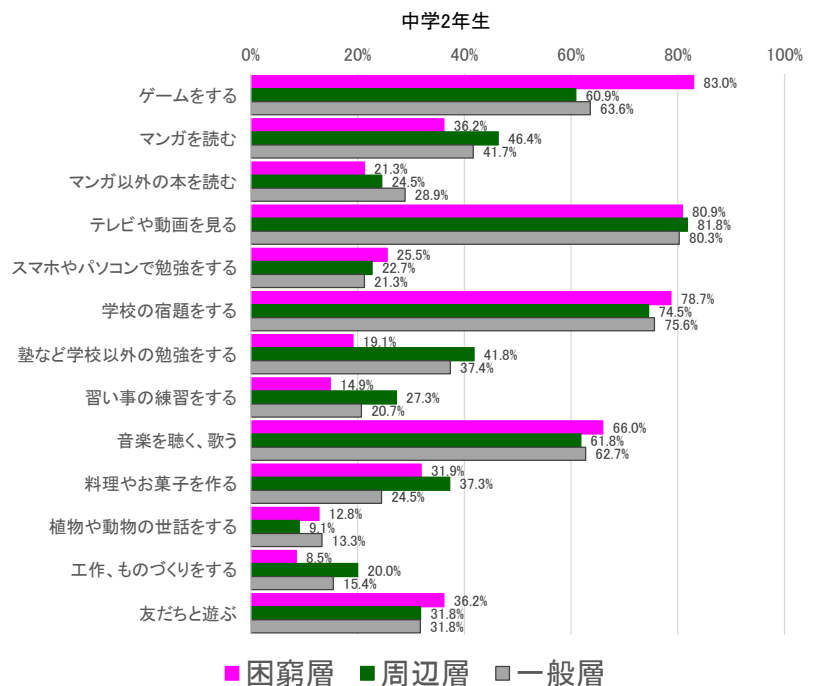
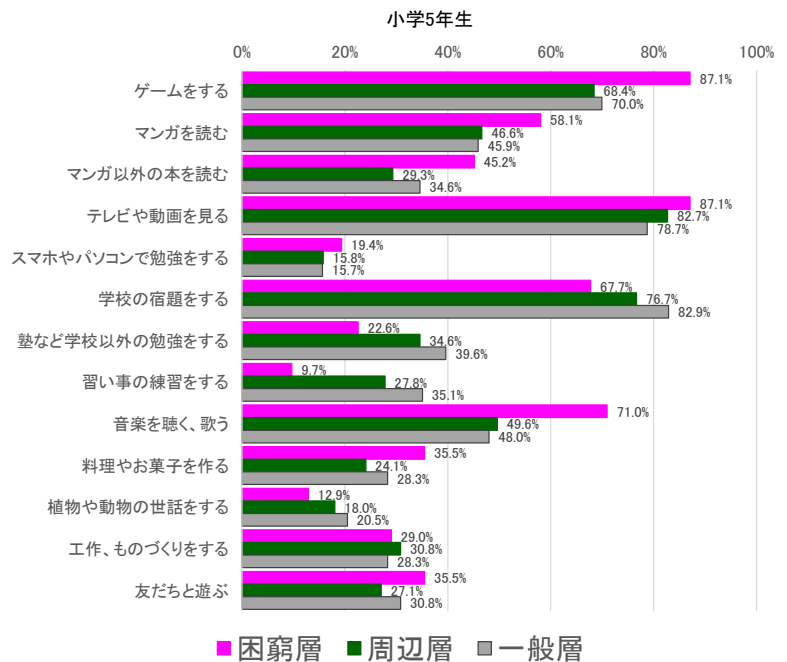
① (小中間 37)

学校が休みだったときの平日(月曜日～金曜日)日中の過ごし方については、小学生では困窮層は、「ゲームをする」「まんがを読む」など、勉強以外が多くなっているのが特徴です。

一般層は、「学校の宿題をする」「塾など学校以外の勉強をする」が多くなっています。

中学生になると、困窮層は「ゲームをする」が突出しているほか、「学校の宿題をする」は一般層とほぼ同率となっています。

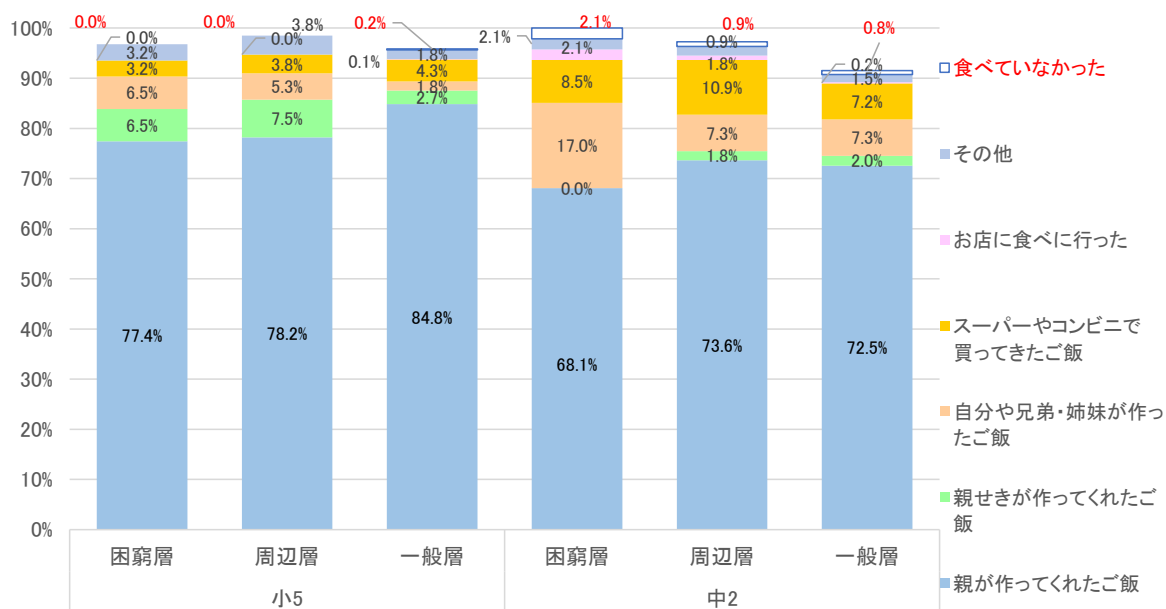
ただし、「塾など学校以外の勉強をする」「習い事の練習をする」については、一般層と比較して困窮層の割合が低くなっています。



② 学校が休みだったときの平日（月曜日～金曜日）の昼食（小中間 39）

学校が休みだったときの平日（月曜日～金曜日）の昼食をみると、困窮層は、「自分や兄弟・姉妹が作ったご飯」が小学生で6.5%、中学生で17.0%と周辺層、一般層と比較して多くなっています。

なお、「食べてなかった」への回答はいずれもほぼ0%となっています。



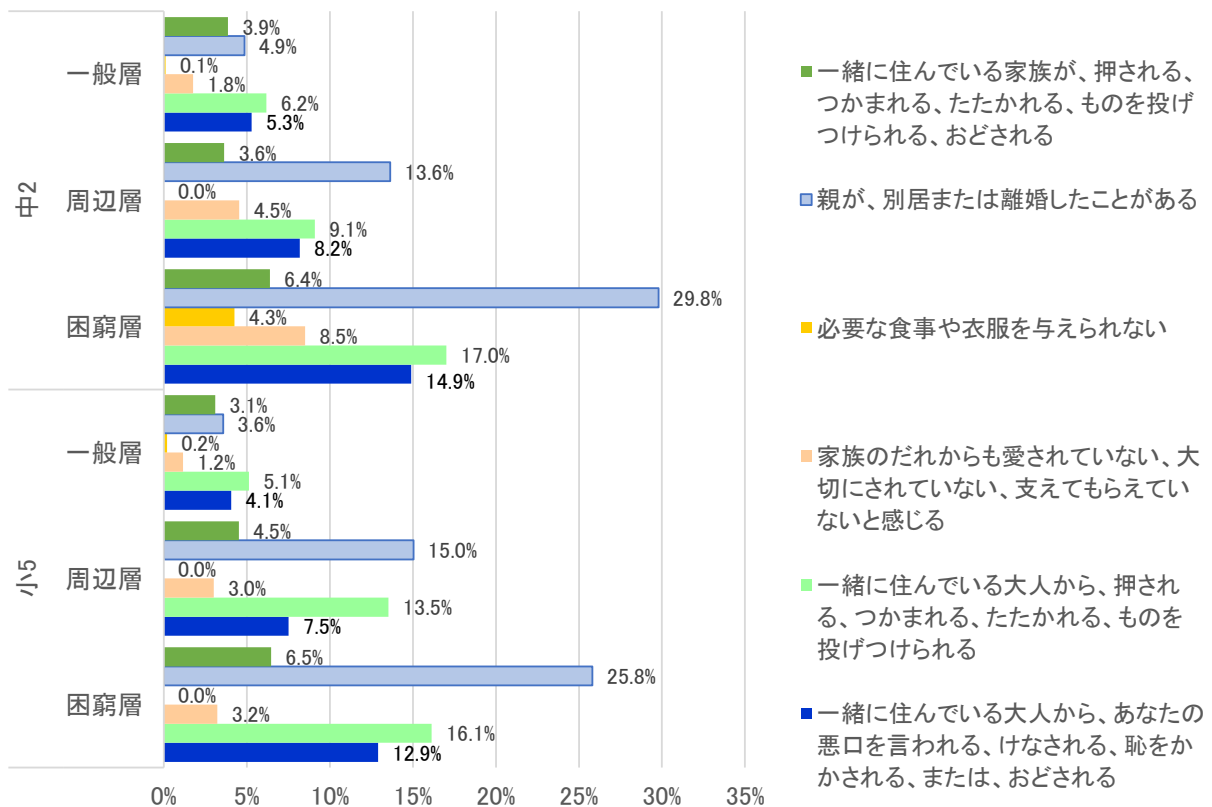
※本設問では各項目無回答は表記しない

(8) 家庭の状況について (小中問 44)

家庭の状況については、困窮層で、「親が、別居または離婚したことがある」への回答が非常に多く、中学生では 29.8%、小学生では 25.8%となっています。

また、一般層と比較すると、困窮層、周辺層で、「一緒に住んでいる大人から、押される、つかまれる、たたかれる、ものを投げつけられる」や「一緒に住んでいる大人から、あなたの悪口を言われる、けなされる、恥をかかされる、または、おどされる」の割合が高いのも特徴です。

さらに、中学生の困窮層では「必要な食事や衣服を与えられない」も 4.3%ですが回答がみられます。

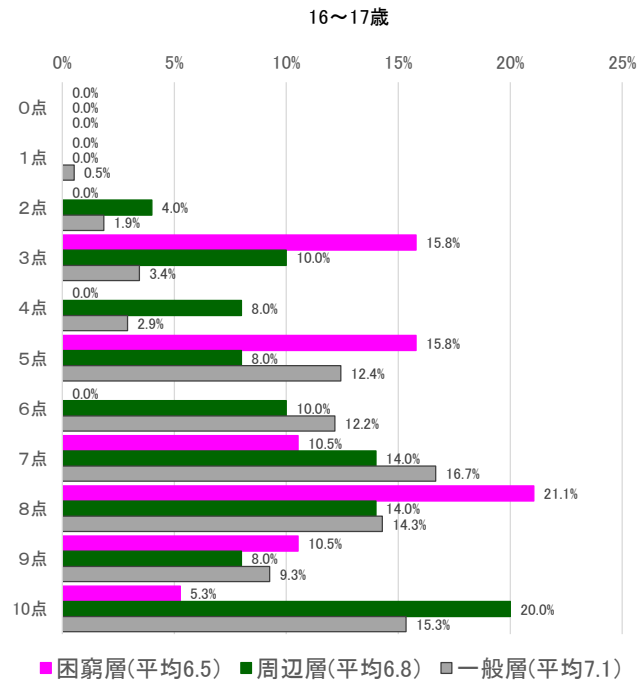
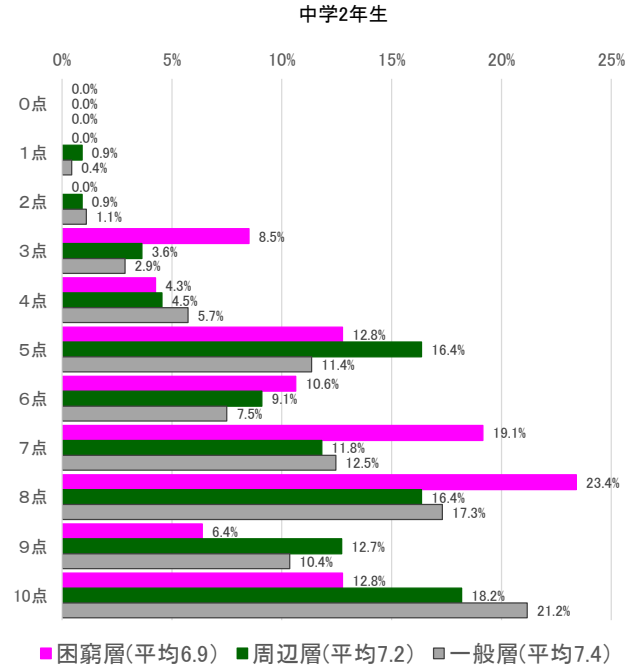
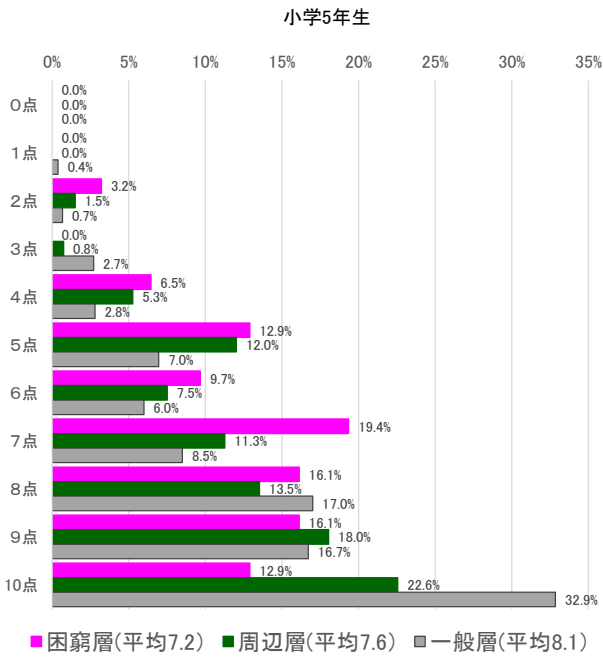


(9) 幸福度（10点が満点、小中間 45、16～17問 47）

幸福度は、小学生では、一般層の平均が 8.1 に対して、周辺層が 7.6、困窮層が 7.2 となっています。点数分布についても、10 点は困窮層や周辺層では低くなっています。

中学生では、一般層の平均が 7.4 に対して、周辺層が 7.2、困窮層が 6.9 となっています。小学生と同様に、10 点における困窮層と周辺層の割合が低くなっています。

16～17 歳では、一般層の平均が 7.1 に対して、周辺層が 6.8、困窮層が 6.5 となっています。中学生と比較して、より 10 点に回答する困窮層の割合が低くなっています。



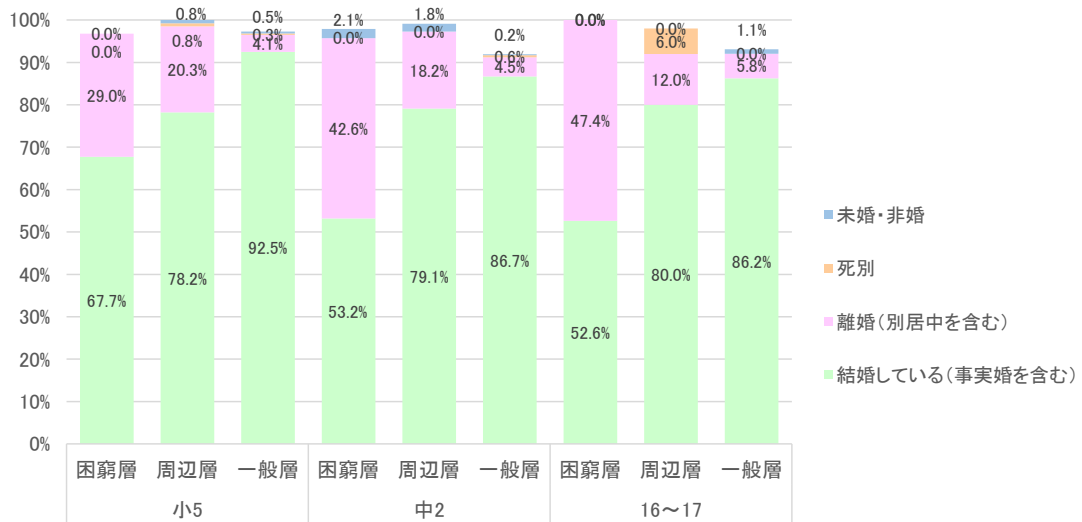
3. 主要項目における生活困窮者の状況（その2 保護者調査票）

（1）保護者の状況

① 婚姻状況（小中間5、16～17問4）

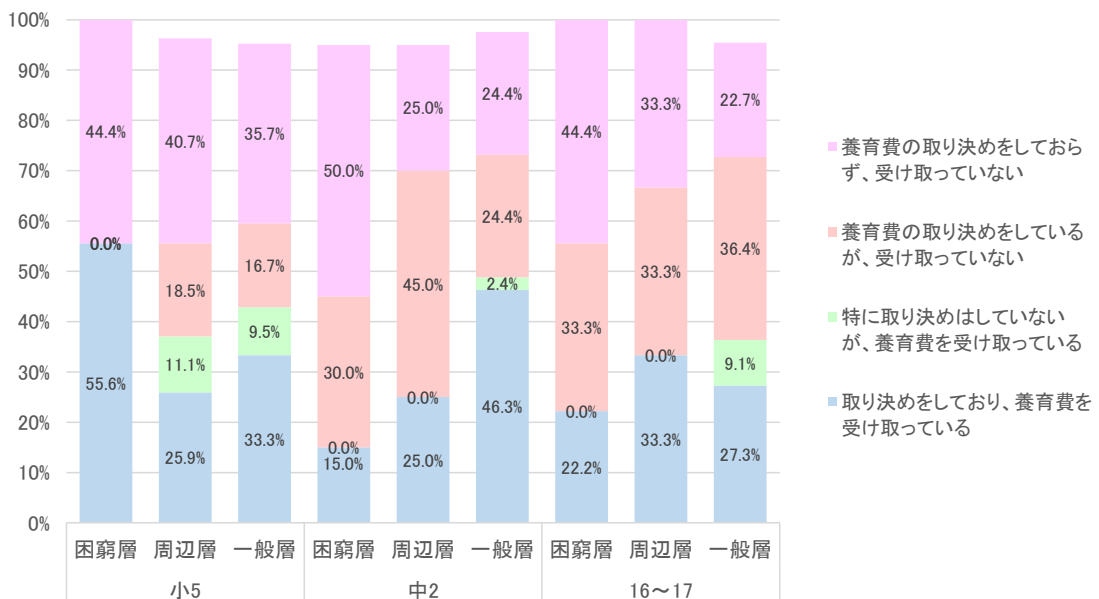
婚姻状況を見ると、困窮層では小中高とも「離婚（別居中を含む）」の比率が高く、子どもの年齢が上がるにつれ、比率が上がっています。

周辺層でも、小中では「離婚（別居中を含む）」の比率が比較的高くなっています。



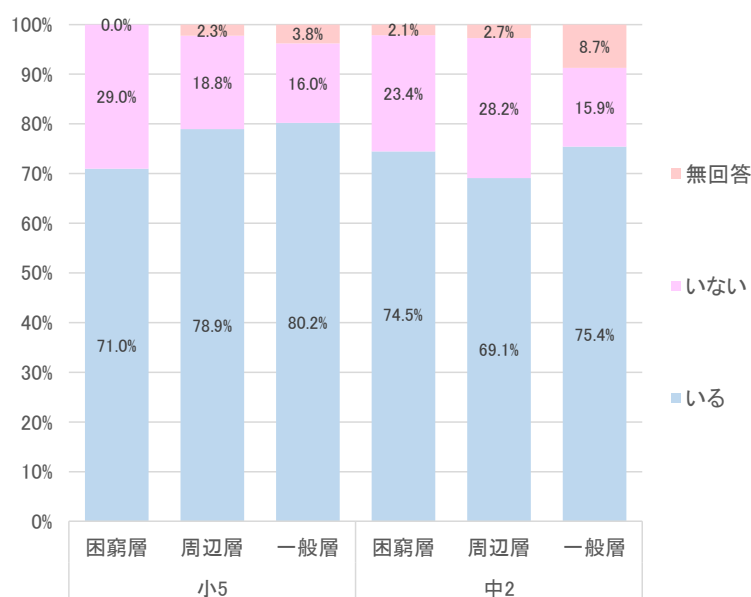
② 養育費の取り決めについて（小中間5-1、16～17問4-1）

「離婚（別居中を含む）」と回答された方のうち、養育費については、困窮層では、小学生で「取り決めをしており、養育費を受け取っている」「特に取り決めはしていないが、養育費を受け取っている」を合わせた『受け取っている』という回答が半数を超える一方で、中学生・高校生では「養育費の取り決めをしているが、受け取っていない」「養育費の取り決めをしておらず、受け取っていない」を合わせた『受け取っていない』の回答が約8割と多いのが特徴です。



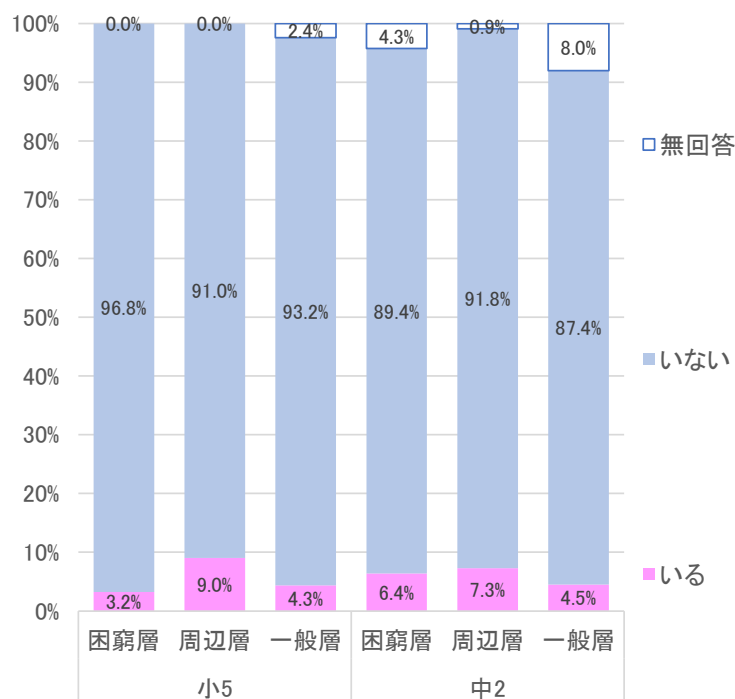
③ 病気のときに頼れる人がいるか（小中間9）

病気のときに頼れる人がいるかどうかは、小学生では困窮層で「いない」が29.0%、中学生で困窮層、周辺層で「いない」の割合が多くなっています。



④ 家族の中に、高齢であったり障害があったりする方の有無（小中間8）

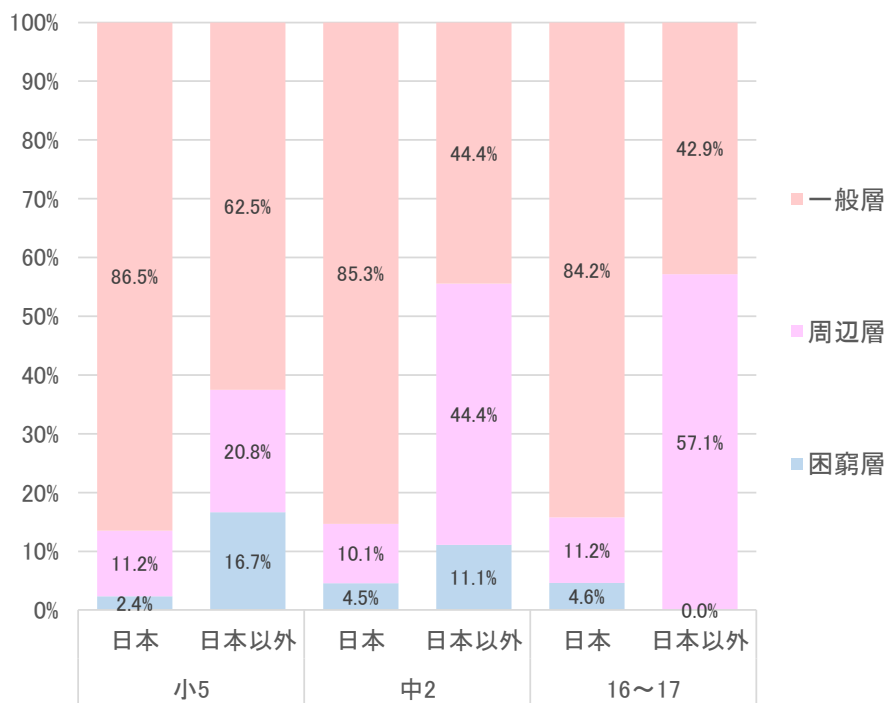
家族の中に、高齢であったり障害があったりする方の有無は、小学生保護者、中学生保護者とも周辺層で「いる」がやや多くなっています。



④ 保護者の国籍との関係（小中間 10、16～17 問 8）

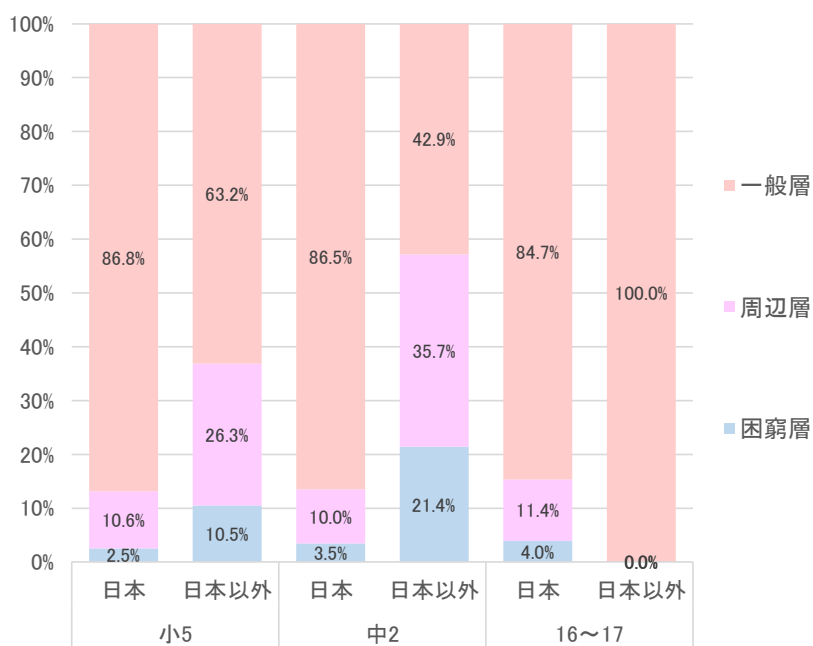
1) 父親

父親の国籍について、「日本以外」の父親の内訳として、特に中学生・16～17歳で「困窮層」「周辺層」の割合が高くなっています。



2) 母親

母親の国籍について、「日本以外」の母親の内訳として、特に小学生・中学生で「困窮層」「周辺層」の割合が高くなっています。

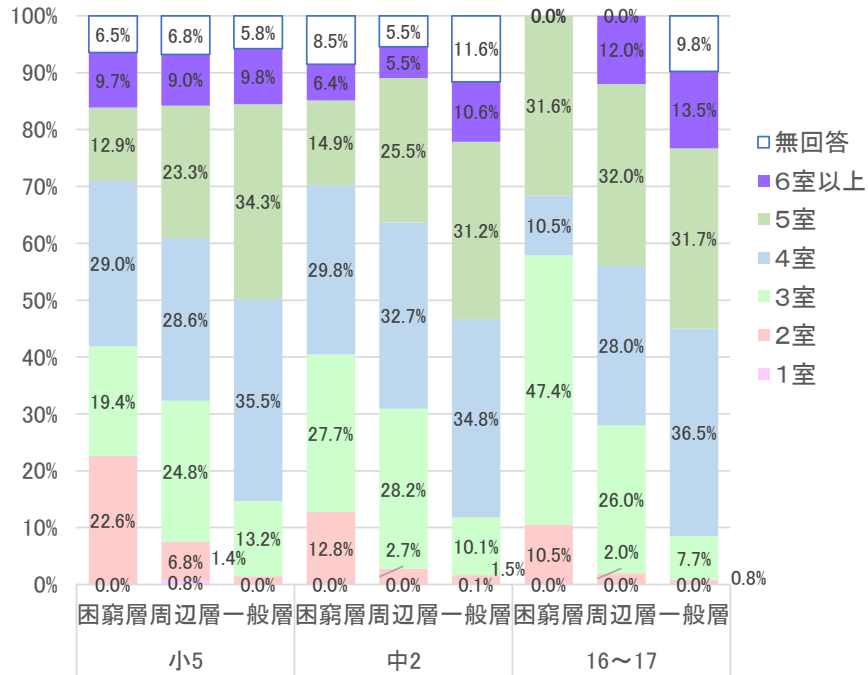


(2) 家の状況

① 部屋数（小中間 11-1、16~17 問 9-1）

部屋数については、小中では困窮層、周辺層の方は、3室以下の割合が一般層より高く、特に困窮層では3室以下の方が4割を超えています。

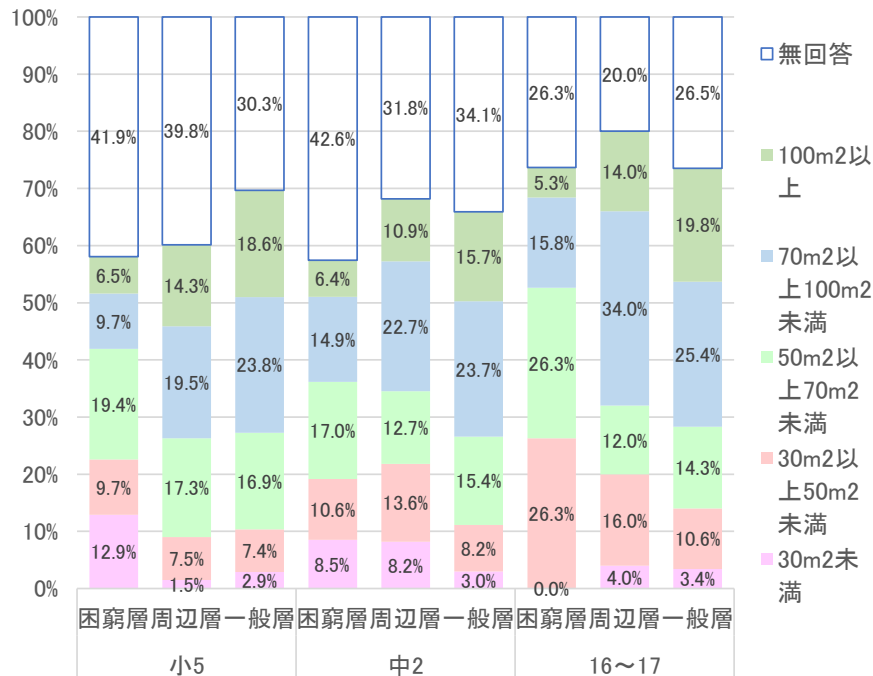
16~17歳では、3室以下は困窮層では約6割と高くなっています。



② 部屋の合計の広さ（小中間 11-1、16~17 問 9-1）

部屋の合計の広さは、小学生と16~17歳の困窮層では、70㎡未満の割合が多くなっています。

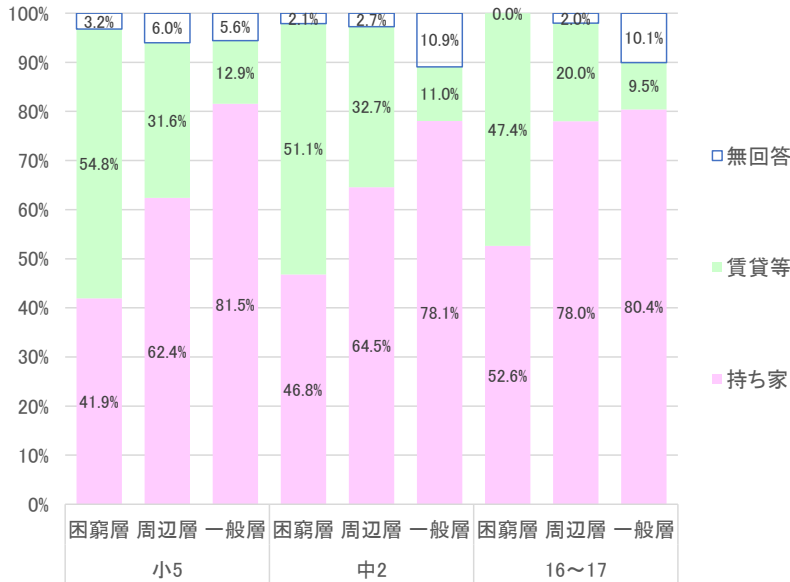
中学生では、困窮層、周辺層とも70㎡未満の割合が多くなっています。



(3) 住居費負担の状況（小中間 11、16～17 問 9）

① 持ち家か賃貸か

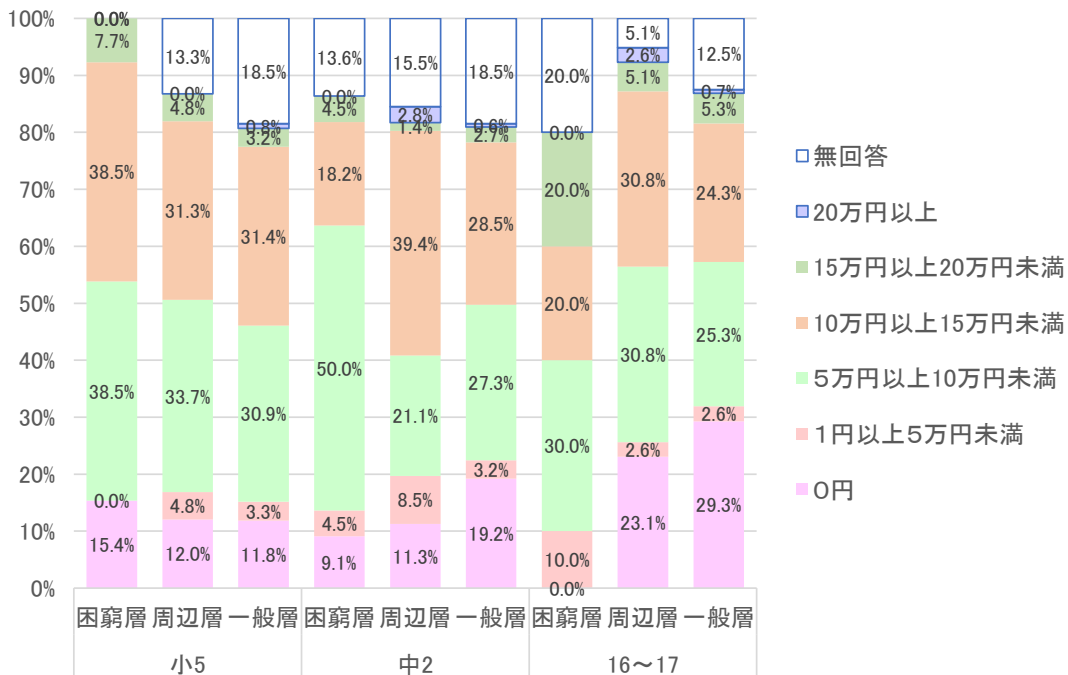
住宅の所有状況を持ち家、賃貸の2区分に再構成すると、困窮層では持ち家比率が低くなっています。また、小中の周辺層でも一般層より持ち家の比率が低いのが特徴です。



※区分を持ち家、賃貸の2つに変更している

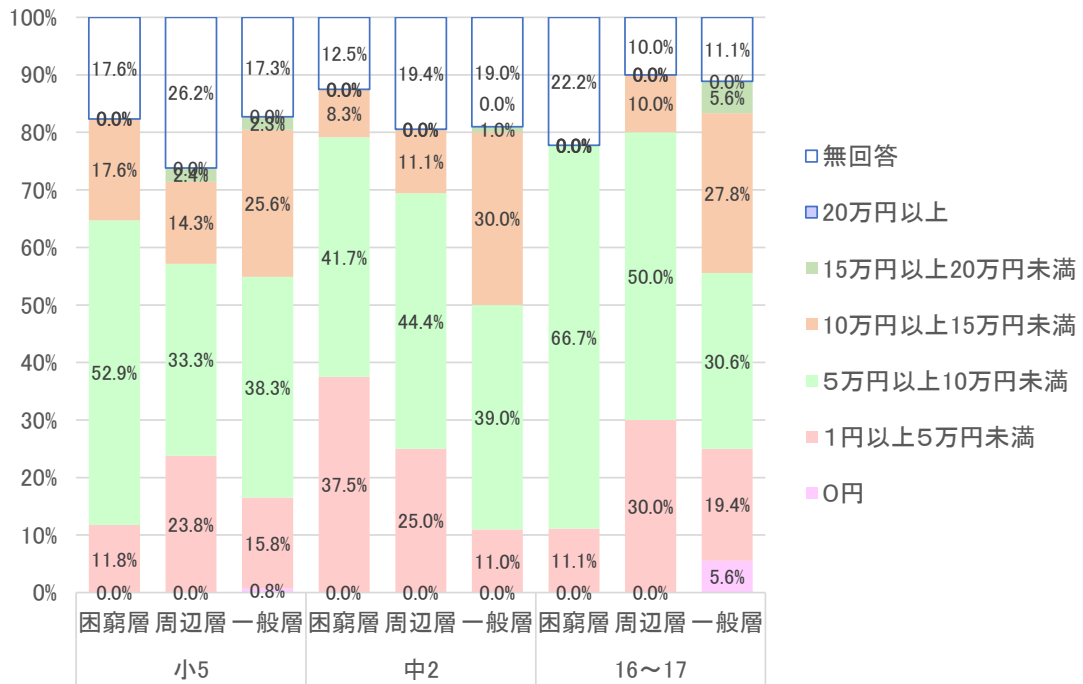
② 1ヶ月あたりのローン返済額（持ち家）（小中間 11-2、16～17 問 9-2）

1ヶ月あたりのローン返済額は、中学生では返済額10万円未満が困窮層で多くなっています。



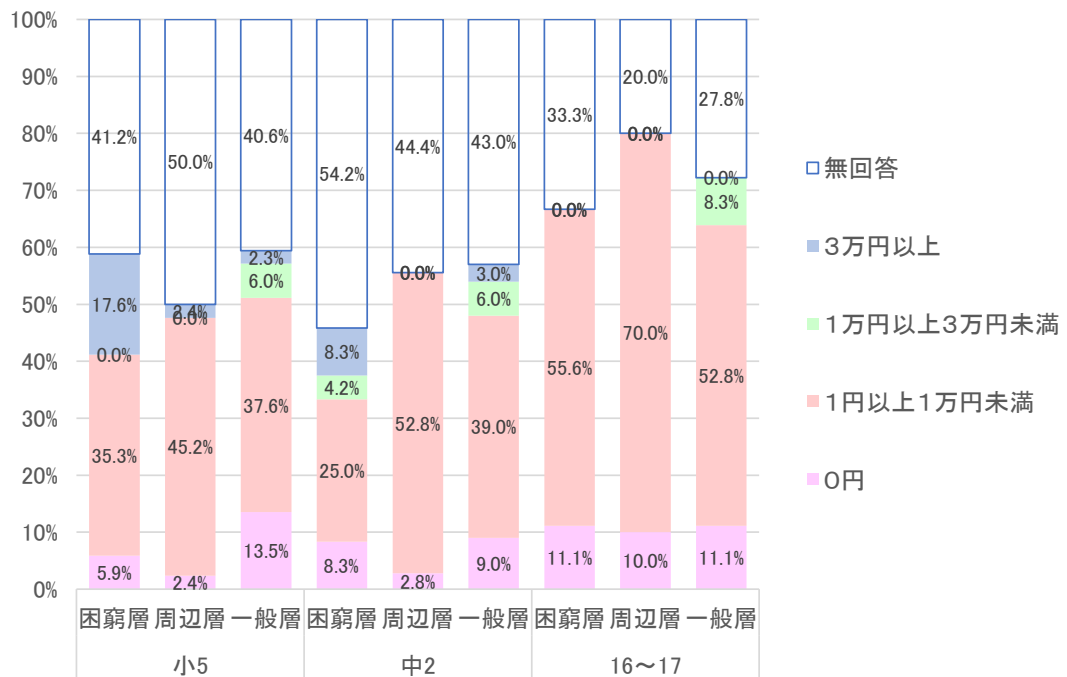
③ 家賃等（賃貸住宅）

賃貸住宅の家賃等については、困窮層では10万未満の割合が多く、特に16～17歳の方は無回答を除き、全員が10万円未満と回答しています。



④ 共益費・管理費（賃貸住宅）

共益費・管理費については、全体的に困窮層において、一般層と比較してやや低くなっています。

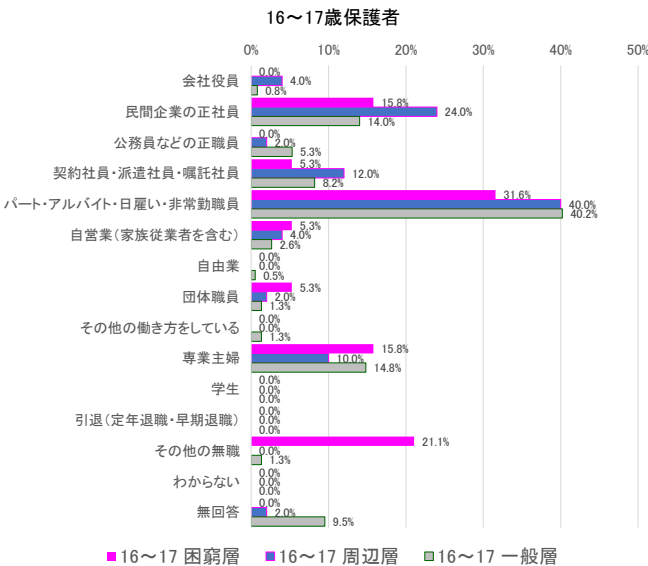
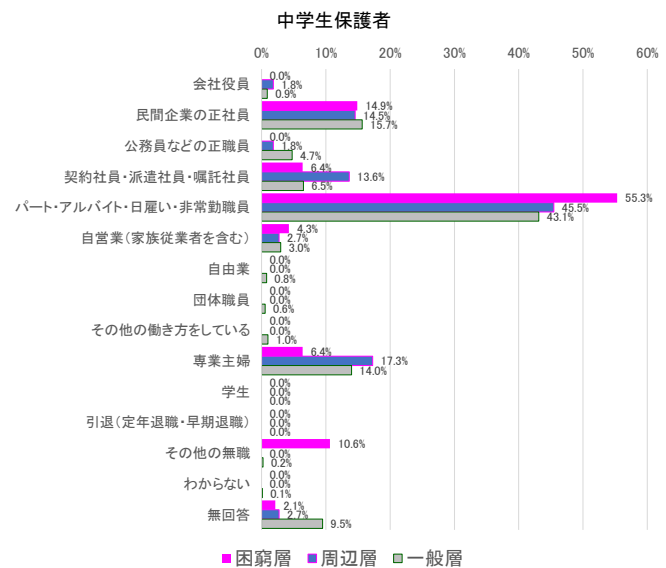
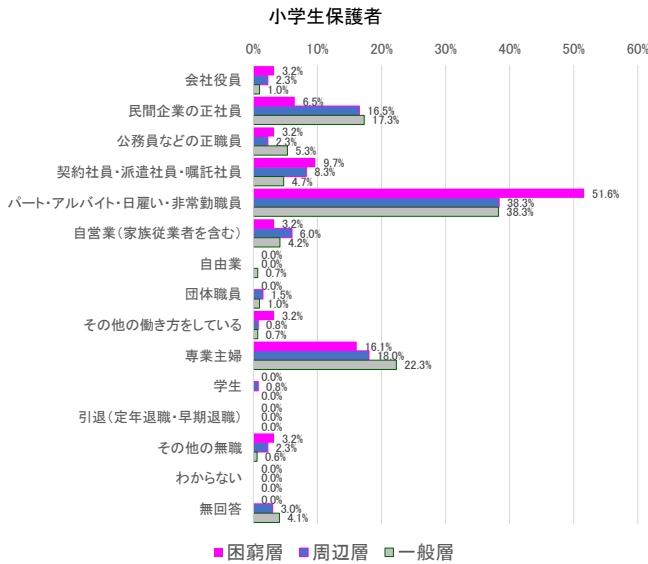


(4) 就労状況

① 母親（小中間 12、16～17 問 11）

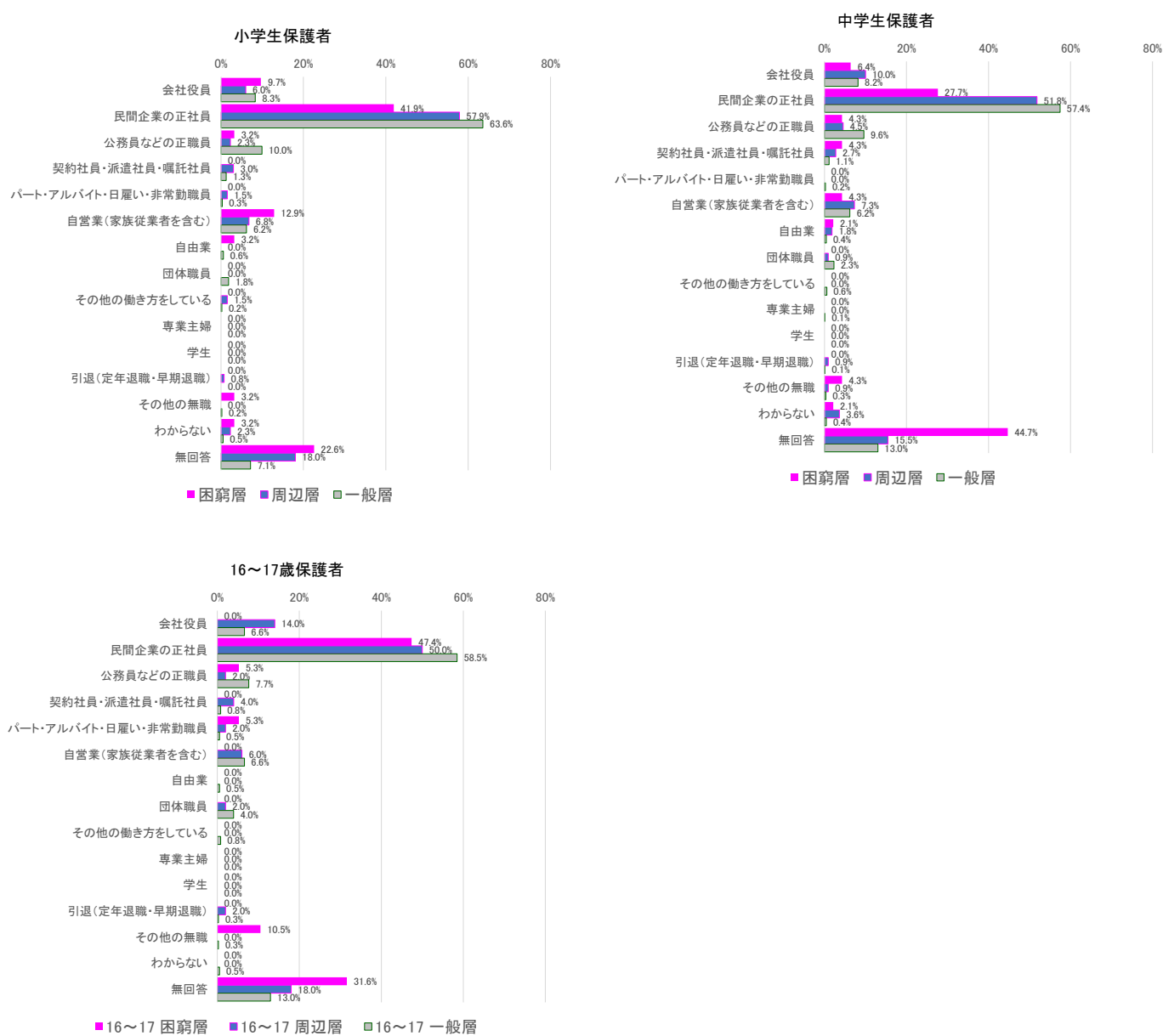
母親の就労状況は、小学生、中学生の保護者では、困窮層は他と比較して「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」の割合が高い一方で、小学生保護者では「民間企業の正社員」の割合が低いのが特徴です。

また、16～17 歳保護者では「その他の無職」の割合が多いのが特徴です。



② 父親（小中間 13、16～17 問 12）

父親の就労状況は、小学生、中学生の保護者では、一般層と比較すると、困窮層は「民間企業の正社員」の割合が低くなっています。

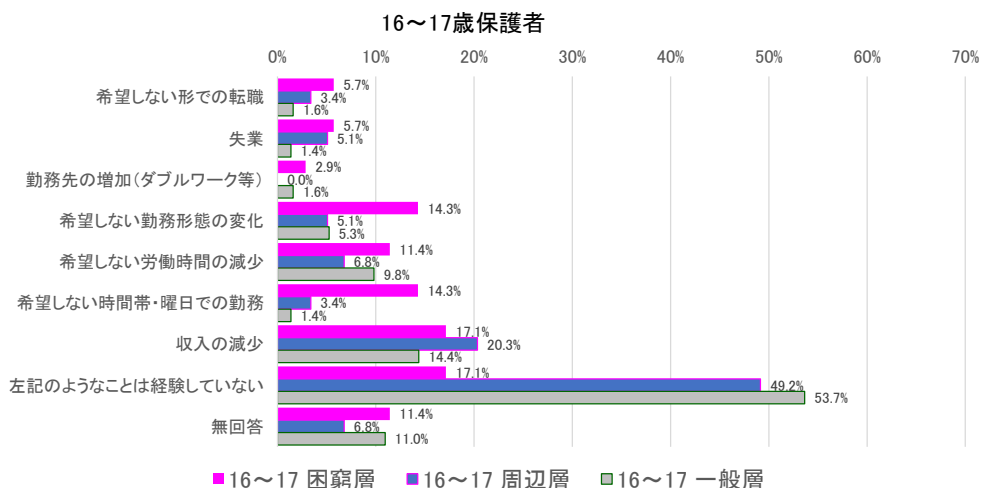
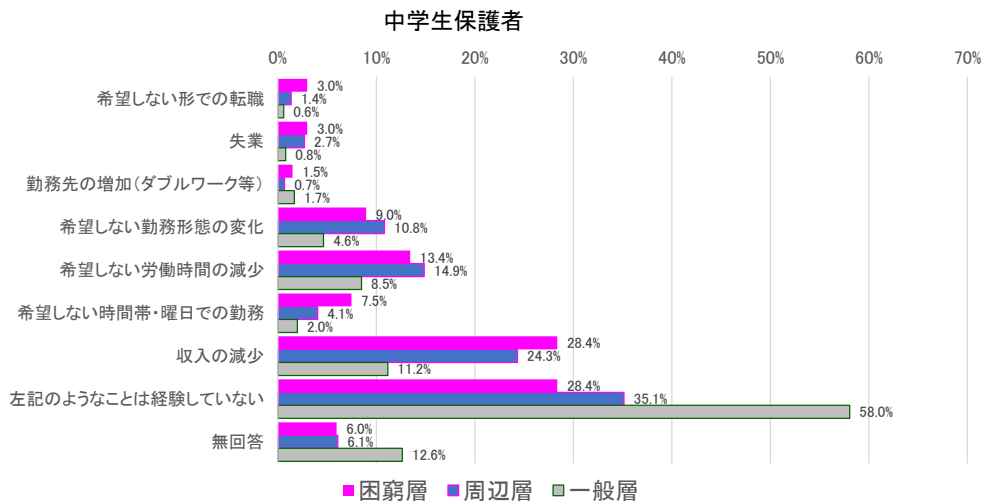
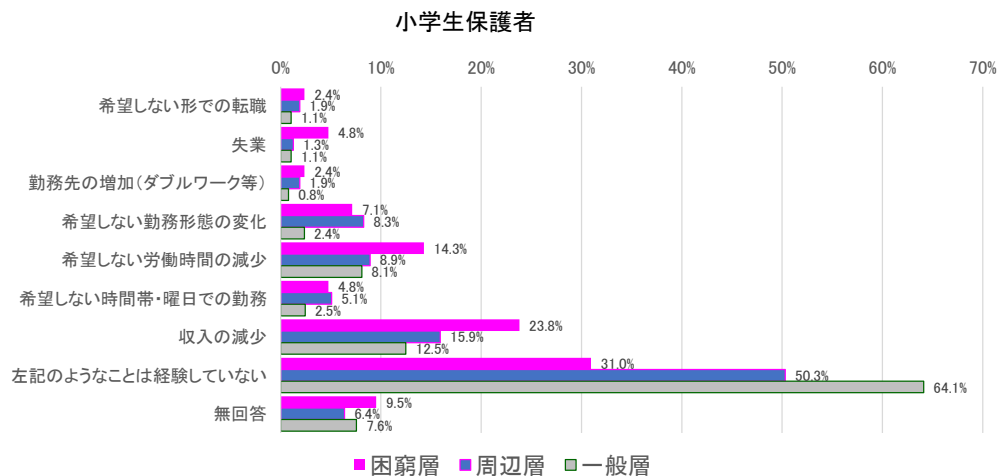


③ 新型コロナウイルスによる勤務の影響（小中間 14、16～17 問 13）

1) 母親

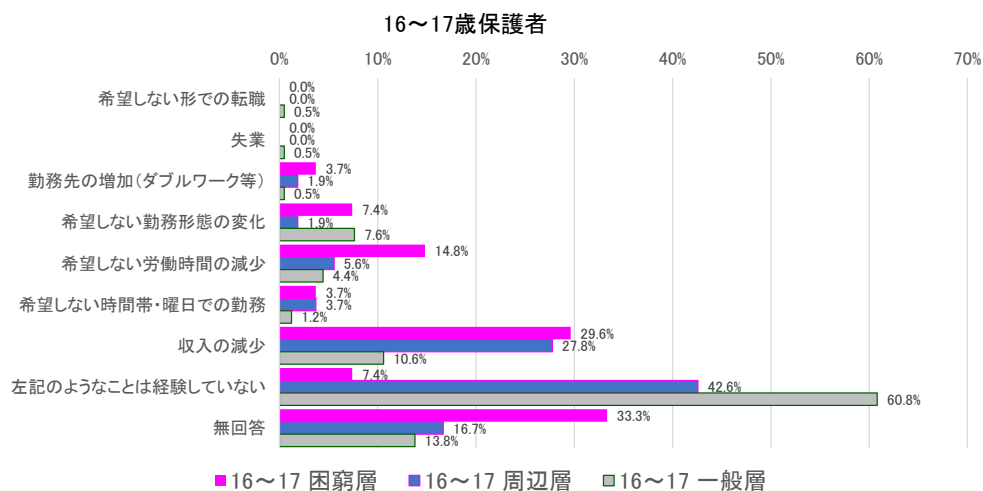
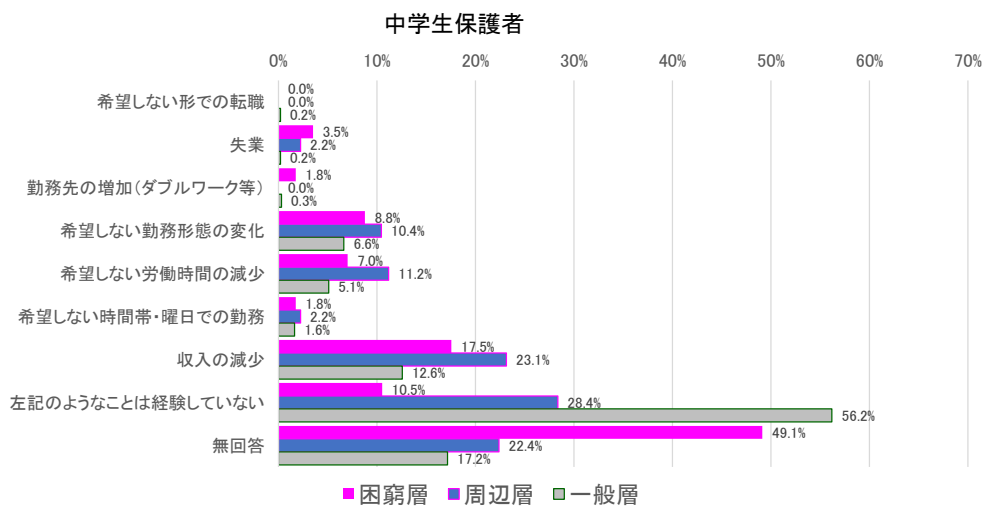
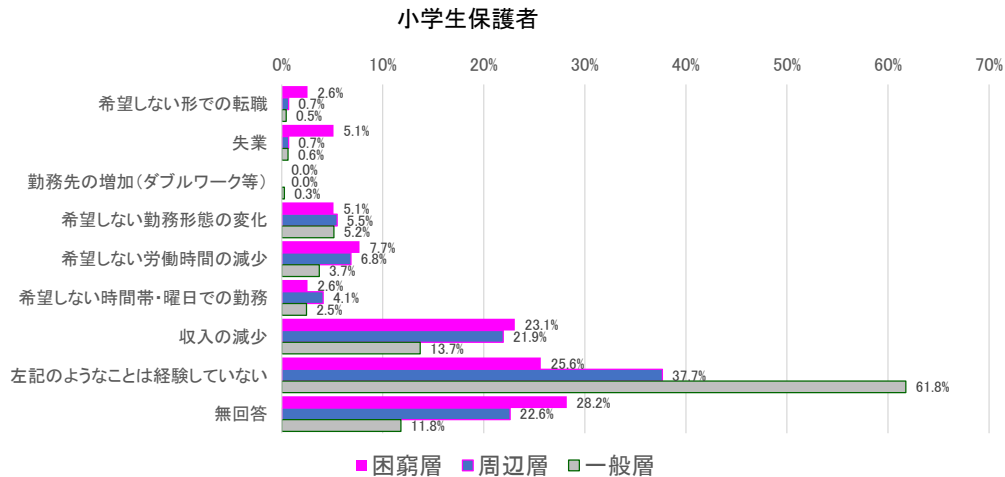
新型コロナウイルスによる勤務の影響を母親でみると、小学生・中学校の保護者は、困窮層、周辺層とも影響を「経験していない」の比率が低い一方で、「希望しない勤務形態の変化」「希望しない労働時間の減少」が多く、特に困窮層では「収入の減少」が顕著となっています。

16～17歳保護者では、困窮層は「希望しない勤務形態の変化」「希望しない労働時間の減少」「希望しない時間帯・曜日での勤務」が多くなっています。



2) 父親

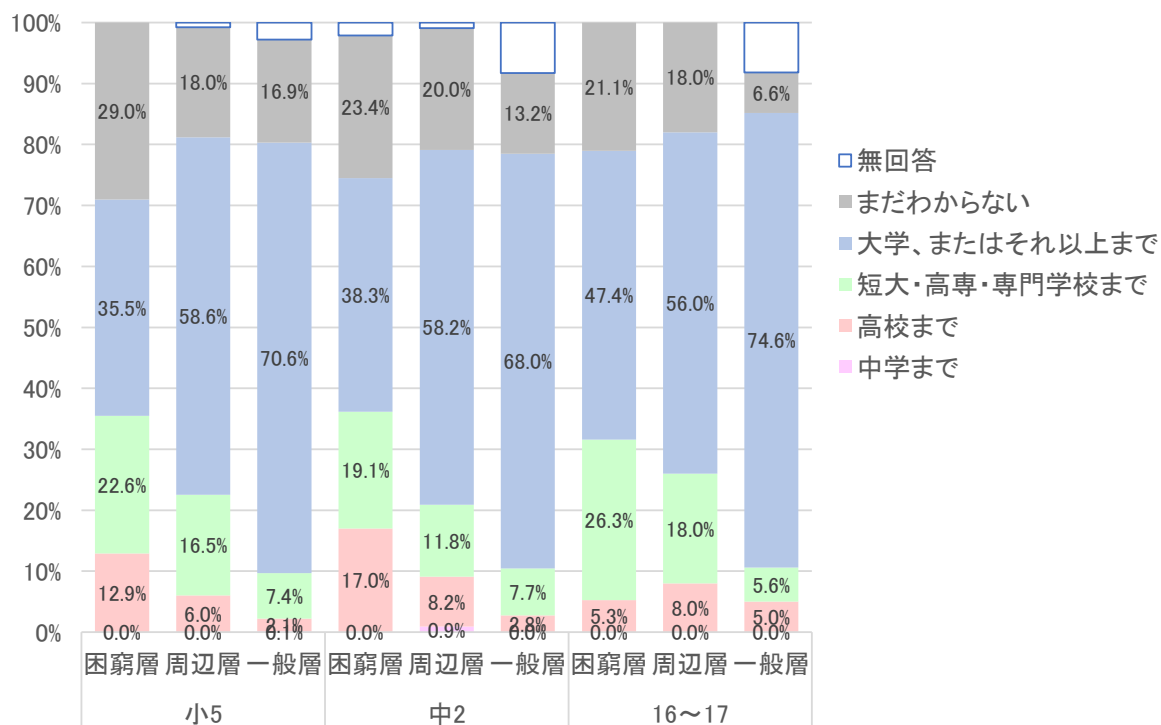
新型コロナウイルスによる勤務の影響を父親でみると、困窮層、周辺層とも「収入の減少」が多く、影響を「経験していない」の回答が非常に少ないのが特徴です。



(5) どの段階まで教育を受けさせるか

子どもにどの段階まで教育を受けさせるかについては、困窮層ではいずれの年齢でも「中学まで～短大・高専・専門学校まで」の割合が多くなっています。

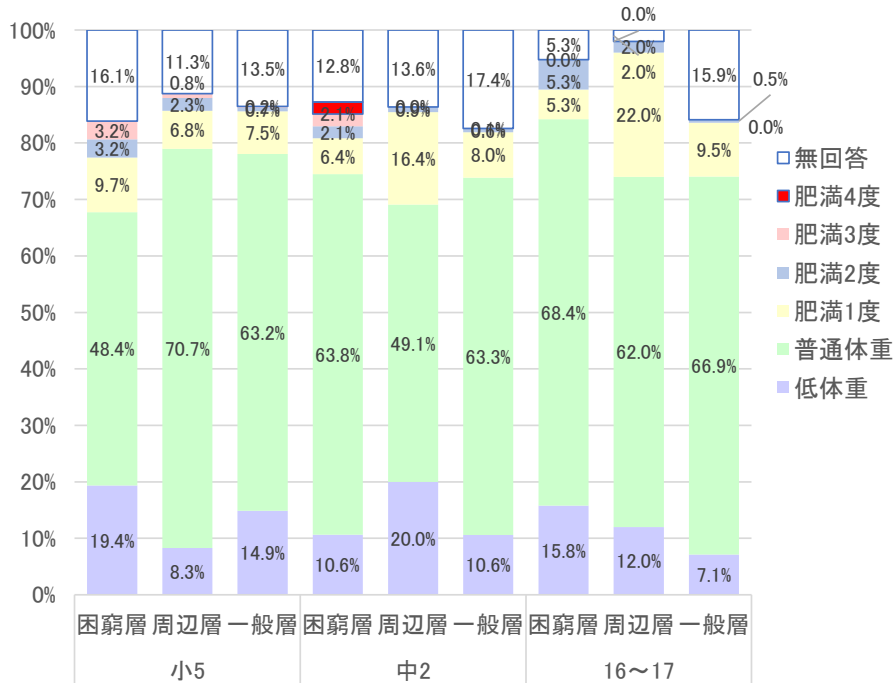
子ども本人の回答と比較すると、困窮層のうちいずれの年齢においても「高校まで」の割合が子ども本人より保護者の方が低くなっていることから、本人と保護者の希望が乖離していることが伺えます。



(6) 保護者と子どもの BMI について

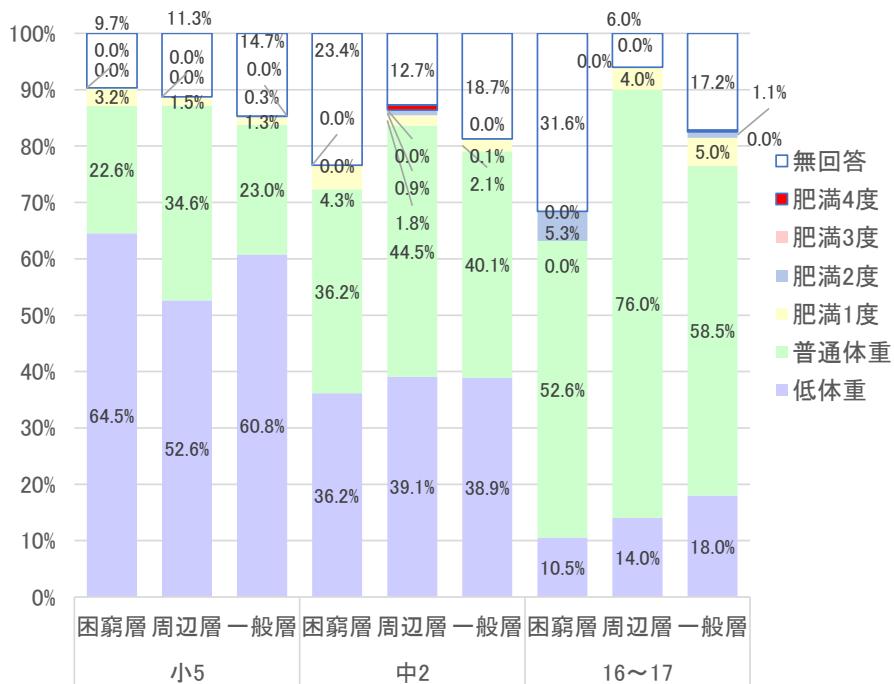
① 保護者本人の BMI について (小中間 17、16~17 問 16)

保護者本人の BMI については、中学生、16~17 歳の周辺層で肥満 1 度の割合がやや多くなっています。



② 子どもの BMI について

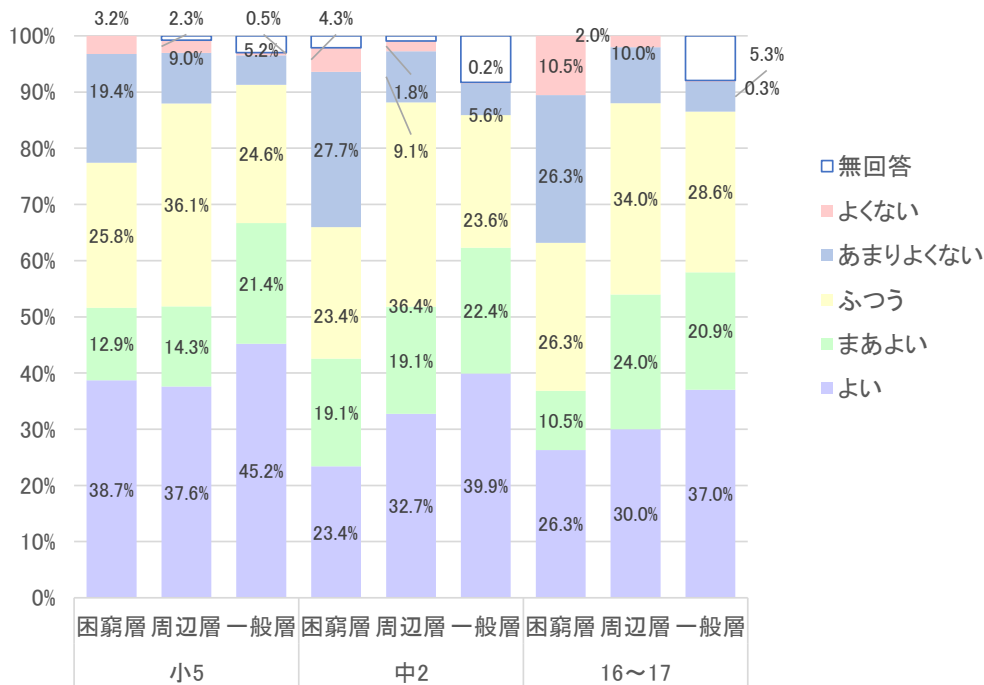
子どもの BMI については、16~17 歳の困窮層で「低体重~普通体重」の割合がやや少なくなっています。



(7) 健康状態について

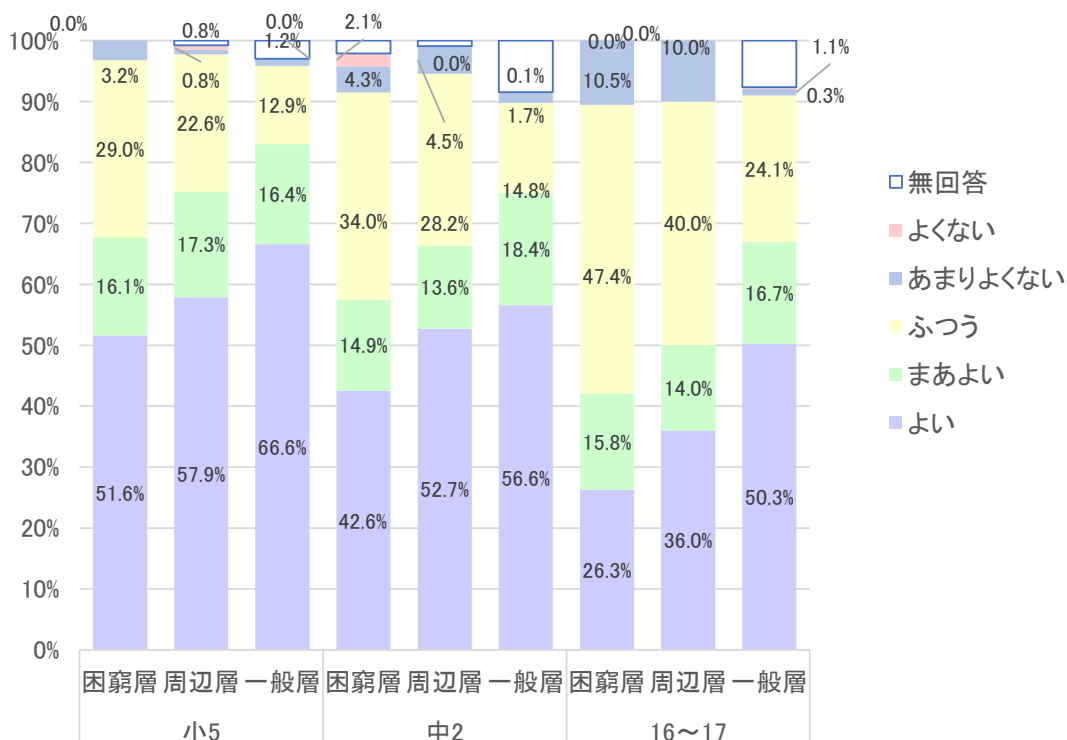
① 保護者の健康状態（小中間 18-1、16～17 問 17-1）

保護者の健康状態については、いずれの年齢でも、一般層と比較すると、困窮層では「あまりよくない」、「よくない」への回答が多くなっています。



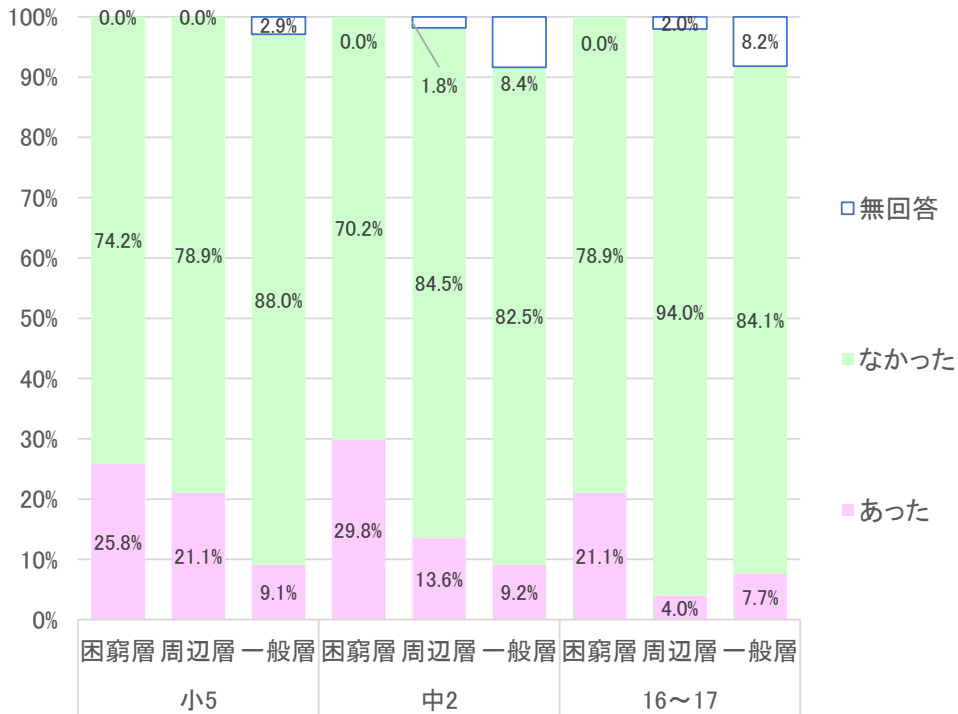
② 子どもの健康状態（小中間 18-2、16～17 問 17-2）

子どもの健康状態については、特に16～17歳では、一般層と比較すると、困窮層では「よい」、「まあよい」への回答が少なくなっています。



③ 医療機関への受診が必要であるが、受診しなかった経験の有無

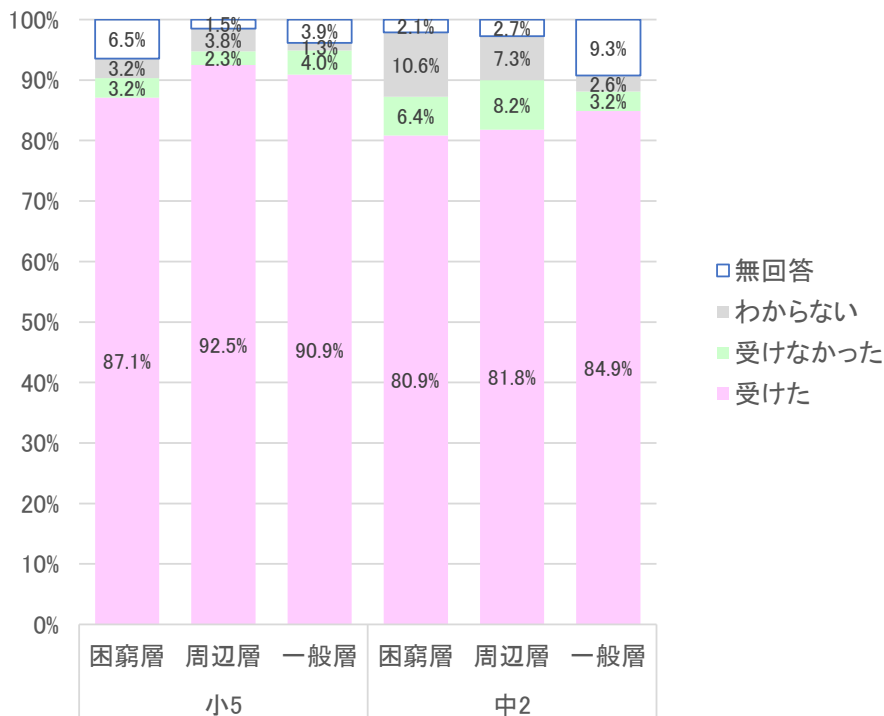
医療機関への受診が必要であるが、受診しなかった経験の有無は、困窮層では「あった」と回答した方がいずれの年齢層でも約 2～3 割と一般層と比較すると多くなっています。小学生では周辺層も「あった」が 20%を超えています。



④ 予防接種の状況（小中間 20）

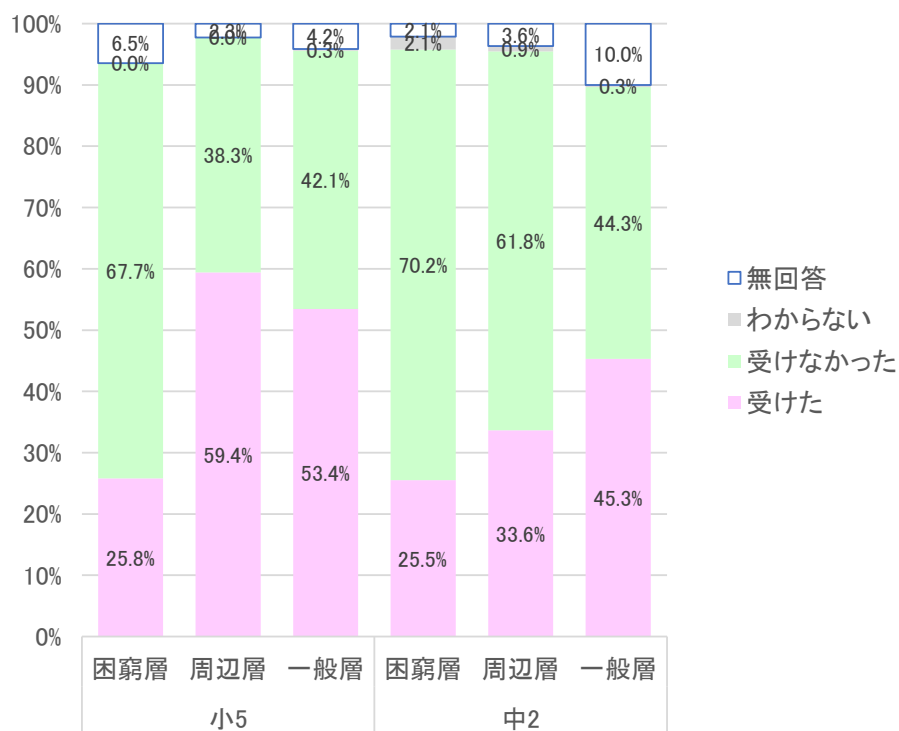
1) 定期予防接種

定期予防接種では、顕著な差は見られませんでした。



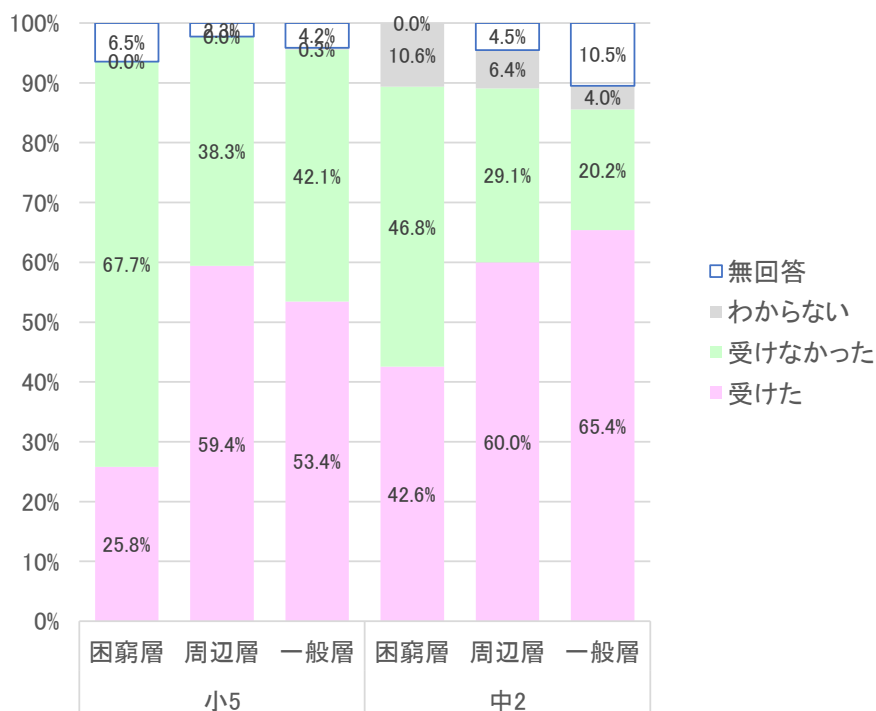
2) 任意接種（インフルエンザ）

任意接種（インフルエンザ）では、小中とも困窮層で「受けた」への回答が全体の約 4分の1にとどまり、約半数を「受けた」と回答する一般層より少なくなっています。



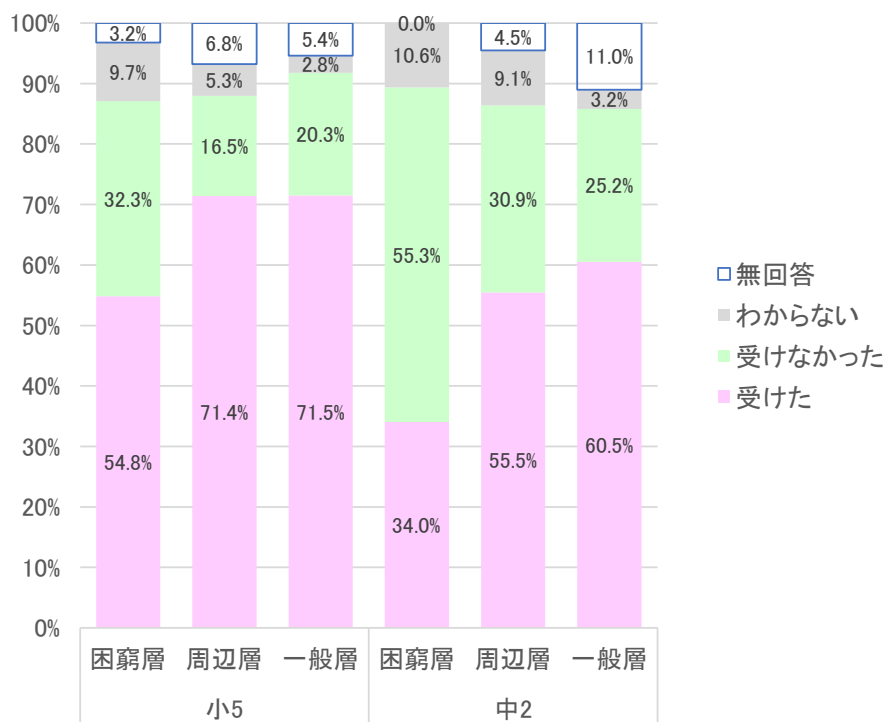
3) 任意接種（おたふくかぜ）

任意接種（おたふくかぜ）では、小中とも困窮層で「受けた」への回答が一般層と比較すると少なくなっています。



4) 任意接種（水ぼうそう）

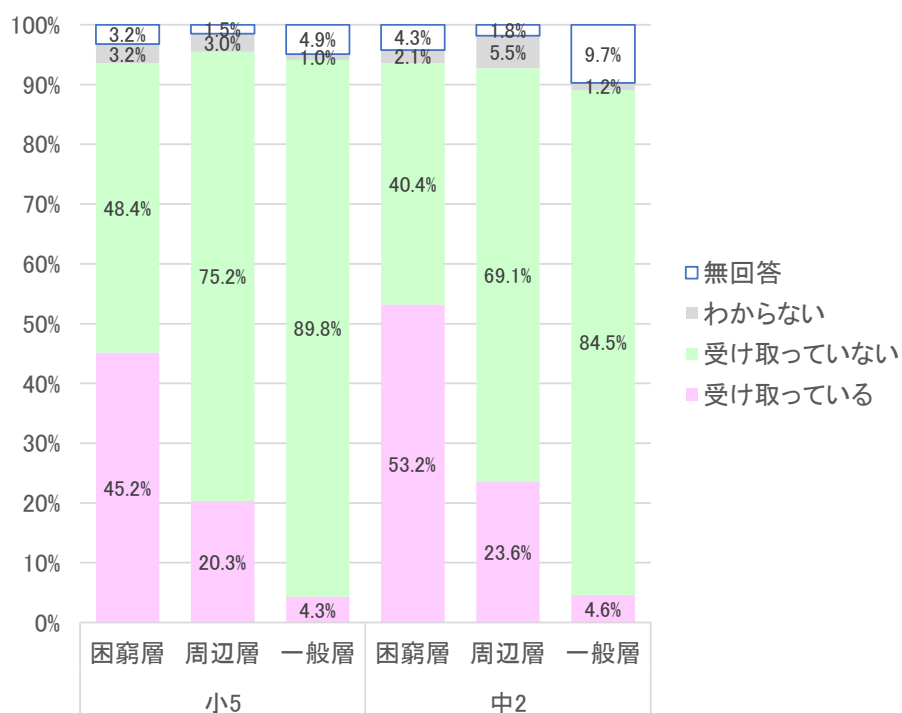
任意接種（水ぼうそう）では、小中とも困窮層で「受けた」への回答が一般層と比較すると少なくなっています。



(8) 就学支援について

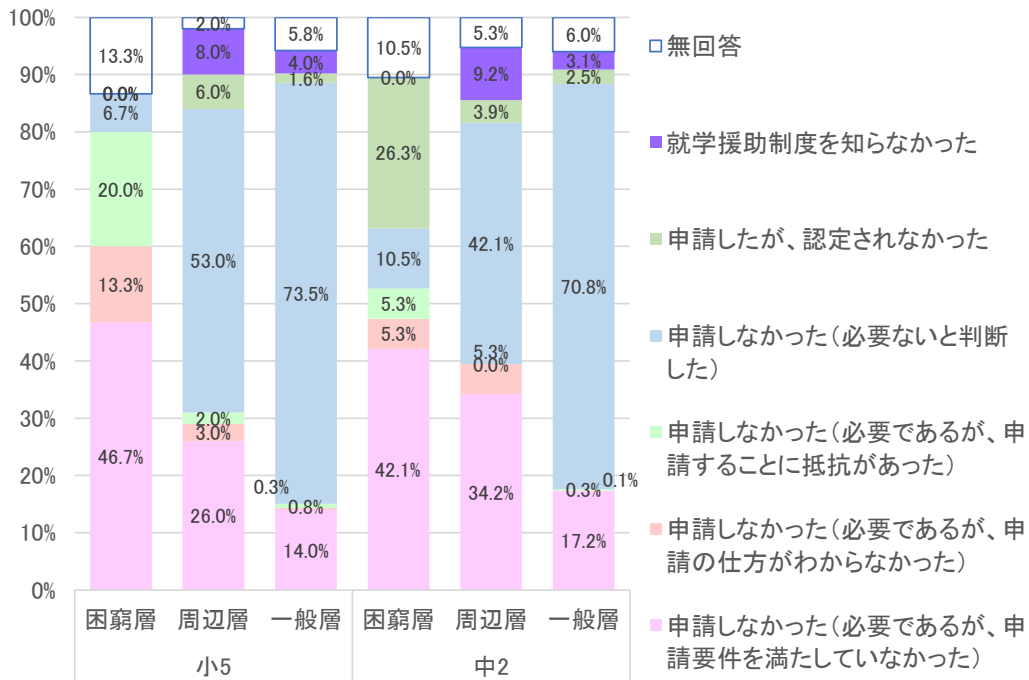
① 就学支援の受け取り状況（小中間 25）

就学支援を受け取っているかどうかについては、困窮層でも「受け取っている」は約半数にとどまっています。



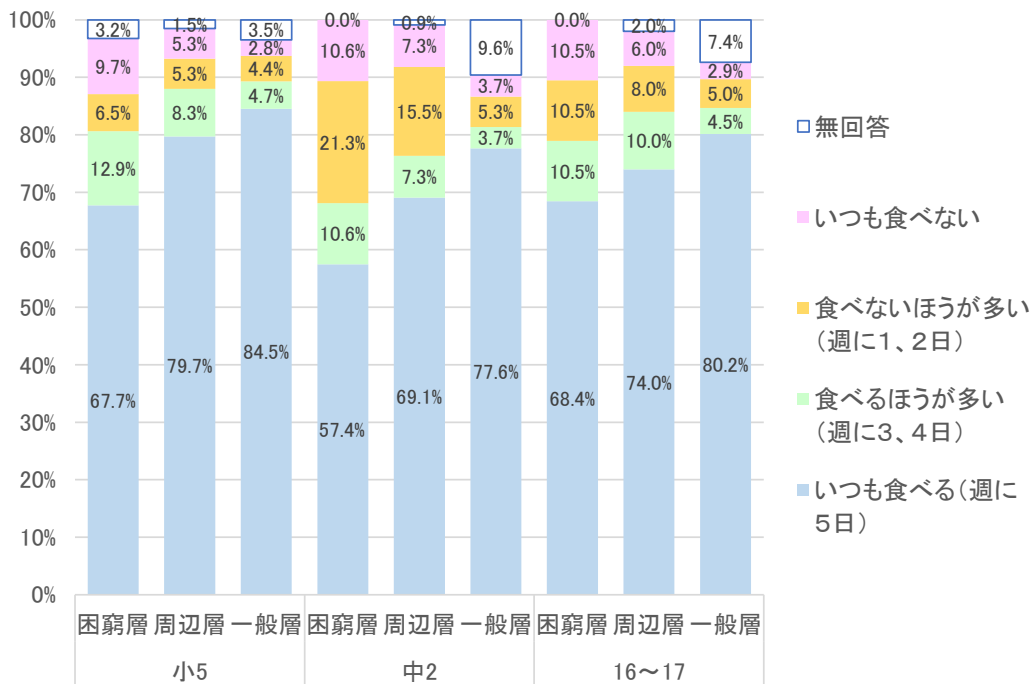
② 就学支援を受け取っていない理由（小中間 25-2）

就学支援を受け取っていない理由は、困窮層では小中とも「申請しなかった（必要であるが、申請要件を満たしていなかった）」が最も多くなっています。



(9) 朝食の状況

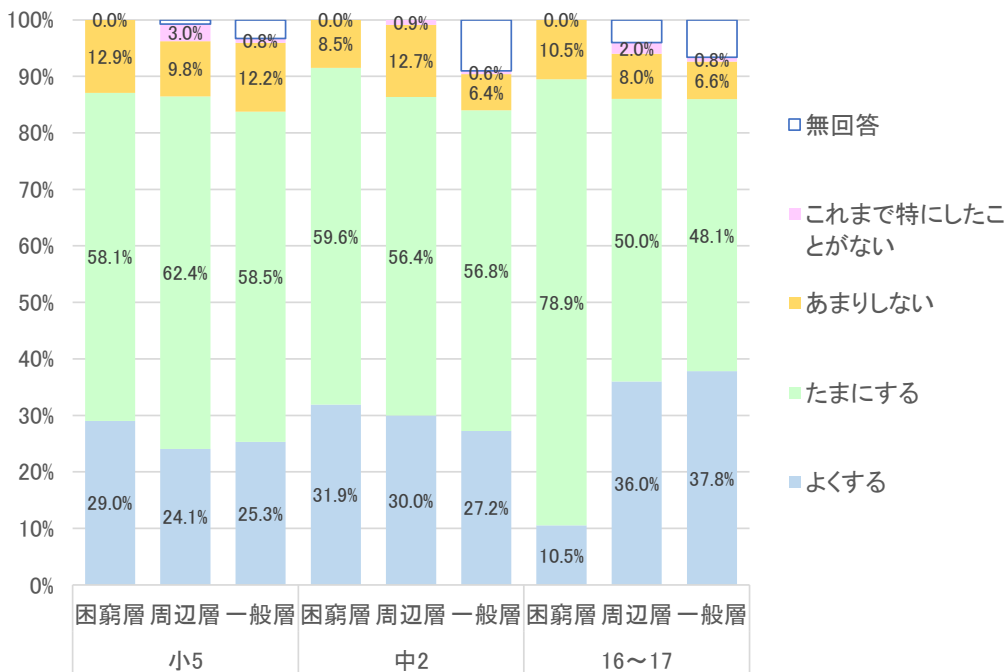
朝食の状況は、困窮層では「いつも食べる（週に5日）」の割合が一般層と比較すると低いのが特徴となっています。



(10) 子どもとのコミュニケーション

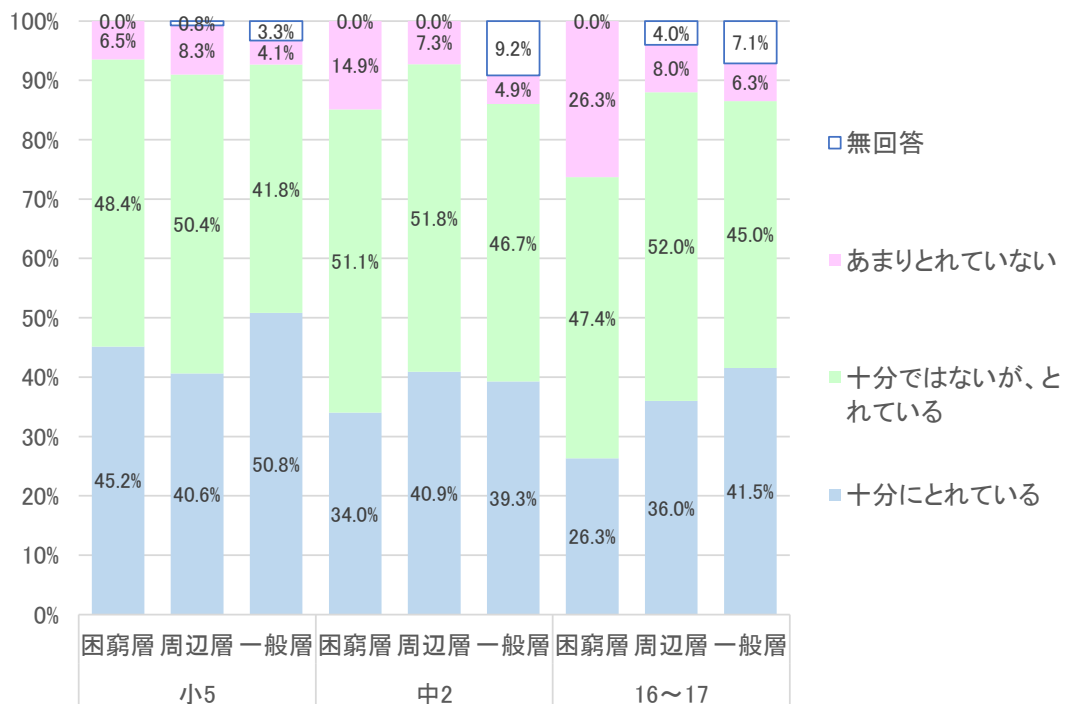
① お子さんと進路の話をしているか (小中間 31、16～17 問 29)

お子さんと進路の話をしているかについては、16～17歳の困窮層で「よくする」の割合が低いのが特徴です。



② お子さんと十分に過ごす時間がとれているかどうか (小中間 32、16～17 問 30)

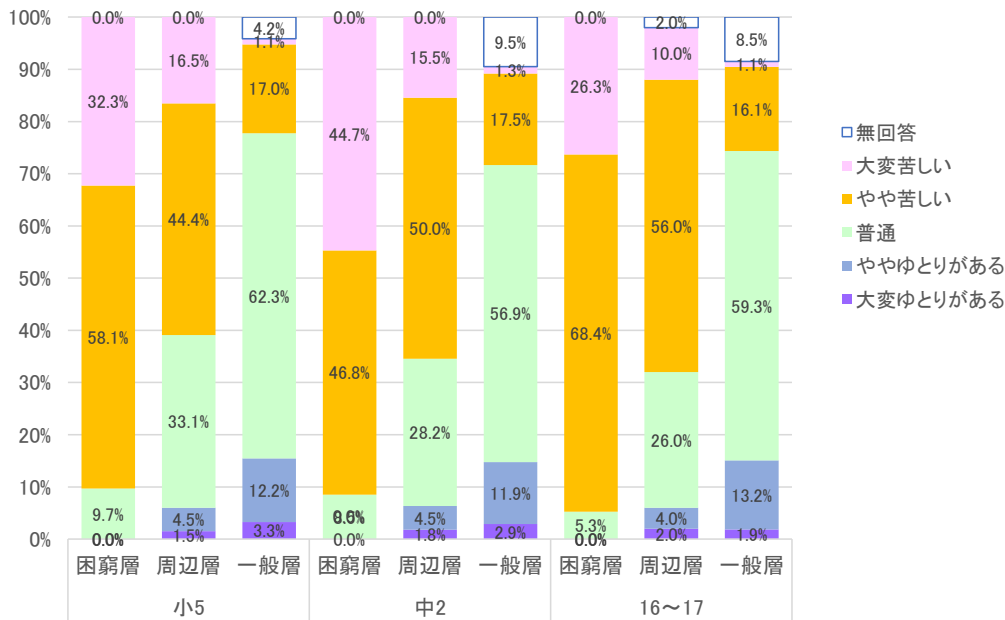
お子さんと十分に過ごす時間がとれているかどうかについては、特に16～17歳の困窮層で「十分にとれている」の割合が少ないのが特徴です。



(11) 現在の暮らしの状況

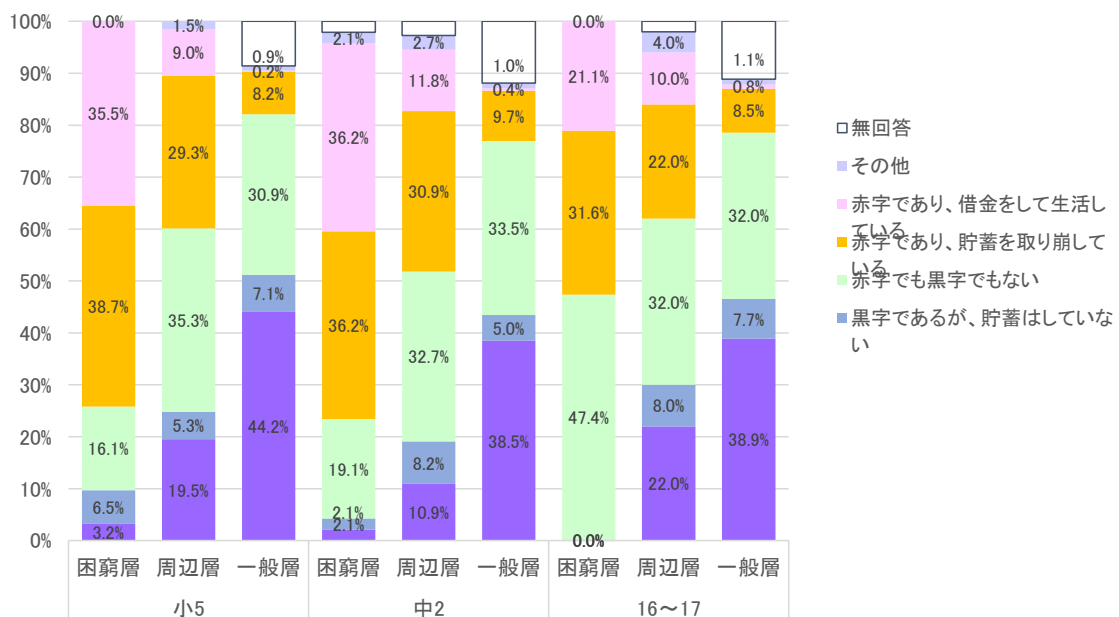
① 現在の暮らしの状況（小中間 33、16～17 問 31）

現在の暮らしの状況は、困窮層、周辺層では一般層の回答に多い「普通」の割合が低いことに対し、「やや苦しい」「大変苦しい」を合わせた『苦しい』の割合が非常に高く、特に困窮層では9割以上となっています。



② 家計の状況（小中間 34、16～17 問 32）

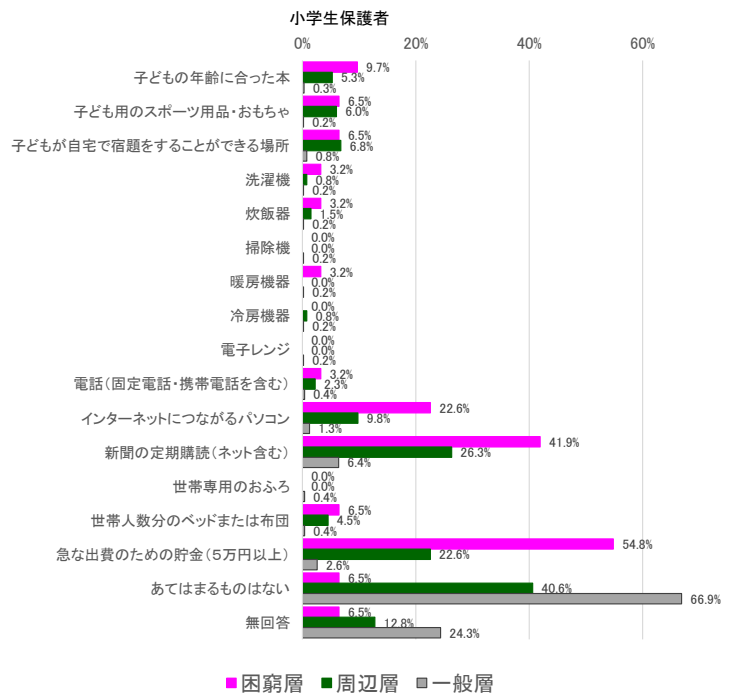
家計の状況については、困窮層の大半が貯蓄をしていない状況となっており、さらにほとんど黒字の家計はなく、収支均衡か赤字となっています。また、小学校、中学校の困窮層で「赤字であり、借金をして生活している」と回答する家庭が4割近くとなっています。



③ 経済的理由のため、家がないもの（小中間 40、16～17 問 38）

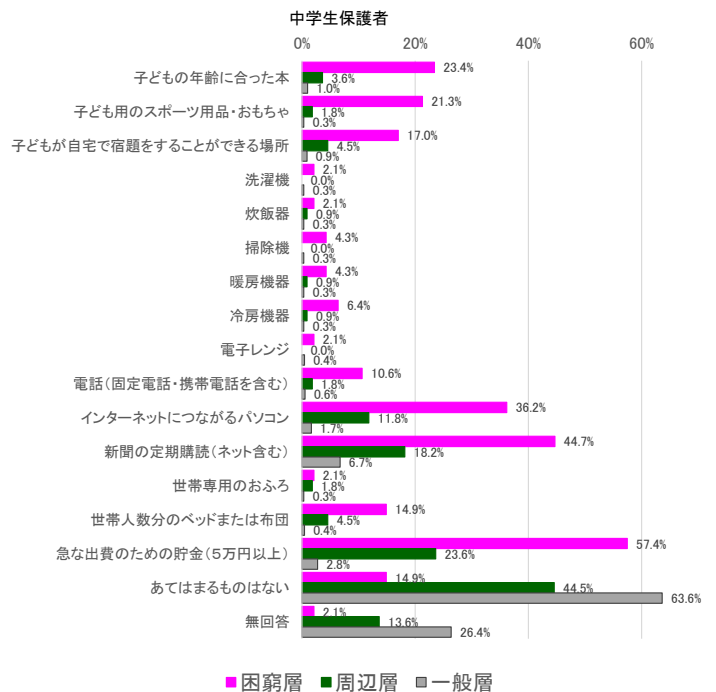
1) 小学生保護者

小学生のうち、経済的理由のため、家がないものは、困窮層では特に「急な出費のための貯金（5万円以上）」への回答が5割以上となっており、「新聞の定期購読（ネット含む）」「インターネットにつながるパソコン」も多くなっています。



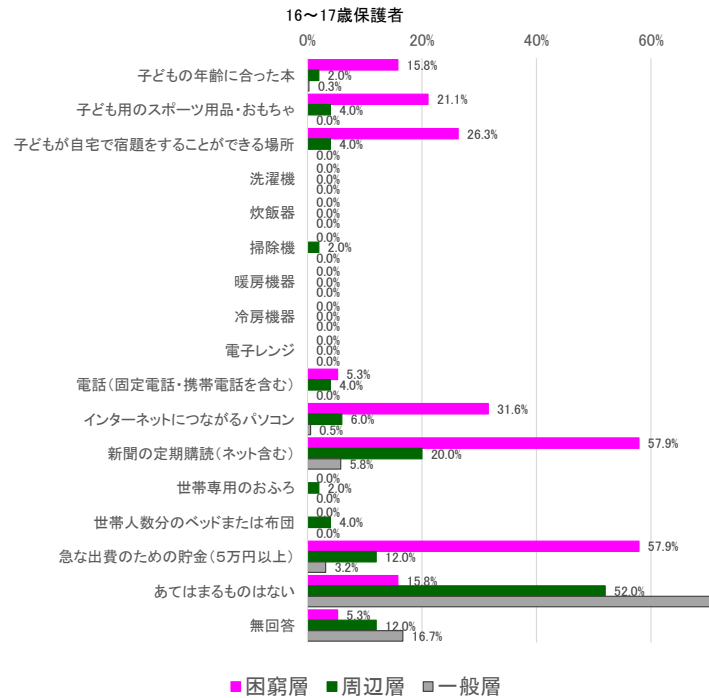
2) 中学生保護者

中学生のうち、経済的理由のため、家がないものは、困窮層では、特に「急な出費のための貯金（5万円以上）」への回答が6割近くとなっており、ほかに、「子どもの年齢に合った本」「子ども用のスポーツ用品・おもちゃ」「子どもが自宅で宿題をすることができる場所」「インターネットにつながるパソコン」「新聞の定期購読（ネット含む）」などと、多くの項目への回答が見られます。



3) 16~17歳

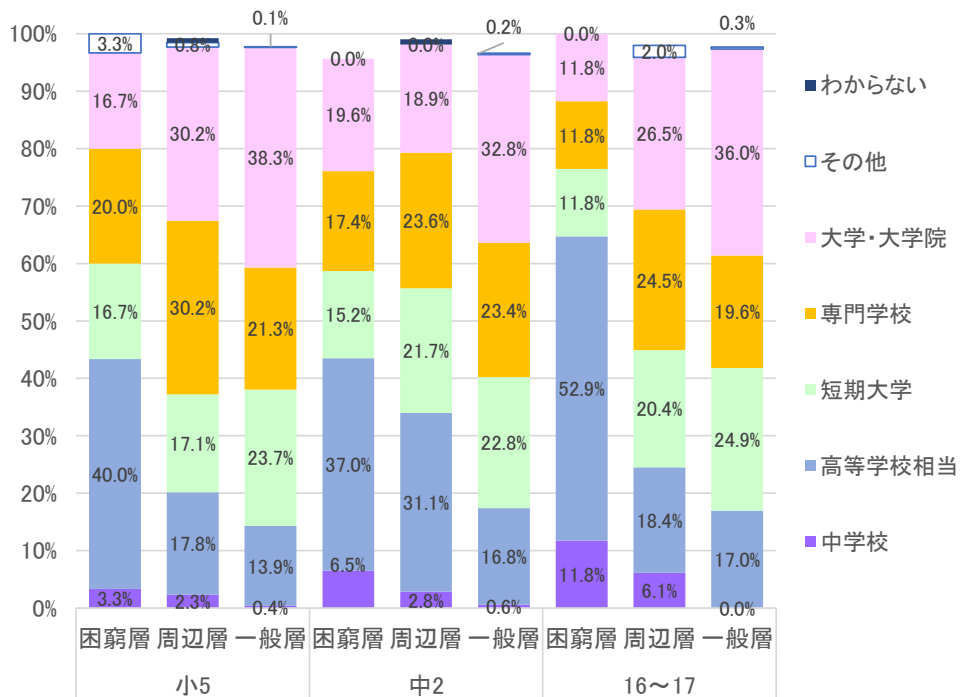
16~17歳のうち、経済的理由のため、家にはないものは、困窮層では、中学生保護者と同様に、特に「急な出費のための貯金(5万円以上)」への回答が6割近くとなっており、ほかに、「子どもの年齢に合った本」「子ども用のスポーツ用品・おもちゃ」「子どもが自宅で宿題をすることができる場所」「インターネットにつながるパソコン」「新聞の定期購読(ネット含む)」などと、多くの項目への回答が見られます。



(12) 保護者の最終学歴

① 母親 (小中間 41、16~17 問 39)

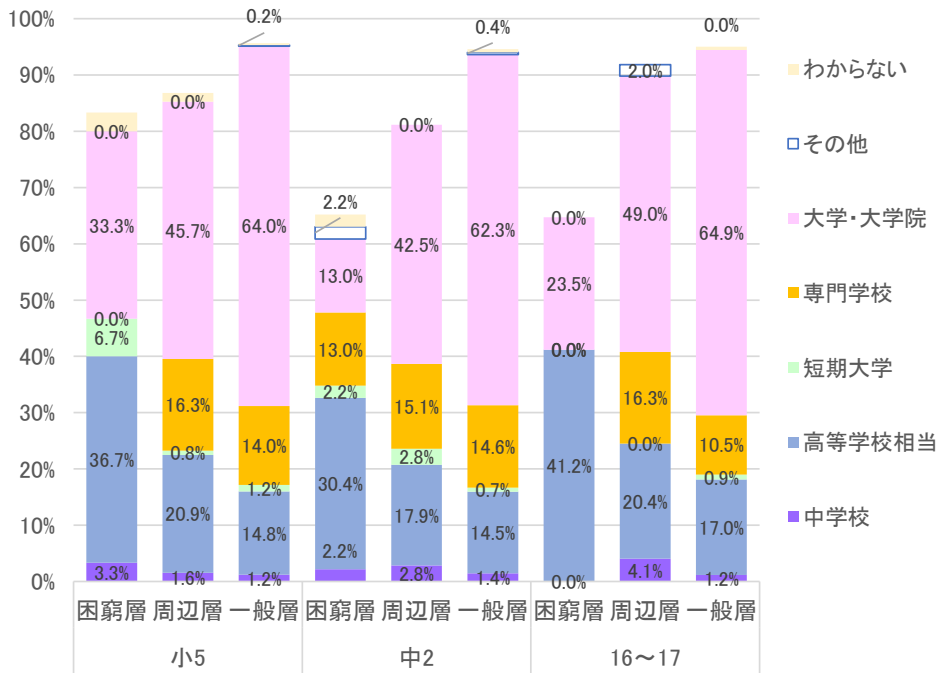
母親の最終学歴をみると、困窮層は、「高等学校相当」の割合がいずれも高く、一般層と比較すると、「中学校」の割合も高いのが特徴となっています。



※学歴区分は集約しています。

② 父親（小中間 42、16～17 問 40）

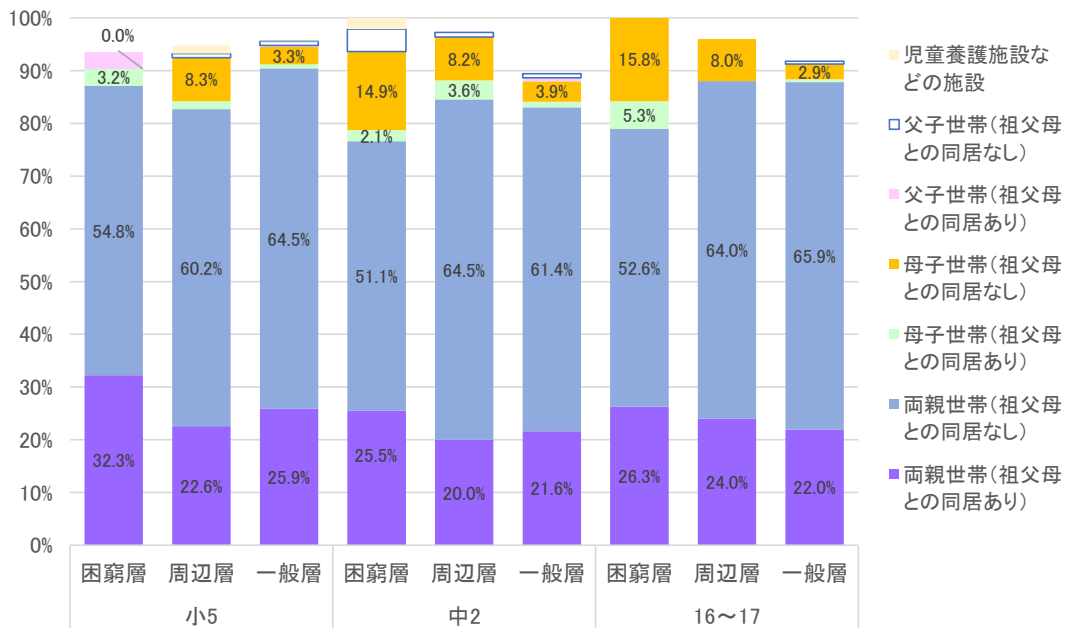
父親の最終学歴をみると、困窮層は、「高等学校相当」の割合がいずれも高く、一般層と比較すると、「中学校」の割合も高いのが特徴となっています。



(13) 保護者が子どもの時の家庭環境

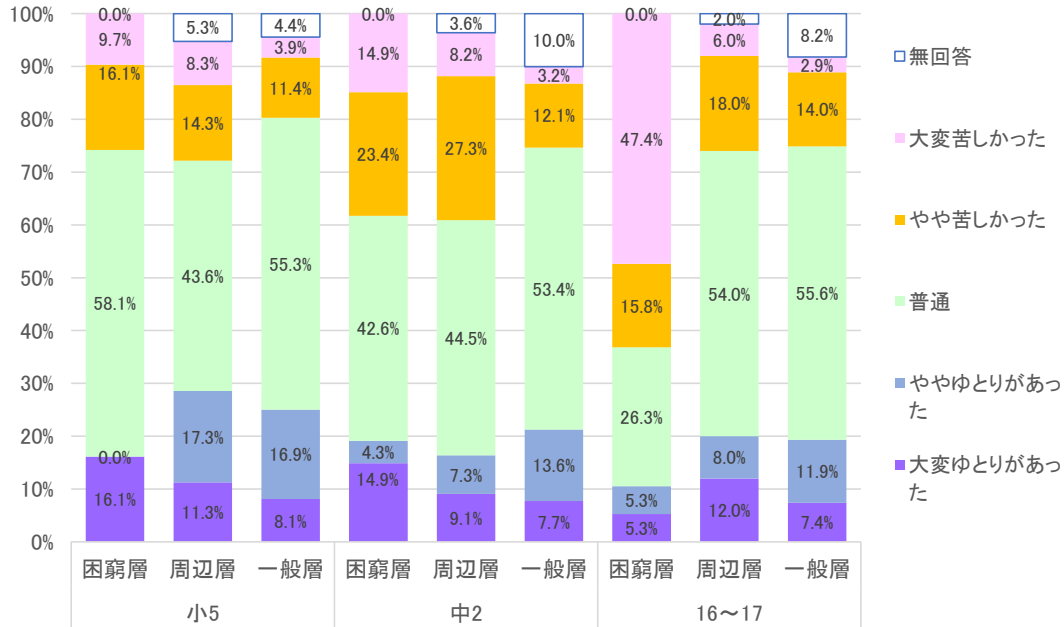
① 回答者が15歳のときの家庭状態（小中間 43、16～17 問 41）

回答者が15歳のときの家庭状態をみると、中学生保護者及び16～17歳保護者では一般層と比較すると、「母子家庭」の割合が多いのが特徴となっています。



② 保護者が15歳のときの家計のゆとりの状況（小中間44、16～17問42）

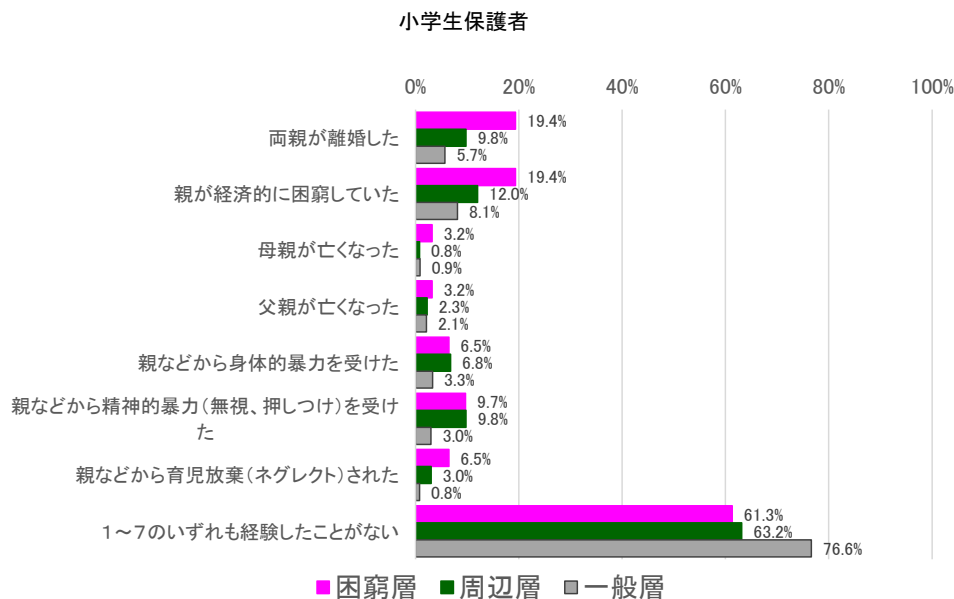
保護者が15歳のときの家計のゆとりの状況をみると、16～17歳保護者の困窮層では「大変苦しかった」が多くなっています。また、中学生保護者では、困窮層、周辺層とも「やや苦しかった」「大変苦しかった」の割合が多くなっています。



③ 保護者が成人する前の体験（小中間45、16～17問43）

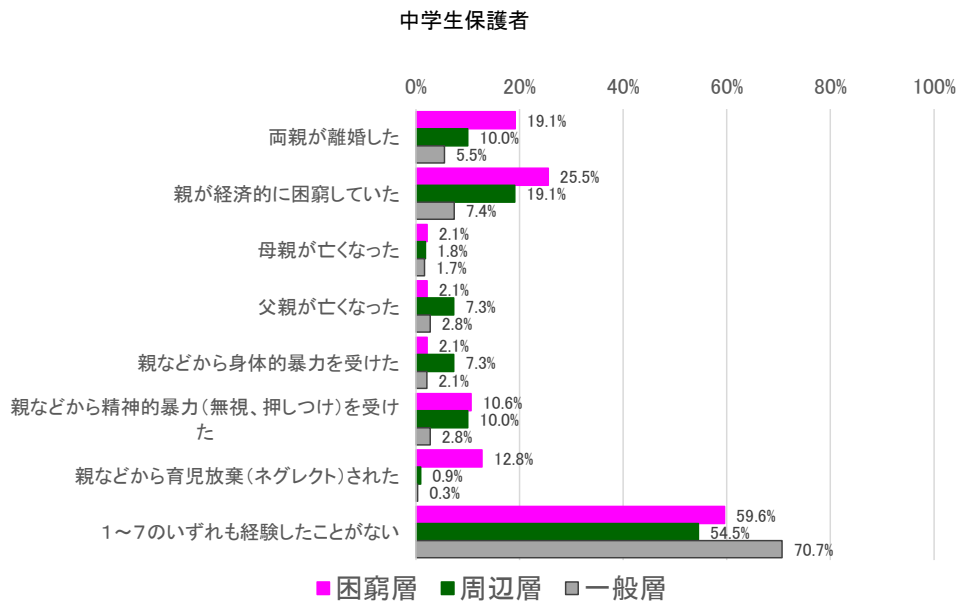
1) 小学生保護者

保護者が成人する前の体験で、困窮層で比較的多いのは「両親が離婚した」「親が経済的に困窮していた」となっています。また、困窮層、周辺層とも一般層と比較して多いのが「親などから身体的暴力を受けた」「親などから精神的暴力（無視、押しつけ）を受けた」「親などから育児放棄（ネグレクト）された」となっています。



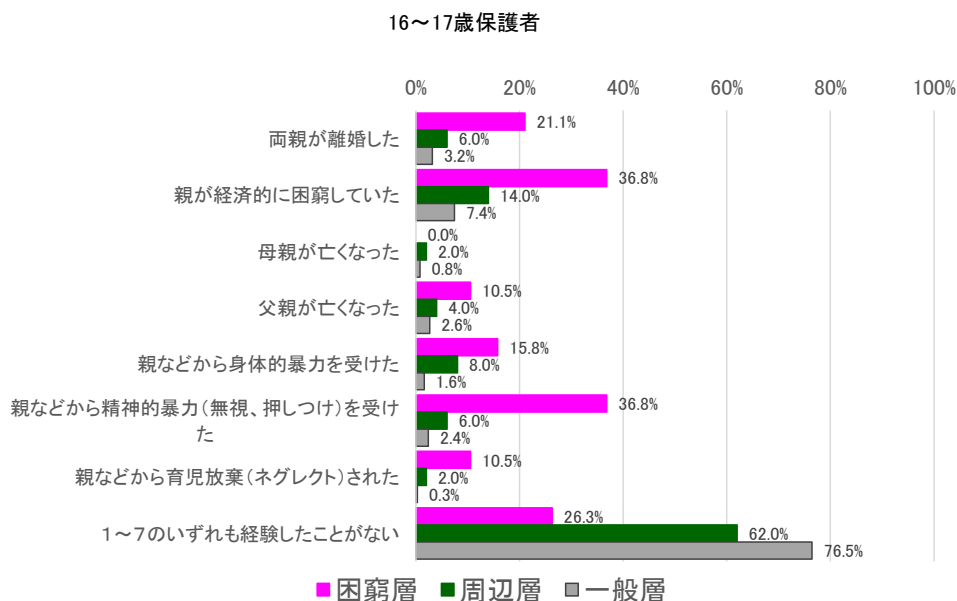
2) 中学生保護者

保護者が成人する前の体験で、困窮層、周辺層で一般層と比較して多いのは「両親が離婚した」「親が経済的に困窮していた」「親などから精神的暴力（無視、押しつけ）を受けた」となっています。



3) 16~17歳保護者

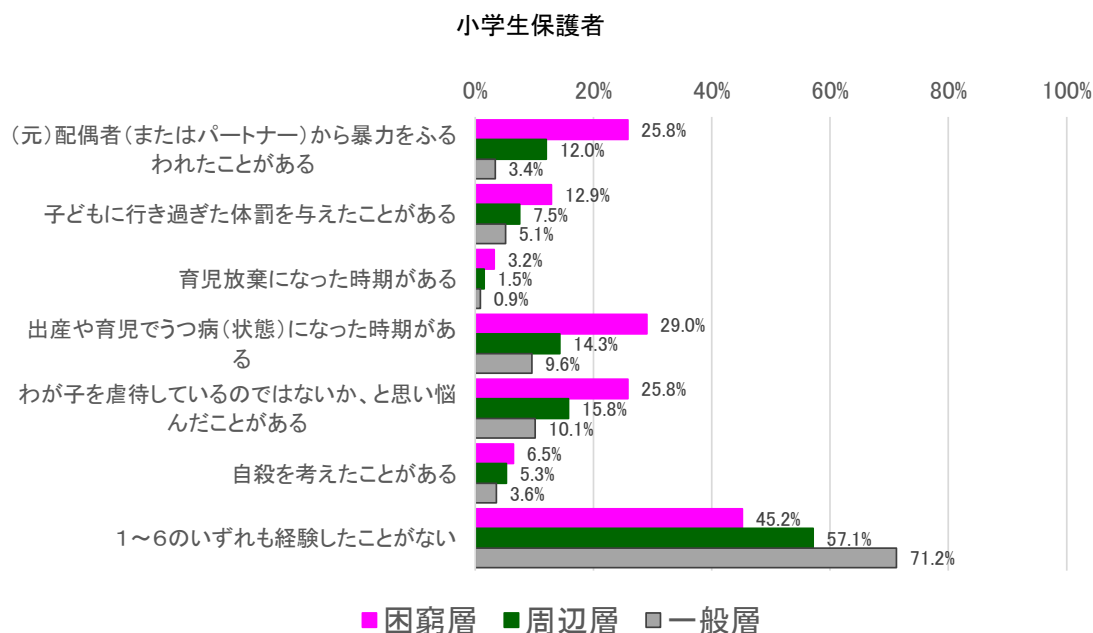
保護者が成人する前の体験で、困窮層で多いのは「両親が離婚した」「親が経済的に困窮していた」「父親が亡くなった」「親などから身体的暴力を受けた」「親などから精神的暴力（無視、押しつけ）を受けた」「親などから育児放棄（ネグレクト）された」となっています。



④ お子さんが生まれてからの経験（小中間 46、16～17 問 44）

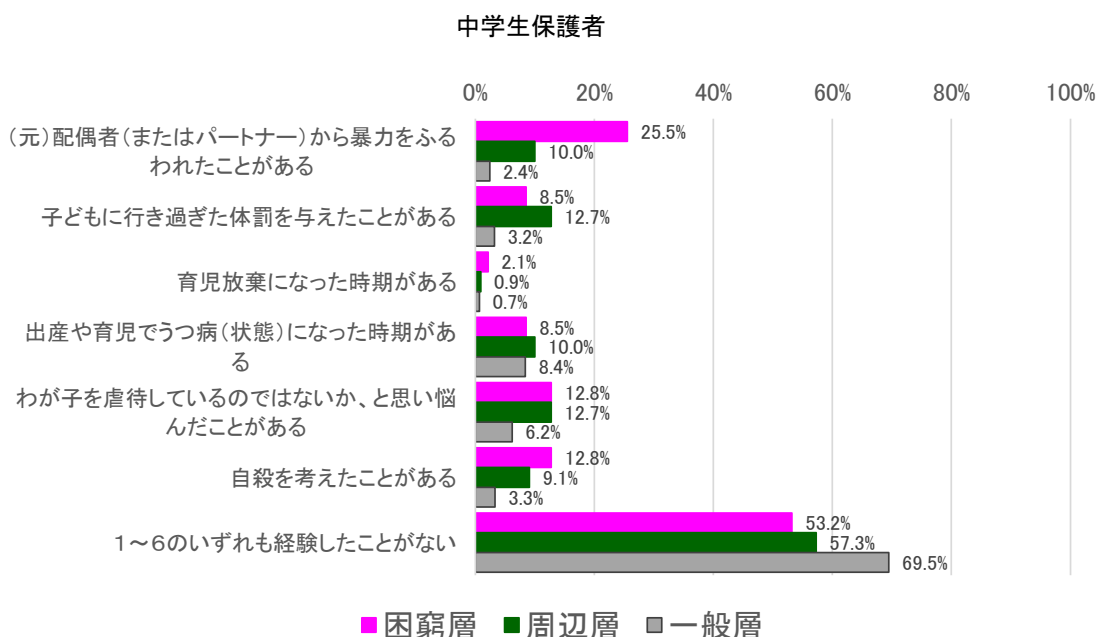
1) 小学生保護者

お子さんが生まれてからの経験は、困窮層で特に多いのは「(元)配偶者(またはパートナー)から暴力をふるわれたことがある」「出産や育児でうつ病(状態)になった時期がある」「わが子を虐待しているのではないか、と思い悩んだことがある」となっています。



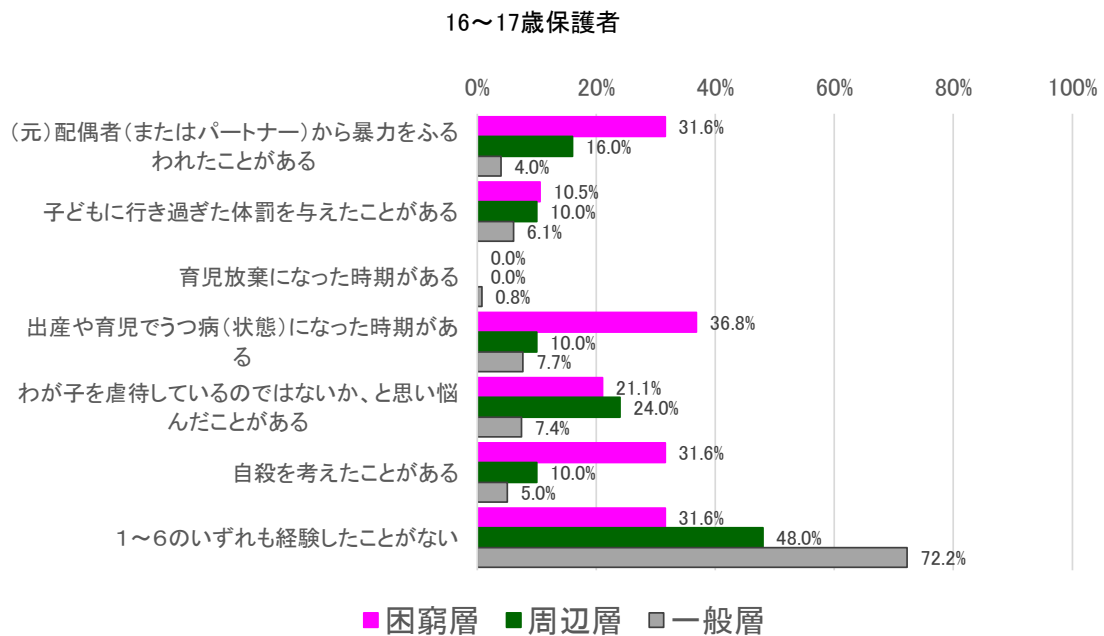
2) 中学生保護者

困窮層で特に多いのは「(元)配偶者(またはパートナー)から暴力をふるわれたことがある」であることが特徴です。



3) 16~17歳保護者

困窮層で特に多いのは「(元)配偶者(またはパートナー)から暴力をふるわれたことがある」「出産や育児でうつ病(状態)になった時期がある」「自殺を考えたことがある」となっています。



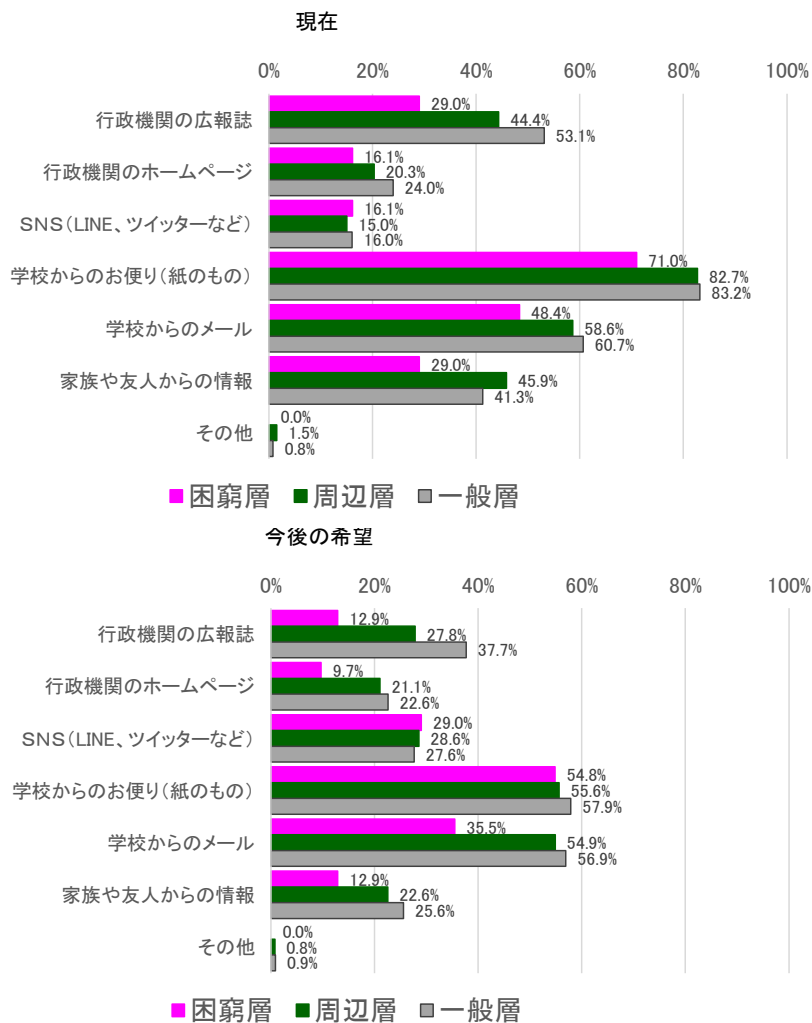
(14) 施策の周知状況

① 情報の現在の受け取り方法（小中間 47、16～17 問 45）

1) 小学生保護者

情報の現在の受け取り方法については、現在は、困窮層では「行政機関の広報誌」「学校からのお便り（紙のもの）」「学校からのメール」「家族や友人からの情報」で一般層より 10 ポイント以上低くなっています。

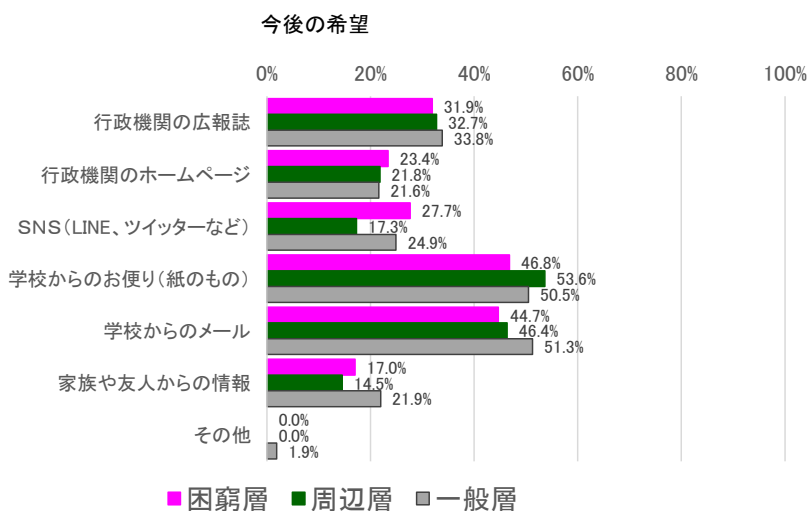
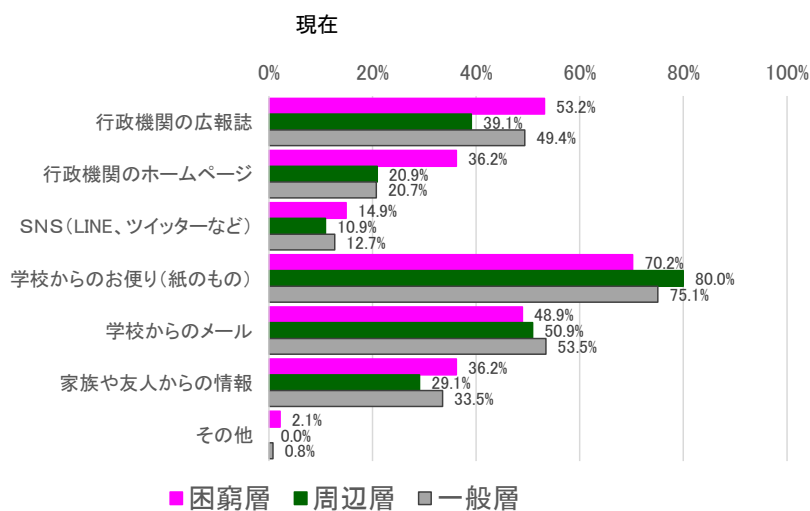
今後の希望では、いずれの分類でも「SNS（LINE、ツイッターなど）」が現在を上回っています。



2) 中学生保護者

中学生保護者では、現在は、小学生保護者と異なり困窮層では「行政機関の広報誌」「行政機関のホームページ」の割合が高くなっています。

今後の希望では、いずれの分類でも「SNS（LINE、ツイッターなど）」が現在を上回っています。

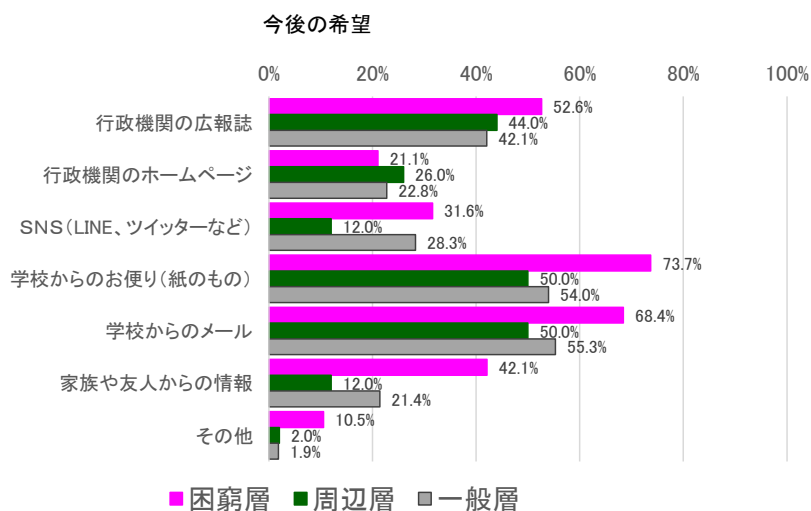
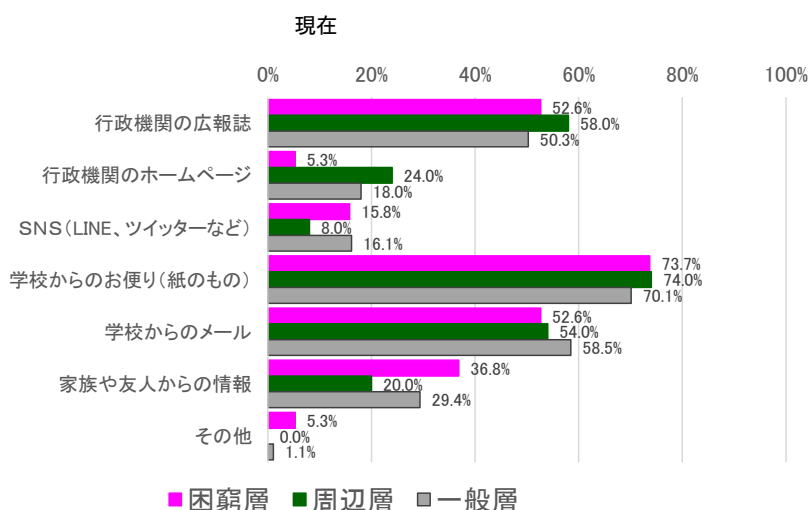


3) 16~17歳保護者

16~17歳保護者では、困窮層では「行政機関のホームページ」の割合が低くなっています。

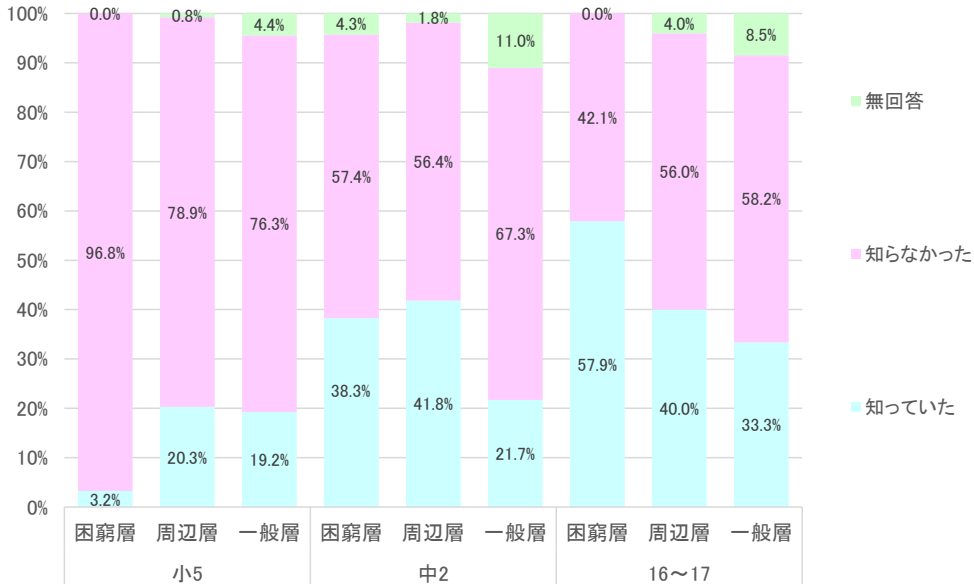
今後の希望としては、困窮層では「SNS（LINE、ツイッターなど）」「学校からのお便り（紙のもの）」「学校からのメール」「家族や友人からの情報」の割合が一般層と比較して高くなっています。

また、全体でも「SNS（LINE、ツイッターなど）」が現在を上回っています。



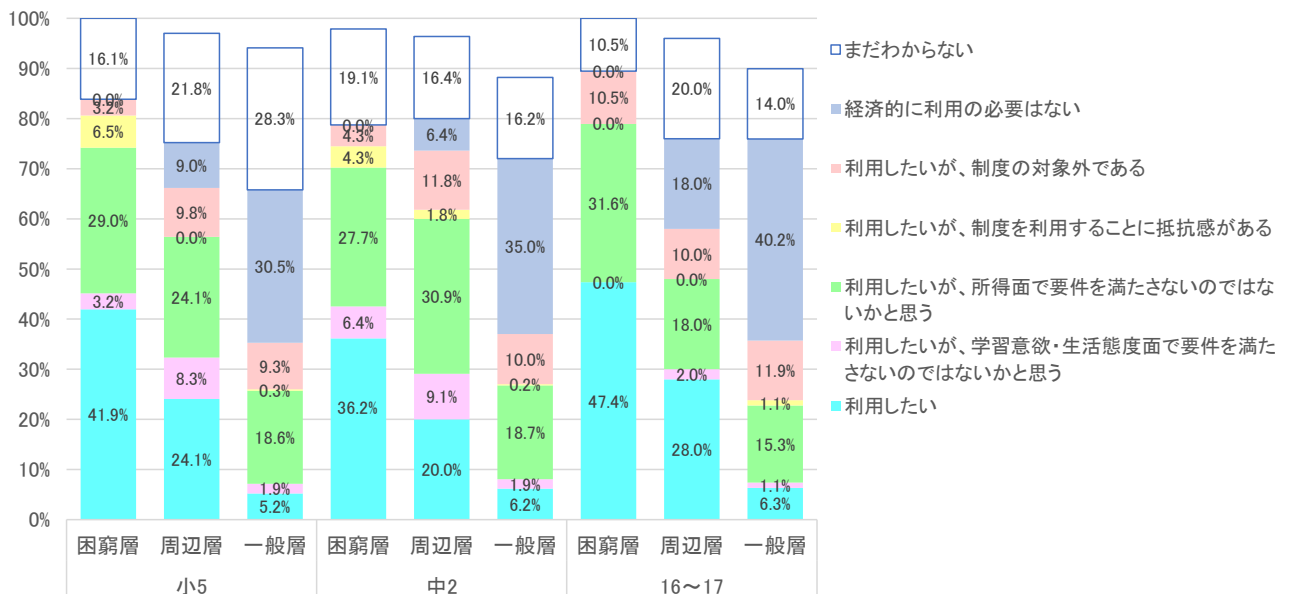
② 返済不要の奨学金の周知状況（小中間 48、16～17 問 46）

返済不要の奨学金（給付型奨学金 月額 1 万円）の周知状況は、困窮層では小学生保護者の周知度が低い反面、中学生以降で周知度があがっていきます。ところが、16～17 歳時点でも困窮層では 4 割以上の方が「知らなかった」となっています。



③ 奨学金の利用意向（小中間 49、16～17 問 47）

奨学金の利用意向は、困窮層ではいずれも「利用したい」が多くなっていますが、「利用したいが、所得面で要件を満たさないのではないかと思う」も 3 割前後と多くなっています。

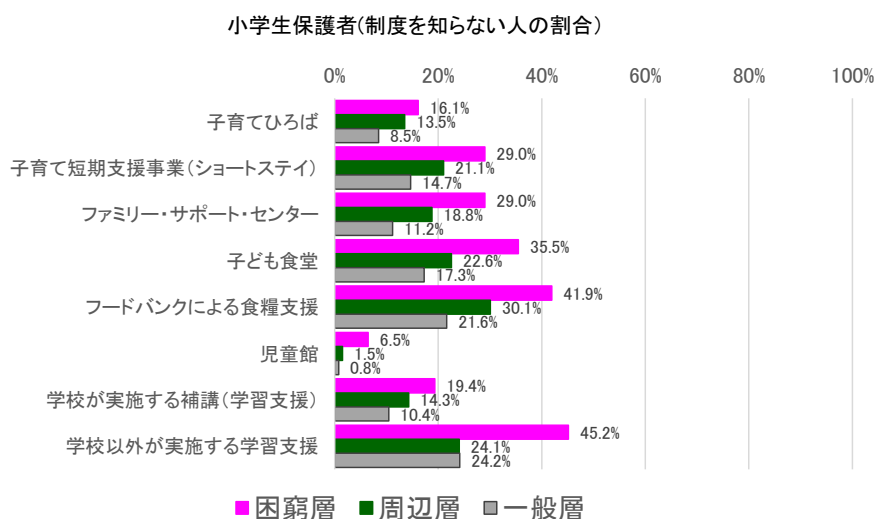
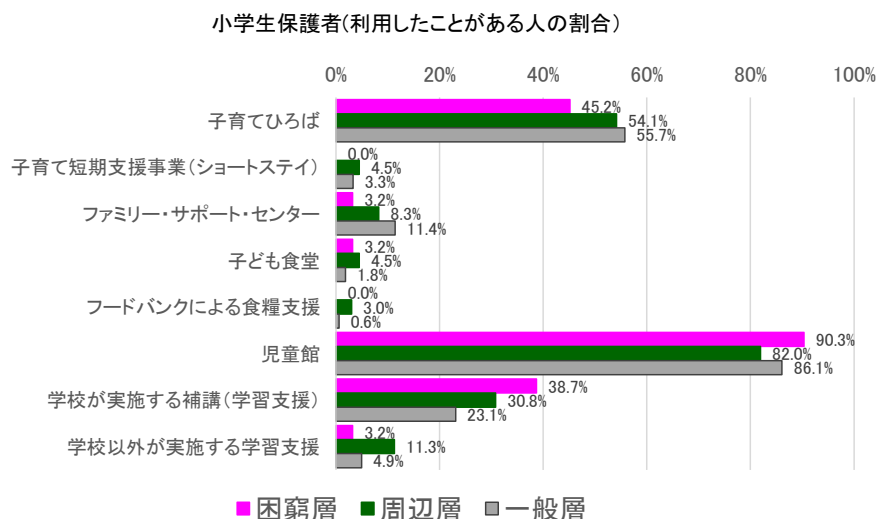


④ 各種支援制度の利用状況（小中間 50、16～17 問 48）

1) 小学生保護者

各種支援制度の利用状況は、困窮層では「児童館」「学校が実施する補講（学習支援）」は一般層と比較して多い反面、「子育てひろば」の利用は低く、特に「子育て短期支援事業（ショートステイ）」「フードバンクによる食糧支援」の利用はゼロとなっています。

また、制度を知らない人の割合をみると、困窮層では「制度を知らない」への回答が多くなっています。

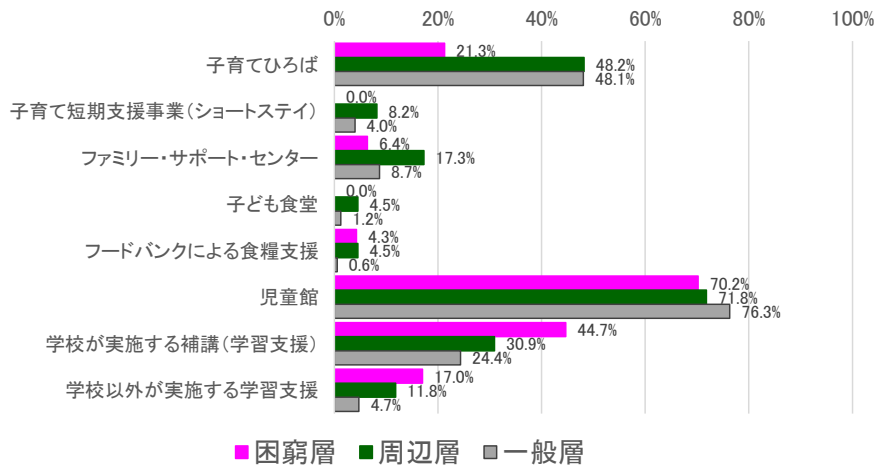


2) 中学生保護者

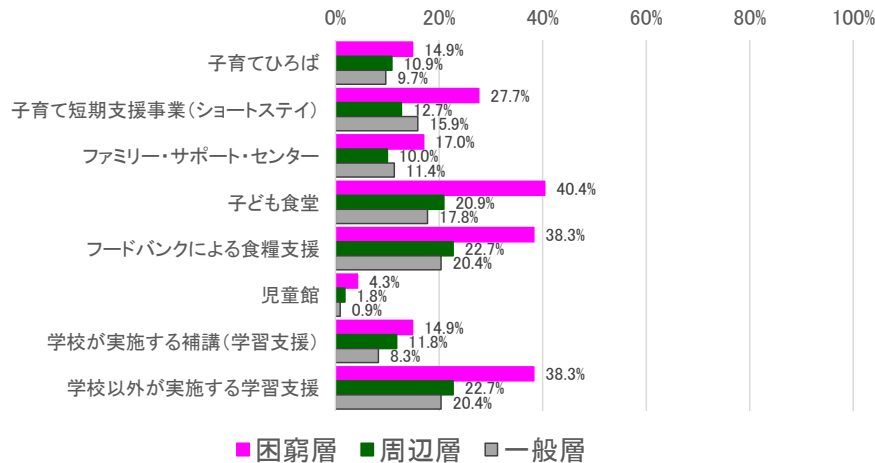
困窮層では、「学校が実施する補講（学習支援）」「学校以外が実施する学習支援」は一般層と比較して多い反面、「子育てひろば」の利用は低く、特に「子育て短期支援事業（ショートステイ）」「子ども食堂」の利用はゼロとなっています。

また、制度を知らない人の割合をみると、困窮層では「制度を知らない」への回答が多くなっています。

中学生保護者(利用したことがある人の割合)



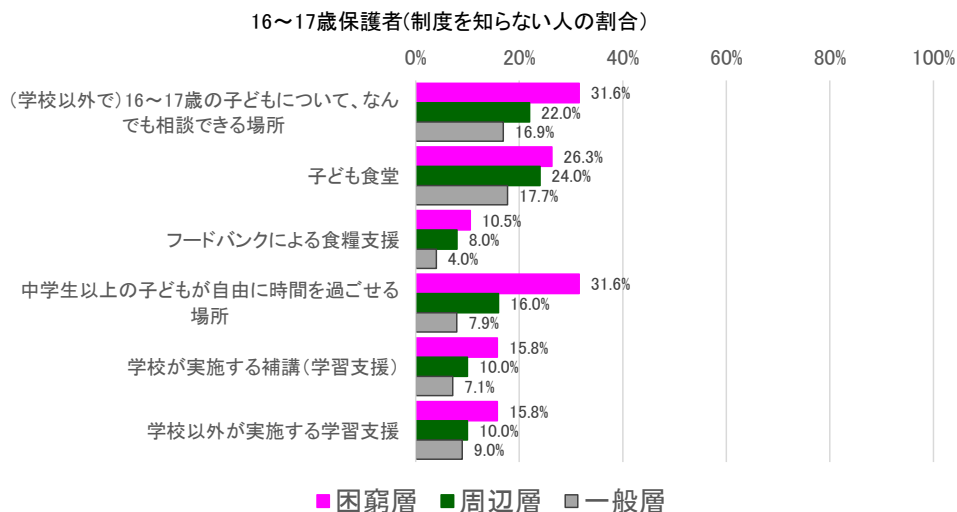
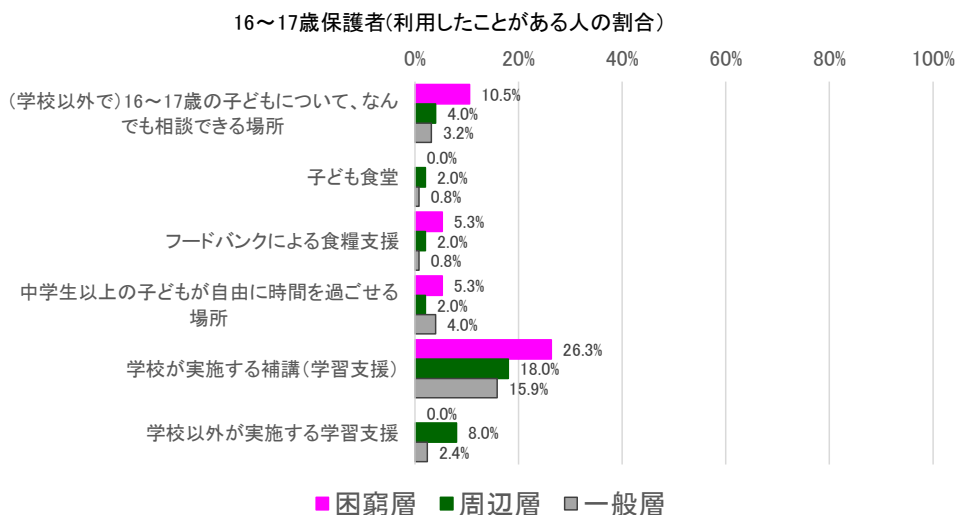
中学生保護者(制度を知らない人の割合)



3) 16～17歳保護者

困窮層では、「(学校以外で) 16～17 歳の子どもについて、なんでも相談できる場所」「フードバンクによる食糧支援」「中学生以上の子どもが自由に時間を過ごせる場所」「学校が実施する補講(学習支援)」は一般層と比較して多い反面、「子ども食堂」「学校以外が実施する学習支援」は利用がゼロとなっています。

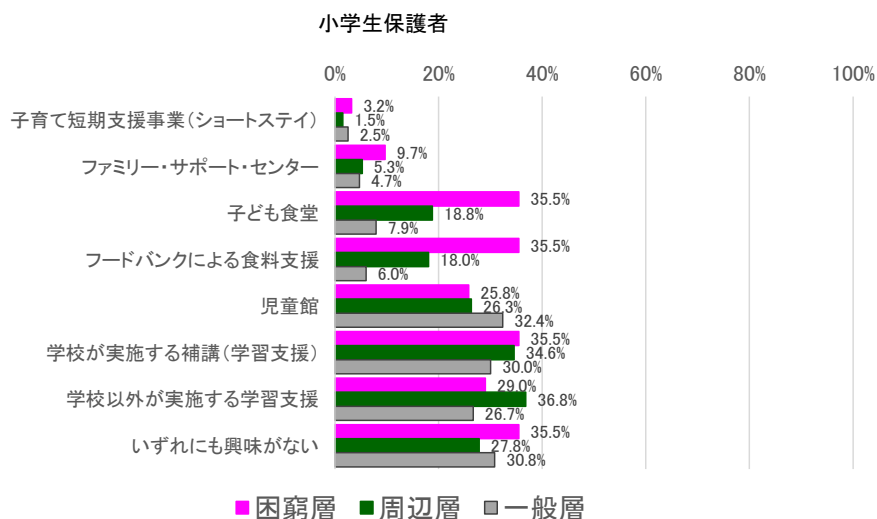
また、制度を知らない人の割合をみると、困窮層では「制度を知らない」への回答がやや多くなっています。



⑤ 各種支援制度の利用意向（小中間 50-1、16～17 問 48-1）

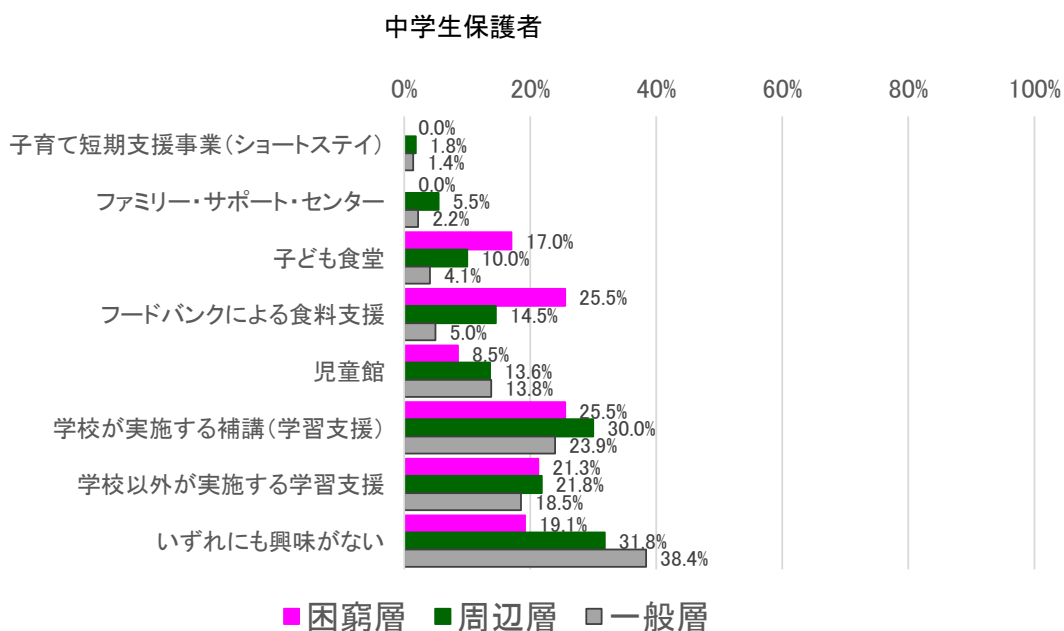
1) 小学生保護者

各種支援制度の利用意向は、困窮層では「子ども食堂」「フードバンクによる食料支援」が多い反面、「いずれにも興味がない」も一般層より高くなっています。



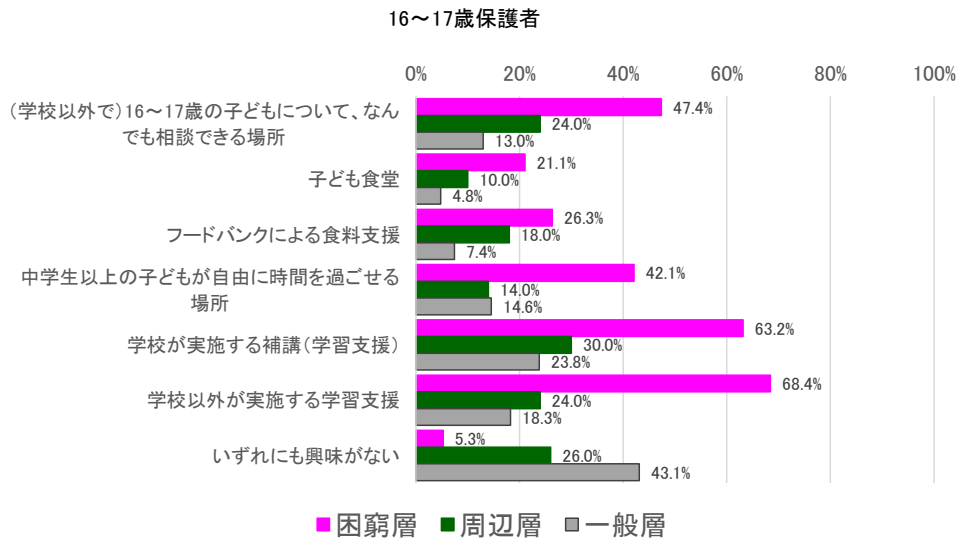
2) 中学生保護者

困窮層では「子ども食堂」「フードバンクによる食料支援」が多くなっています。



3) 16~17歳保護者

困窮層では、いずれの支援策の利用意向が高いのが特徴で、特に「学校が実施する補講(学習支援)」「学校以外が実施する学習支援」の利用意向は高くなっています。

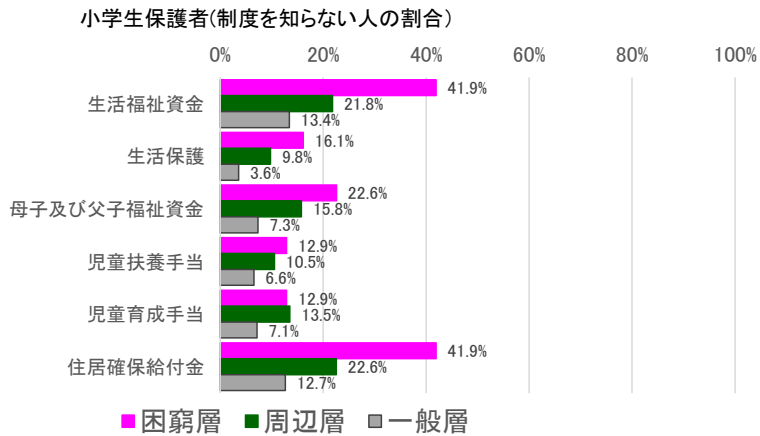
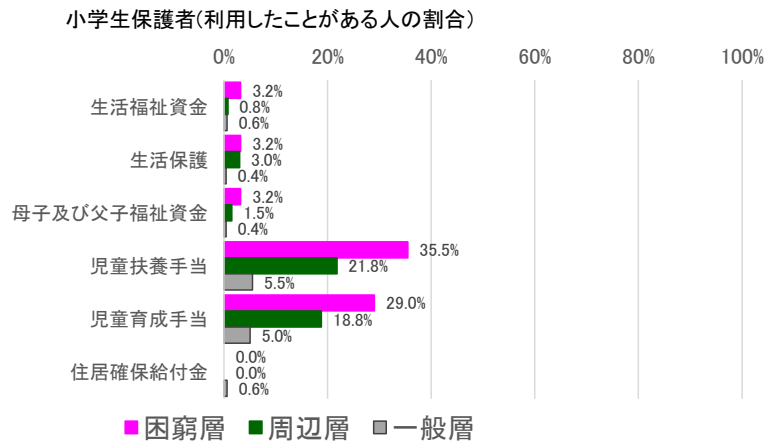


⑥ 各種支援制度の利用状況 続 (小中間 51、16~17 問 49)

1) 小学生保護者

各種支援制度の利用状況は、困窮層では「児童扶養手当」「児童育成手当」が多く、周辺層も一般層と比較して多くなっています。

また、制度を知らない人の割合をみると、困窮層では「制度を知らない」への回答が多くなっています。

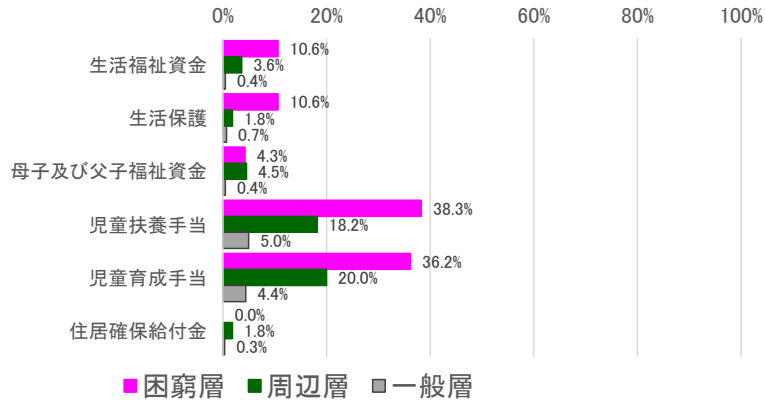


2) 中学生保護者

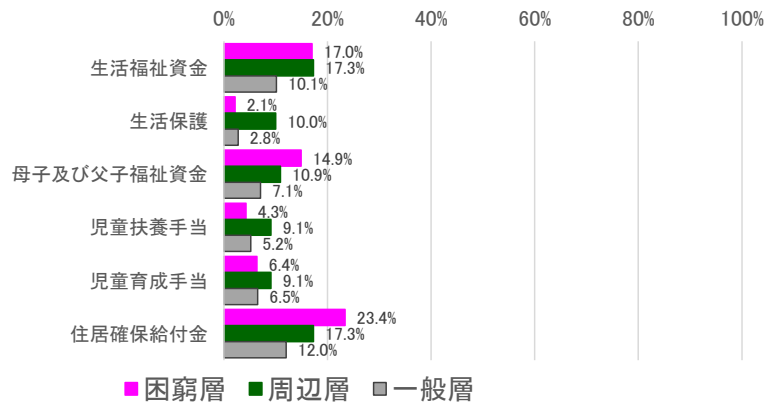
各種支援制度の利用状況は、困窮層では「生活福祉資金」「生活保護」「児童扶養手当」「児童育成手当」が多く、周辺層も「児童扶養手当」「児童育成手当」は特に一般層と比較して多くなっています。

また、制度を知らない人の割合をみると、困窮層、周辺層では「制度を知らない」への回答がやや多い項目が見られます。

中学生保護者(利用したことがある人の割合)



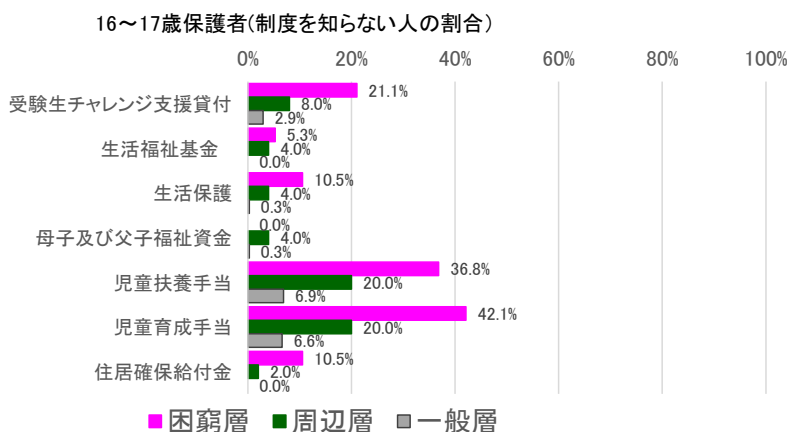
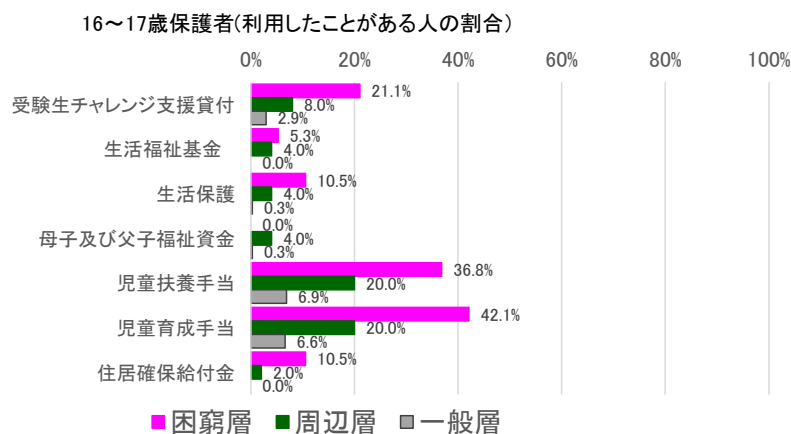
中学生保護者(制度を知らない人の割合)



3) 16~17歳保護者

各種支援制度の利用状況は、困窮層では「受験生チャレンジ支援貸付」「生活保護」「児童扶養手当」「児童育成手当」が多く、周辺層も「児童扶養手当」「児童育成手当」は特に一般層と比較して多くなっています。

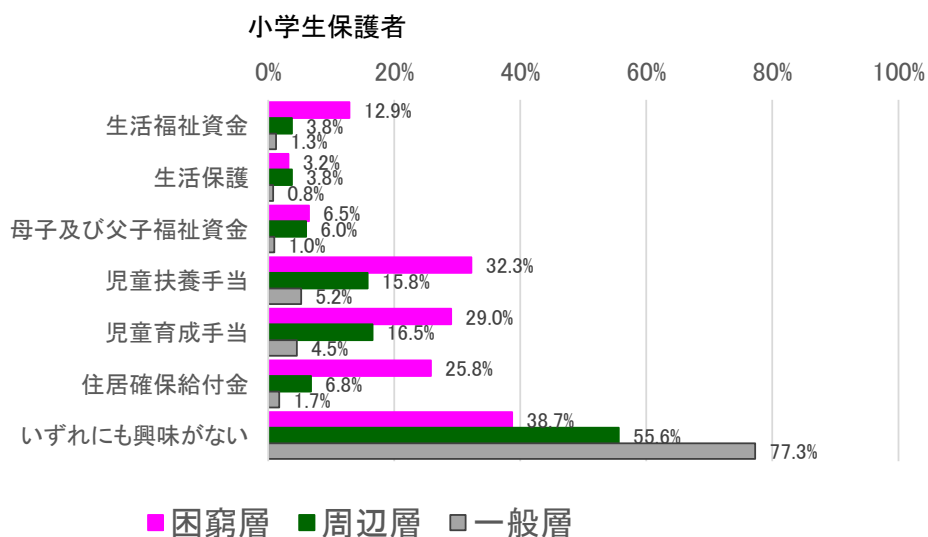
また、制度を知らない人の割合をみると、困窮層では「制度を知らない」への回答がやや多くなっています。



⑦ 各種支援制度の利用意向 続（小中間 51-1、16～17 問 49-1）

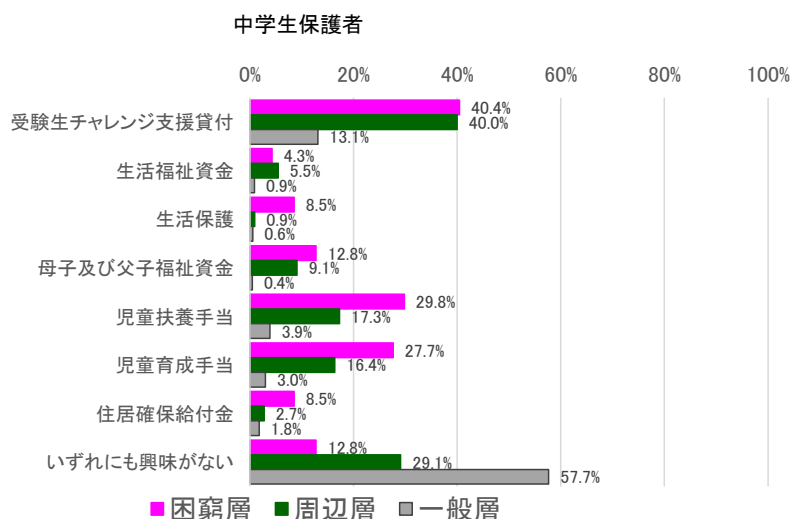
1) 小学生保護者

各種支援制度の利用意向は、困窮層では「生活福祉資金」「児童扶養手当」「児童育成手当」「住居確保給付金」の割合が多く、周辺層では「児童扶養手当」「児童育成手当」が多くなっています。



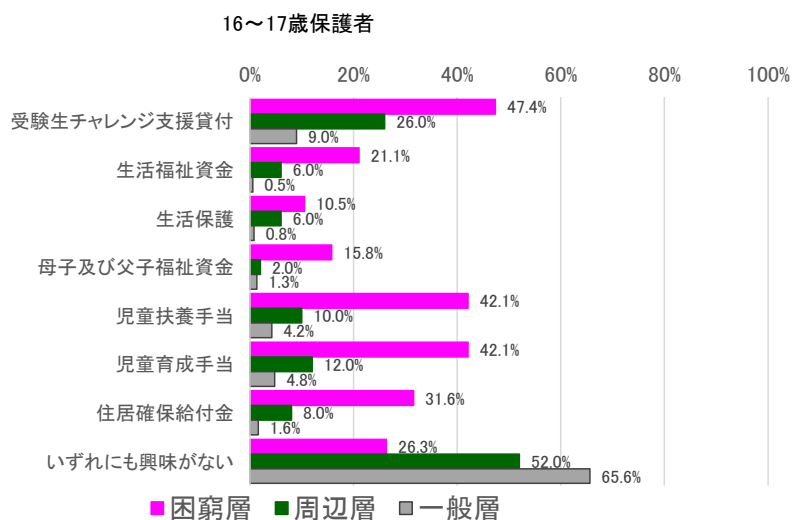
2) 中学生保護者

困窮層では「受験生チャレンジ支援貸付」「生活保護」「母子及び父子福祉資金」「児童扶養手当」「児童育成手当」「住居確保給付金」の割合が多く、周辺層では「受験生チャレンジ支援貸付」「児童扶養手当」「児童育成手当」が多くなっています。



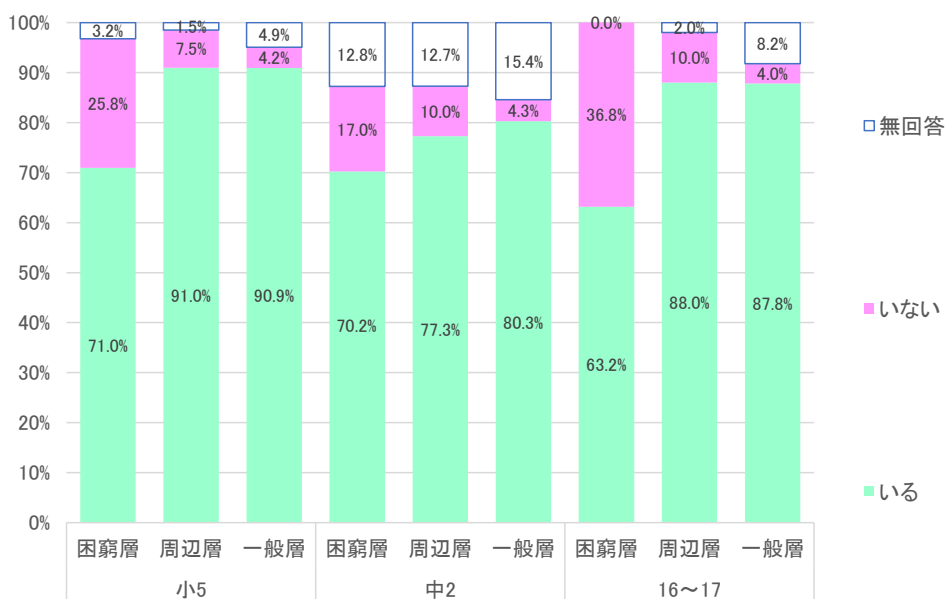
3) 16~17歳保護者

困窮層では「受験生チャレンジ支援貸付」「生活保護」「母子及び父子福祉資金」「児童扶養手当」「児童育成手当」「住居確保給付金」の割合が多く、周辺層では「受験生チャレンジ支援貸付」が多くなっています。



⑦ 相談できる人の有無（小中間 52、16~17 問 50）

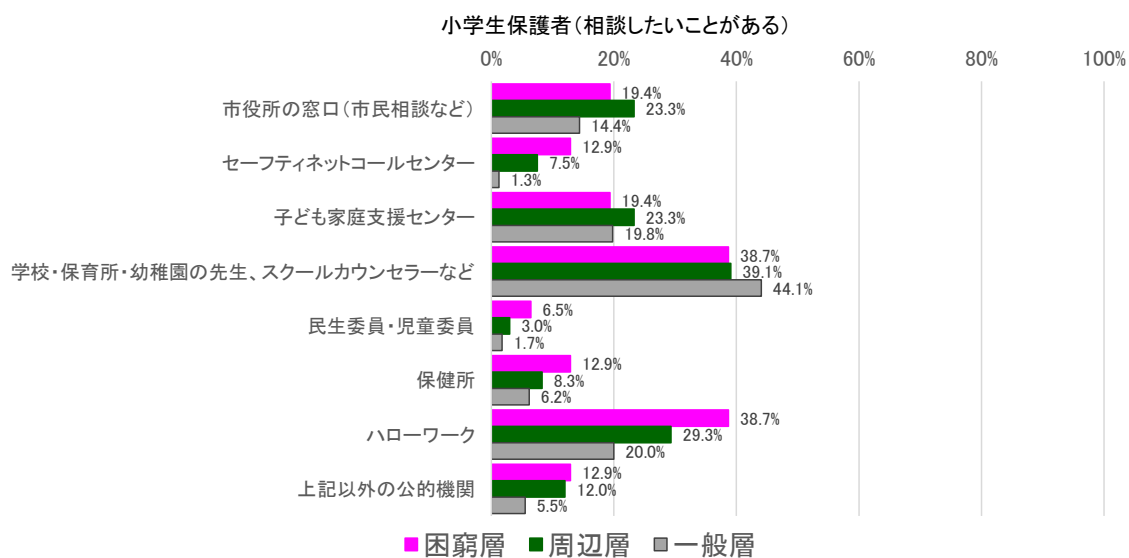
相談できる人の有無は、一般層と比較すると、困窮層では「いない」への回答が多く、特に 16~17 歳保護者では割合が多くなっています。



⑧ 公的相談の利用状況（小中間 53、16～17 問 51）

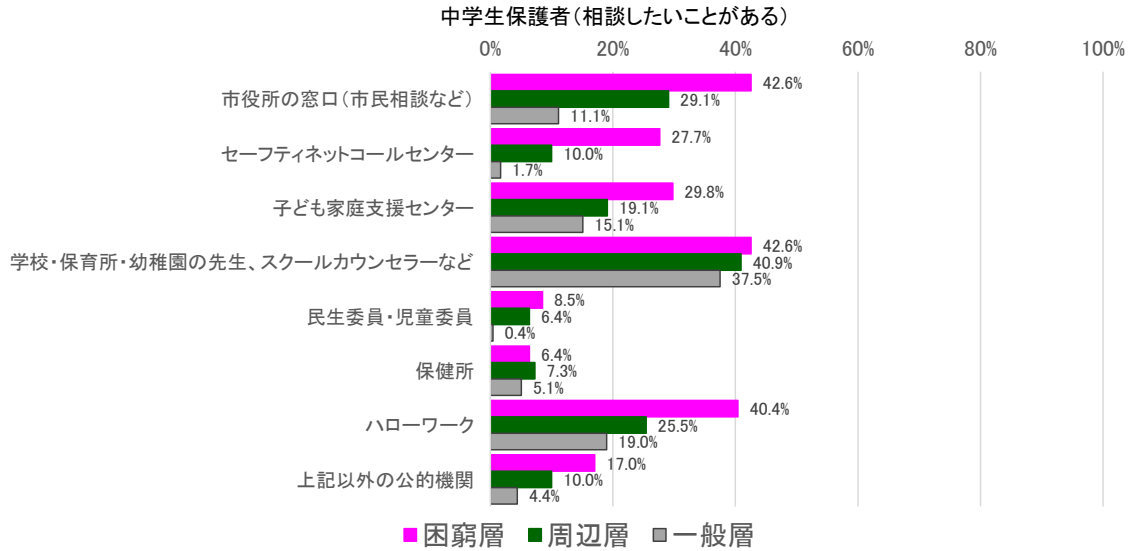
1) 小学生保護者

公的相談の利用状況は、困窮層では「市役所の窓口（市民相談など）」「セーフティネットコールセンター」「保健所」「ハローワーク」で利用が一般層と比較して多くなっています。



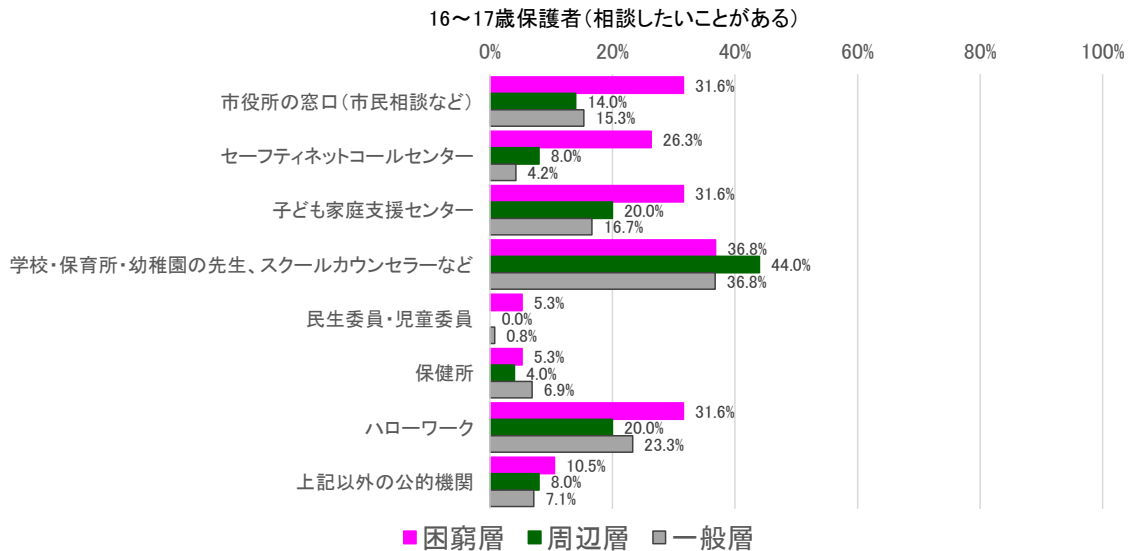
2) 中学生保護者

公的相談の利用状況は、困窮層では「市役所の窓口（市民相談など）」「セーフティネットコールセンター」「子ども家庭支援センター」「ハローワーク」「上記以外の公的機関」で利用が一般層と比較して多くなっています。



3) 16～17歳保護者

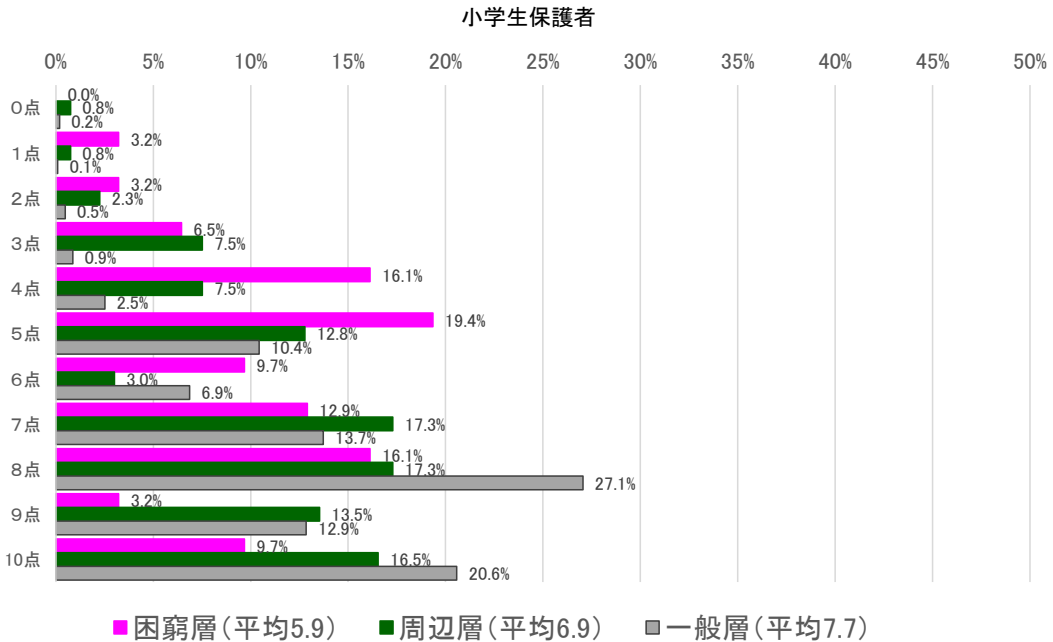
公的相談の利用状況は、困窮層では「市役所の窓口（市民相談など）」「セーフティネットコールセンター」「子ども家庭支援センター」「ハローワーク」で利用が一般層と比較して多くなっています。



(15) 幸福度 (10点満点)

1) 小学生保護者

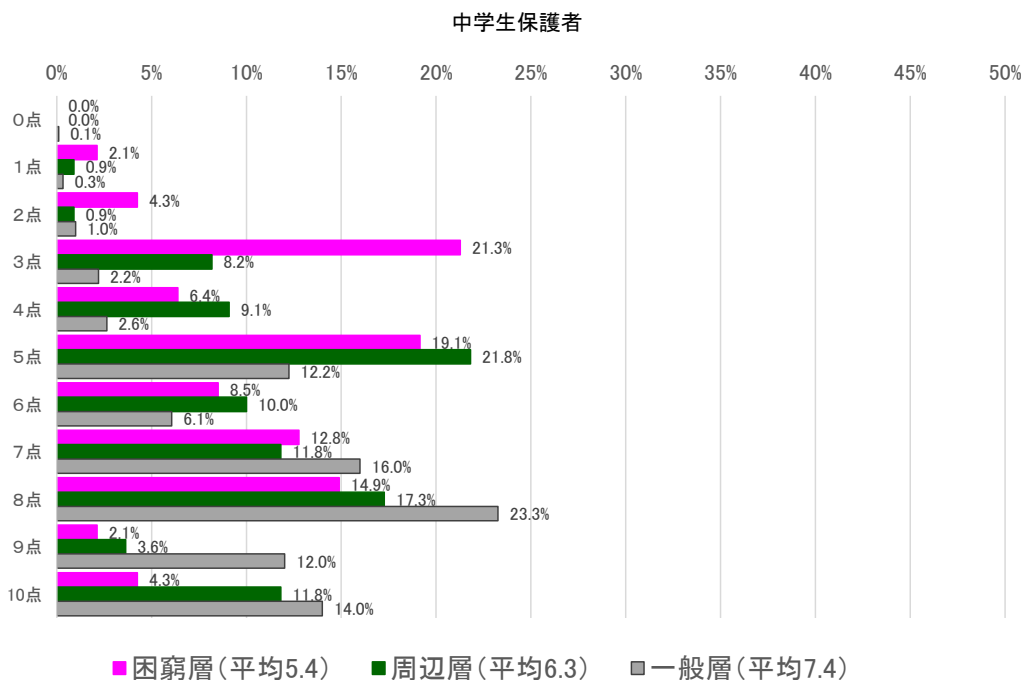
幸福度の平均は、困窮層が 5.9、周辺層が 6.9、一般層が 7.7 となっています。
特に困窮層は点数の低いところに多く分布しています。



2) 中学生保護者

幸福度の平均は、困窮層が 5.4、周辺層が 6.3、一般層が 7.4 となっており、小学生保護者より点数が全体的に低くなっています。

特に困窮層は点数の低いところに多く分布し、3 点に 21.3%と多く分布しているのが特徴です。



3) 16~17歳保護者

幸福度の平均は、困窮層が4.2、周辺層が6.3、一般層が7.3となっており、中学生保護者と比較して、困窮層は大幅に点数が下がっています。逆に周辺層、一般層の平均は中学生保護者とほぼ同じです。

特に困窮層は点数の低いところに多く分布し、0点、2点の分布が多いのが特徴です。

